

熊本大学大学院医学教育部
における組織評価
自己評価書

平成 30 年 9 月 28 日
14.大学院医学教育部

目次

I 熊本大学医学教育部の現況及び特徴	2
II 教育の領域に関する自己評価書	7
1. 教育の目的と特徴	8
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	9
3. 観点ごとの分析及び判定	9
4. 質の向上度の分析及び判定	55
IV 社会貢献の領域に関する自己評価書	56
1. 社会貢献の目的と特徴	57
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	58
3. 観点ごとの分析及び判定	58
4. 質の向上度の分析及び判定	75
V 国際化の領域に関する自己評価書	76
1. 国際化の目的と特徴	77
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	78
3. 観点ごとの分析及び判定	78
4. 質の向上度の分析及び判定	88
VI 管理運営に関する自己評価書	89
1. 管理運営の目的と特徴	90
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	91
3. 観点ごとの分析及び判定	91
4. 質の向上度の分析及び判定	110

I 熊本大学医学教育部の現況及び特徴

1. 現況

- (1) 学部等名：熊本大学大学院医学教育部
- (2) 学生数及び教員数（平成 30 年 5 月 1 日現在）
：学生数 371 人、専任教員数：現員数 165 人、助手数 0 人

2. 特徴

熊本大学大学院医学教育部は、昭和 30(1955)年度に設置された大学院医学研究科を改組し、大学院教育に特化した組織として平成 15(2003)年度に設置された。これは医学系大学院における研究と教育に対する社会と学術界からの多様かつ高度な要請に応えるために、課題対応型の教員による研究組織と、学問を体系的に伝授する教育組織を分離する理念に基づき実施され、従来「講座＝科目制」の枠より解放された教育カリキュラムの柔軟な構築と、時代が要求する人材育成への迅速な対応を可能とした。

4 年制博士課程（入学定員 88 人、収容定員 352 人）と 2 年制修士課程（入学定員 20 人、収容定員 40 人）により構成され、当初、前者は 4 専攻で後者は 1 専攻を有していた。修士課程は 4 年制大学の卒業生を対象とし、平成 14(2002)年度に設置された大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）の後身である。

その後、臨床医学の急速な発展や研究の国際的競争力の強化が臨まれる状況を鑑み、先端的な生命科学の知識を背景として新たな治療法を開発できる臨床医、医学生命科学の将来展望を見据えて新たな分野に挑戦する基礎研究者、先進医療を理解したメディカルスタッフなど、領域を越えた新たな人材育成と先端教育の実践を目的として、平成 20 年度に以下のような改組を行った。これまで基礎系、臨床系、社会医学系が分断されていた博士課程の 4 専攻体制を、定員を変えずに「医学専攻」の単一専攻体制に改組し、複数の分野が共同して研究指導する教育体制を構築した。またカリキュラムを大改訂し、次の新コースを設置した。1) エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム：国際的に活躍できるエイズの教育・研究者、医療従事者、研究志向を持つ専門医の育成、2) 発生・再生医学研究者育成コース：発生・再生医学を包括的に理解し、将来の発生・再生医療を実践する先導的な研究者および医師の育成、3) 代謝・循環情報医学エキスパート育成コース：代謝・循環器疾患の臨床病態を熟知した生命科学研究者、研究心を有する高度専門臨床医、優れた病態知識を有する疫学・保健医療専門家の育成、4) がん博士育成プログラム：「九州がんプロフェッショナル養成協議会」の協力を得た、優れたがん研究医の育成。

上記の取り組みは下記の 3 の (5) に詳述する、1) グローバル COE プログラム (GCOE) 「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」、2) グローバル COE プログラム (GCOE) 「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」、3) 組織的な大学院教育改革推進プログラム「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」、4) がんプロフェッショナル養成プラン「九州がんプロフェッショナル養成プラン及び九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、5) 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「若手生命科学研究者による国際共同研究拠点形成を目指した海外派遣計画」による支援により大きく加速され発展した。

なお教育の国際化推進のために 10 月入学制度も整え、授業は原則として英語で実施すると共に、シラバスも和文と英文で冊子体および Web 上に公開している。また平成 20～24 年度並びに 27 年度～29 年度に国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの採択を受け、多くの留学生を受入れると共に、大学院生の海外派遣を積極的に推進している。さらに社会人や遠隔地学生の講義履修を支援するために、eラーニングを普及率 69%（平成 29 年度現在）にまで整備した。また、優れた臨床研究の教育を目指して、厚労省管轄の 6 つの研究センター等および医薬品医療機器総合機構 (PMDA) と連携大学院を締結した。

平成 24 年度より、医科学学生の大学院講義の先取り履修と初期研修医を社会人大大学院生として受入れ、学部と大学院教育をシームレスに継続出来る新規教育システムとして、

文科省に採択された「柴三郎プログラム：熊本発基礎研究医養成(H24～28年度)」を実行している。また平成24年10月に、リーディング大学院プログラム「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO(H26～30年度)」の採択を受けて、アジア諸国、地方行政および民間企業と密接に連携した大学院教育を、医学教育部と薬学教育部が社会文化科学研究科と連携して行っている。さらに、大学院教育のさらなる国際化を目指して、平成29年度にタイ王国のマヒドン大学ならびにコンケン大学とダブルディグリープログラムを構築し、学生の選考、受入を行った。

これらの医学教育部の教育内容を冊子体のみならず、Web上に広く公開し広報活動に努めている。また厳格な教員資格審査と学位授与基準を設け、教育の質を保証し多くの学位授与実績を有している。

3. 組織の目的

「熊本大学大学院医学教育部規則」に明記された、現在の大学院医学教育部における組織（教育）の目的は、修士課程では「医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人」を育成することであり、また、博士課程では「医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者もしくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度専門職業人」を育成することである。なお、修士課程修了者には博士課程へ進学して、当該大学院教育の目的を極めることを期待している。

この両課程における目的を概述すると、「1）医学及び生命科学分野での研究者と教育者の育成、2）研究心を有する高度医療人の育成」に大別することができる。医学教育部が発足した平成15年度当時は、医学系大学院に対する社会の要請は、主として、目的1）にあったが、日本における疾病構造の急速な変化等に対応するため、平成17年11月の中央教育審議会答申において、2）高度医療人の育成が第二の目的として強く要請されることになり、これを医学教育部でも第二の柱と位置づけた。そして教育カリキュラムを含めた制度改革により、この第二の目的をより効果的に達成するための態勢を再構築した。

大学院医学教育部の人材育成の目的及びカリキュラムポリシーは、以下のとおりである。

(1) 修士課程

・人材育成の目的

医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。

・カリキュラムポリシー

高度な専門知識をもって医学・生命科学の分野で活躍できる研究者・教育者・専門職業人を育成するために、オムニバス形式の講義とマンツーマン教育による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図る。

1. 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる学際的な専門知識
2. 国内外でヘルスプロモーションの推進に参画できる先進医療の専門知識
3. 技術革新によってもたらされる新しい医学・生命科学にも対応できる研究能力

(2) 博士課程

・人材育成の目的

医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者または高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。

・カリキュラムポリシー

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

(3) リーディング大学院 HIGO プログラムの人材育成の目的

HIGO プログラムでは、高度の専門的知識をもち、アジア志向の国際化の展開により、アジアと地域社会の仕組みと産業界のニーズを理解できる人材の育成を目指し、下記の目標を中心に展開している。本プログラムの展開により、大学内における新たな大学院教育の改革を先導する。

- ・九州・アジアにおいてグローバルに活躍する人材の育成
- ・行政・産業界と連携した人材育成
- ・熊本大学のアジア戦略を活用した海外インターンシップ教育の充実
- ・社会文化科学にも精通する理系人材の育成

HIGO プログラムで育成される人材像として、下記を想定している。

- ・将来保健行政・医療行政・薬事行政に携わるリーダー
- ・アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー
- ・国際的（グローバル）に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー

(4) ミッション再定義を加味した医学教育部の目的の追加

平成 25 年度になされたミッションの再定義に基づき、医学教育部は従来にも増して、下記のような教育を強化することにした。

最先端の研究・開発機能の強化を推進するために、基礎および臨床研究を進め、革新的な医薬品・医療機器開発等による、我が国発のイノベーション創出を強化するための、人材育成に資する大学院教育を強化する。本学の特色である、発生医学やエイズ学の拠点機能を活かした大学院教育を推進する。

(5) 大学院教育改革を目指して採択された種々のプログラムの目的とその達成

**1) 魅力ある大学院教育イニシアティブ「エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム」
(H18～19 年度) 合計 18,400 千円**

エイズを制圧するために、基礎研究成果を基にエイズの治療薬や治療法の開発まで行う Translational Research (TR) の専門家を育成した。「エイズ制圧を目指した研究者養成コース」を新設し、国内外から大学院学生を受け入れて組織的な大学院教育を実施し、TRを推進する能力を有する研究者・エイズ専門医の育成、さらに HIV-1 などの高病原性微生物を取り扱う能力を備えた研究者を育成した。

2) がんプロフェッショナル養成プラン「九州がんプロフェッショナル養成プラン、九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン及び新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」

(第1期; H19~23年度 合計 26,347千円、第2期; H24~28年度 4,235千円
第3期; H29~34年度 未定)

日本国医師免許を有し保険医登録をしている、大学院医学教育部博士課程学生に対して、最先端のがんの研究、医療と臨床実習を共に行う教育システムを構築し実績を上げた。

3) グローバルCOEプログラム (H19~23年度)

「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」 合計1,118,597千円

からだの成り立ちや臓器の形成と修復を司る、様々な種類の細胞のもとになる細胞(幹細胞)から変化していく様子を細胞の系譜として捉える概念である「細胞系譜制御」に関する大学院教育を実現した。大学院学生、博士研究員および教員が、集い会って相乗的に能力を引き出すリエゾンラボを構築し、教育の国際化や若手人材の雇用を推進した。

4) グローバルCOEプログラム (H20~24年度)

「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」 合計1,076,146千円

日本において、グローバルな視点で研究を行う欧米諸国と並ぶレベルのエイズ学教育研究拠点を設立し、国際的に活躍できるエイズの研究者、医療従事者の体系的・組織的な育成を実現した。特に英語による授業と国際共同研究の推進により、国際化を推進した。

5) 組織的な大学院教育改革推進プログラム (H20~22年度)

「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」 合計 91,690千円

代謝・循環器医療もしくは発生医学・再生医療のいずれかに軸足を置きつつ、深く関連する両領域を俯瞰し連携させることができる臨床医・研究者・高度医療専門職業人を養成するため、上記の2つの教育コースのカリキュラムを連携させ、基礎・臨床・社会医学一体型の教育を実現した。

6) 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム (H22年3月~25年3月)

「若手生命科学研究者による国際共同研究拠点形成を目指した海外派遣計画」
合計 42,700千円

大学院学生を、海外の研究機関に派遣して国際的な共同研究を推進するとともに、海外の研究者との連携を深め、さらに海外の研究環境の良い所を修得させることにより、熊本大学における生命科学の国際的な発展を実現した。

7) 医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成 (H24年8月~29年3月)

「柴三郎プログラム: 熊本発基礎研究医養成」 合計 100,000千円

優れた基礎研究医の育成を目的として、医学部学生を科目等履修生として、大学院の講義を先取り履修することを可能とした。また、卒後臨床研修と大学院博士課程の1、2年次を並行して行えるプログラムを構築し、学部と大学院修了までの研究のシームレス化を実現している。

8) 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型 (生命健康)

(H24年10月~31年3月)

「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」 予算: 2,238,401千円

HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラムは、医学・薬学等を基盤とする健康生命科学の専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観(主にアジア)を連結した国際・地域社会(グローバル社会)における課題とニーズを捉えて、健康増進と疾病対策のために最新の知見と科学技術を活用する次世代の医療人・専門職業人を養成している。

9) 国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム

(第1期：H20年10月～25年9月)

「「エイズ」「発生・再生医学」国際的研究拠点での研究者育成プログラム」

本プログラムは、主にアジア・アフリカの発展途上国の留学生と日本人学生に、「エイズ学」および「発生・再生医学」に特化した大学院教育を実施して、優れた教育・研究者および企業人を育成することを目的とする。定員6名/年の採択を、平成20年10月～平成25年9月まで受け、30名の留学生を受け入れ、第1期生30名全員に博士の学位を授与した。

(第2期：H27年10月～29年9月)

「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」

本プログラムは、アジア・アフリカ諸国を中心とした、HIV感染症/エイズが流行している国々の留学生と日本人学生に、エイズに関する組織的な大学院教育を実施して、HIV感染症/エイズに関する先端的基礎研究やトランスレーショナル研究を推進する研究者・エイズ専門医療従事者を育成することを目的とする。定員6名/年の採択を、平成27年10月～平成29年9月まで受け、15名の留学生を受け入れた。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

熊本大学大学院医学教育部は、医学または生命科学の幅広い知識および思考力を備えた国際的研究能力を有する研究者・教育者、高い研究志向および問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的としている。修士課程および博士課程に分かれており、修士課程修了後は博士課程へ進学し一貫した教育目的達成を期待する。幅広い医学知識と先端臨床技術の習得、そして研究マインドの涵養を可能とする教育プログラムを実施し、特にグローバルな任務である「国際水準の教育者・研究者の育成」とローカルな責務である「研究マインドを持った臨床医の育成」を両立させるため、HIGOプログラムや柴三郎プログラムなどの独創性の高い数多くの人材育成プログラムを創出している。国際化を推進するためのカリキュラム改革や支援体制の整備にも力を注ぎ、多くの優秀な人材を輩出している。大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践していることが特徴である。

[想定する関係者とその期待]

在校生、卒業生からは、国際的な研究能力を身につけ、修了後には国際水準の研究者、教育者又は研究マインドを持った高度専門職業人として活躍できるようになることを期待されている。将来、医学教育部に入学を希望している高校生、大学生、若手研究者からは、医学教育部で実施されている教育内容や研究内容の説明、明確なアドミッションポリシーの設定、厳格な入学選抜試験の実施が期待されている。各研究分野、卒業生の雇用者、地域社会からは、研究の発展、高度の知識および思考力を持った人材の輩出、研究成果の社会への還元が期待されている。海外の研究者からは、海外への国際的な研究者および高度専門職業人の輩出と、外国人留学生を通じた教育・研究交流が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

国際的研究能力を有する研究者もしくは高度医療専門職業人を育成するために次のような様々な優れたプログラムの実施や向上を行った点が優れている。

1. 入学選抜方法の改革を実施することで、より国際通用性のあるシステムを構築するとともに、修士課程に社会人入試の導入、10月入学制度を拡充するなど社会のニーズに則した教育課程への改革を実施した。
2. カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの明確化を行い、eラーニングの促進など多様な学生の単位取得を支援するための体制を充実させ、連携大学院を提携し多様な教員の確保を行い、教育の質を充実した。
3. 専門分野に特化した独創性の高いプログラムとして、新たに新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランを実施した。
4. 国際社会のリーダーとして九州・アジアにおいてグローバル(グローバル+ローカル)に活躍できる行政・産業界と連携した人材を育成するため、HIGOプログラムを創出・運営し、新たな大学院教育を実施した。
5. 基礎研究医を養成するため「柴三郎プログラム：熊本発基礎研究医養成」を通じて、医学部から大学院修了まで初期臨床研修と平行して研究をシームレスに継続できるシステムを構築した。
6. 国費留学生特別枠の獲得による国費および私費留学生の積極的な受け入れや授業・シラバス・ウェブサイト情報の英語化を実施しており、国際化の一層の対応を行った。
7. 学生の積極的な学会発表および論文発表を奨励し、多くの学位授与者を社会に排出した。
8. 大学院教育改革を目指して外部資金を獲得し、学生の研究力アップと学位論文の質の向上を図ることを目的に中間審査制度を導入し、また研究の質の向上と質の高い論文発表を図るために卓越大学院制度を導入するなど、積極的な改革を実践した。
9. 海外交流協定校との間でダブルディグリープログラムを締結し、高度な専門知見・技能と国際的視野を有する高度専門職業人の養成プログラムを構築した。

【改善を要する点】

従来、積極的な外国人留学生の受け入れを実施しているにも関わらずその修了者サポートは充分とはいえなかったことを踏まえ、現在は HIGO プログラムウェブサイト内にフェイスブックを立ち上げ、在学生、卒業生及び教員との交流や情報共有を図っている。今後、全学生への支援へ広げていく体制の確立が必要となる。入学定員充足率（特に修士課程）の改善に向けた取り組みの継続が必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育の実施体制

(観点到に係る状況)

1. 教員組織編成や教育体制の工夫 (中期計画番号 3、4)

(1) 概要

医学教育部は大学院教育に特化した組織である。修士課程と博士課程があり、社会人や外国人留学生を含む学生が在籍している。大学院生命科学研究部他、複数の教員組織に所属する教員が教育を担当している(資料 A-1-1-1-1)。カリキュラムポリシーに則した講義・演習を実施し広く学際的な知識・技術の習得とともに、各指導分野でのマンツーマンの研究指導実践を実施している。

(資料 A-1-1-1-2～A-1-1-1-3)

資料 A-1-1-1-1 医学教育部の概略、専攻指導分野の表

大学院医学教育部の概要

医学教育部の教育は、医学薬学研究部（基礎医学系・臨床医学系）、発生医学研究所、エイズ学研究センター、生命資源研究・支援センター、保健管理センター、附属病院の研究分野や診療部などに所属する教員が担当します。
 博士課程はこれまでの4専攻を平成20年度より医学専攻1専攻に統一し、「国際水準の教育者・研究者」とともに「研究マインドを持った臨床医」を育成します。「エイズ制圧を目指した研究者養成コース（2種）」に加え、「発生・再生医学研究者育成コース」「がん博士育成プログラム」「代謝・循環情報医学エキスパート育成コース」がスタートしました。
 発生医学研究所を中核としたグローバルCOEプログラム『細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット』（平成19年度発足）及びエイズ学研究センターを中核とした『エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点』（平成20年度発足）も連携しています。



(出典：医学教育部ウェブサイト)

医学教育部の概略（抜粋）

■大学院医学教育部博士課程 Doctoral Course

専攻 Program	授業科目 subjects
基礎医学系 Basic Medicine	形態構築学、生体微細構築学、脳回路構造学、神経分化学、 Anatomy Histology Morphological Neural Science Developmental Neurobiology
	知覚生理学、分子生理学、分子酵素化学、病態生化学、 Sensory and Cognitive Physiology Molecular Physiology Molecular Enzymology Medical Biochemistry
社会医学系 Environmental and Sociomedical Sciences	分子遺伝学、腫瘍医学、機能病理学、細胞病理学、 Molecular Genetics Cancer Genetics and Biology Pathology and Enzymology Medical Biochemistry
	分子病理学、細胞情報薬理学、生体機能薬理学、微生物学、 Molecular Pathology Molecular Pharmacology Cell and Biological Pharmacology Microbiology
内科系 Internal Medicine and Pediatrics	免疫学、免疫識別学、分子脳科学、がん生物学、腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ Immunology Immunogenetics Molecular Brain Science Cancer Biology Medical Oncology Translational Research
	公衆衛生学、法医学、生命倫理学、臨床倫理学、臨床心理学、 Public Health Forensic Medicine Bioethics Clinical Ethics Clinical Psychology
医学専攻 Medical Sciences	レギュラトリーサイエンス Regulatory Science
	呼吸器内科学、循環器内科学、循環器先進医療学、代謝内科学、腎臓内科学、 Respiratory Medicine Cardiovascular Medicine Advanced Cardiovascular Medicine Metabolic Medicine Nephrology
外科系 Surgery	消化器内科学、血液・膠原病・感染症内科学、神経内科学、小児科学、 Gastroenterology and Hepatology Hematology Rheumatology and Infectious Diseases Neurology Pediatrics
	臨床病態解析学、生体機能評価学、放射線診断学、放射線治療医学、神経精神医学 Diagnostic Medicine Physiological Function Assessment Radiation Oncology Radiation Oncology Neuropsychiatry
発生医学研究所 Institute of Molecular Embryology and Genetics	救急・総合診療医学、保健医学、医療情報医学、循環器先進医療学 Emergency and General Medicine Health Care Science Medical Information Science Advanced Cardiovascular Medicine
	消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺内分泌外科、 Gastrointestinal Surgery Thoracic Surgery Cardiovascular Surgery Breast and Endocrine Surgery
エイズ学研究センター Center for AIDS Research	小児外科学・移植外科学、脳神経外科学、整形外科、産科婦人科学、 Pediatric Surgery and Transplantation Neurosurgery Orthopedic Surgery Obstetrics and Gynecology
	泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、歯科口腔外科学、 Urology Ophthalmology Otolaryngology Head and Neck Surgery Oral and Maxillofacial Surgery
生命資源研究・支援センター Institute of Resource Development and Analysis	皮膚病態治療再建学、侵襲制御医学、麻酔科学、臨床国際協力学 Dermatology and Plastic Surgery Regenerative and Critical Care Medicine Anesthesiology International Medicine Cooperation
	組織構築学、分子細胞制御学、腎臓発生学、脳発生学、 Cellular Interactions Molecular Cell Biology Kidney Development Brain Morphogenesis
国際先端医学研究機構 (IRCMS)	幹細胞誘導学、損傷修復学、組織幹細胞学、肝臓発生学、 Cell Modulation Cell Maintenance Cell Differentiation Pattern Formation
	多能性幹細胞学、細胞医学、染色体制御学 Stem Cell Biology Medical Cell Biology Chromosome Biology
国際先端医学研究センター (IRCAS)	エイズ学 I、エイズ学 II、エイズ学 III、エイズ学 IV、エイズ学 V、エイズ学 VI、 AIDS Research I AIDS Research II AIDS Research III AIDS Research IV AIDS Research V AIDS Research VI
	エイズ学 VII、エイズ学 VIII、エイズ学 IX、エイズ学 X、エイズ学 XI、エイズ学 XII、エイズ学 XIII、 AIDS Research VII AIDS Research VIII AIDS Research IX AIDS Research X AIDS Research XI AIDS Research XII AIDS Research XIII
国際先端医学研究センター (IRCAS)	資源開発学、RI実験学 Reproductive Engineering Radiobiology Science
	国際先端医学 I、国際先端医学 II、国際先端医学 III、国際先端医学 IV、国際先端医学 V IRCAS-I IRCAS-II IRCAS-III IRCAS-IV IRCAS-V

※印の分析は、大学院進路調査の分析です。 ※1. 国立がん研究センター ※2. 国立高度医療技術研究センター ※3. 国立循環器病研究センター ※4. 国立中央病院総合研究センター ※5. 国立循環器病研究センター ※6. 国立循環器病研究センター ※7. 国立国際医療研究センター ※8. 国立国際医療研究センター ※9. 国立国際医療研究センター

(出典：生命科学研究部概要)

資料 A-1-1-1-2 医学教育部博士課程のカリキュラムについて

博士課程のカリキュラム

組織

単一専攻制
研究者・教育者育成
研究心を持つ医療人育成



基本カリキュラム

- ・理論+セミナー 約20科目(科目制)
- ・コースワーク 2科目(科目制)
- ・実践Ⅰ,Ⅱ 約90科目(講座制)
- ・実践Ⅲ 約6科目

専門分野の人材育成プログラム

- ①エイズ制圧を目指した研究者養成コース(2種)
- ②発生・再生医学研究者養成コース
- ③がん博士育成プログラム
- ④代謝・循環情報医学エキスパート育成コース
- ⑤HIGOプログラム
- ⑥柴三郎プログラム

教育支援
eラーニング教材による遠隔授業

(出典：医学教育部ウェブサイト)

資料 A-1-1-1-3 医学教育部ウェブサイト



(出典：医学教育部ウェブサイトトップページ)

(2) 教育課程・教育方法等を検討する組織体制

医学教育部の教育課程や方法を検討する組織体制として、最終審議機関である医学教育部教授会とその下位委員会で構成されている。入学試験合格者選考、課程修了判定、学位審査等の教育に関する全ての重要事項について医学教育部教授会で審議・決定している（資料 A-1-1-1-4）。教育課程の編成、授業および研究指導担当教員、学生の入学・修了、学位の授与等に関する事項は、医学教育部大学院教育委員会において詳細な審議を行った上で、上記教授会に上程している（資料 A-1-1-1-5, A-1-1-1-6）。その他の委員会としては、大学院学生委員会、リーディング大学院運営委員会、柴三郎プログラム運営委員会、エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム運営委員会があり、適切な教育課程・方法を検討している。適宜メール会議を利用し委員の公務スケジュールに影響されない迅速審議を促進している。

資料 A-1-1-1-4 熊本大学大学院医学教育部教授会規則（抜粋）

<p>熊本大学大学院医学教育部教授会規則。</p> <p>(趣旨)。</p> <p>第 1 条 この規則は、熊本大学教授会規則(平成 16 年 4 月 1 日制定。以下「教授会規則」という。)及び<u>第 10 条の規定に基づき、熊本大学大学院医学教育部教授会(以下「教授会」という。)</u>に関し必要な事項を定める。</p> <p>(組織)。</p> <p>第 2 条 教授会は、次に掲げる者であって、医学教育部の教育を担当するもの(兼担を除く。)<u>及び医学部附属病院長をもって組織する。</u></p> <p>(1) 生命科学研究部の専任の教授。</p> <p>(2) 医学部附属病院の専任の教授。</p> <p>(3) 保健センターの専任の教授。</p> <p>(4) 発生医学研究所の専任の教授。</p> <p>(5) エイズ学研究センターの専任の教授。</p> <p>(6) 生命資源研究・支援センターの専任の教授。</p> <p>(7) 国際先端医学研究機構の専任の教授。</p> <p>(8) 生命科学研究部の併任教授。</p> <p>(9) 第 1 号から第 7 号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから選出された者 6 人以内。</p> <p>(10) 医学教育部の連携講座及びエイズ学研究センターの客員教授(以下「客員教授」という。)</p> <p>(11) 第 1 号から第 7 号までに掲げる組織の研究分野、部等(以下「研究分野等」という。)<u>で教授が配置されていないものの専任の准教授又は講師</u> 当該研究分野等ごとに各 1 人。</p> <p>2 前項第 1 号から第 7 号までに掲げる組織の研究分野等(生命科学研究部においては、併任教授が配置されている研究分野を除く。)<u>において、専任の教授に欠員が生じた場合は、当該研究分野等の専任の准教授又は講師各 1 人を構成員とする。</u></p> <p>3 第 1 項第 9 号の構成員は、同項第 11 号及び前項の構成員を兼ねることができる。</p> <p>4 第 1 項第 9 号及び第 11 号の構成員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。</p> <p>5 第 2 項の構成員の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。</p> <p>(審議事項)。</p> <p>第 3 条 教授会は、学長が教授会規則第 2 条第 2 項に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</p> <p>2 教授会は、前項に規定するもののほか、教育部長がつかさどる教育に関する次の事項について審議し、並びに学長及び教育部長の求めに応じ、意見を述べることができる。</p> <p>(1) 学生の除籍及び懲戒に関する事項。</p> <p>(2) 附属図書館医学系分館長候補者の選考に関する事項。</p>
--

(出典：医学教育部教授会規則（抜粋）)

大学院医学教育部大学院教育委員会規則

<p>(設置)</p> <p>第1条 熊本大学大学院医学教育部規則(平成16年4月1日制定)第11条第2項の規定に基づき、医学教育部に熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会(以下「委員会」という。)を置く。</p> <p>(組織)</p> <p>第2条 委員会は、医学教育部の教育を担当する次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>(1) 医学教育部副教育部長。</p> <p>(2) 生命科学研究部の専任の基礎医学系教授のうちから4人。</p> <p>(3) 生命科学研究部の専任の臨床医学系教授及び医学部附属病院の専任の教授のうちから4人。</p> <p>(4) 生命資源研究・支援センター、発生医学研究所、エイズ学研究センター及び国際先端医学研究機構の分野責任者である専任の教授、准教授又は講師のうちから3人。</p> <p>(5) 第2号から第4号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから2人。</p> <p>(6) その他委員長が必要と認めたる者若干人。</p> <p>2 前項第2号から第5号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えて在任することはできない。</p> <p>3 第1項第2号から第5号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。</p> <p>4 第1項第2号から第5号までの委員は、熊本大学医学部医学科教育・教務委員会委員と重複しないものとする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 教育課程の編成に関する事項。</p> <p>(2) 学生の入学、修了その他在籍に関する事項。</p> <p>(3) 学位の授与に関する事項。</p> <p>(4) その他教育及び研究指導に関する重要事項。</p> <p>(委員長及び副委員長)</p> <p>第4条 委員会に、委員長を置き、第2条第1項第1号の委員をもって充てる。</p> <p>2 委員会に、副委員長を若干名置き、第2条第1項第2号から第4号までの委員から、委員の互選により選出する。</p> <p>3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。</p> <p>4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。</p> <p>(議事)</p> <p>第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。</p> <p>2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。</p> <p>(開催)</p> <p>第6条 委員会は、原則として月1回定例委員会を開催する。ただし、議長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。</p> <p>(意見の聴取)</p> <p>第7条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。</p> <p>(部会)</p> <p>第8条 委員会に、特定の事項を調査審議するため、部会を置くことができる。</p> <p>2 部会に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(事務)</p> <p>第9条 委員会の事務は、生命科学系事務課において処理する。</p> <p>(雑件)</p> <p>第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。</p>

(出典：大学院教育委員会規則)

資料 A-1-1-1-1-6 大学院医学教育部規則（抜粋）

○熊本大学大学院医学教育部規則。

<p>(趣旨)。</p> <p>第1条 この規則は、熊本大学大学院学則(平成16年4月1日制定。以下「学則という。）」<u>第11条の規定に基づき</u>、熊本大学大学院医学教育部(以下「本教育部」という。)<u>の授業科目、単位、教育コース、履修方法その他必要な事項を定める。</u></p> <p>(教育上の目的)。</p> <p>第1条の2 医科学専攻(修士課程)は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。</p> <p>2 医学専攻(博士課程)は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。</p> <p>(授業科目及び単位)。</p> <p>第2条 修士課程における授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。</p> <p>2 博士課程における授業科目は、別表第2のとおりとする。</p> <p>(履修方法等)。</p> <p>第3条 修士課程の学生は、別表第1に掲げる授業科目のうちから、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>2 博士課程の学生は、別表第2に掲げる授業科目のうちから、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>3 前項の履修に当たっては、別表第3のとおり修得しなければならない。</p> <p>4 学生は、授業科目を選択する場合は、指導教員の指導を受けるものとする。</p> <p>5 開講する授業科目、単位数、授業担当教員及び授業時間は、学年又は学期の始めに公示する。</p> <p>6 授業は、講義、演習、実験若しくは実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。</p> <p>7 毎年度開講する授業科目の内容、方法及び成績評価基準等は、学年の始めに授業計画書により公示する。</p> <p>(履修科目の届出及び承認)。</p> <p>第4条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の履修届により、指定の期日までに、指導教員の承認を得て大学院医学教育部長(以下「教育部長」という。)<u>に提出するものとする。</u></p>
--

(出典：医学教育部規則（抜粋）)

(3) 専門分野の人材育成プログラム

専門性のある人材を育成するために専門分野に特化した独創性の高いプログラムを実施している。

1) グローカルな健康生命科学パイオニア養成(HIGO)プログラム(H24年度より継続中)(資料 A-1-1-1-7)

九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバルな健康生命科学パイオニアとしてのリーダーを育成するため、大学・行政・産業界が連携した大学院教育プログラムである。社会文化科学に精通した人材育成を目指し海外インターンシップも展開しているのが特徴である。

2) 基礎医学研究者育成のための柴三郎プログラム(平成 24 年度より継続中)(資料 A-1-1-1-8)

高校生の時から医学・生命科学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し(柴三郎 Jr. の発掘)、その後学部時代(プレ柴三郎プログラム)から大学院修了(柴三郎プログラム)までシームレスに研究ができる環境を与え、研究の指導・支援ができるプログラムとなっている。

3) エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム(平成 27 年度より継続中)

「エイズ制圧のためのトランスレーショナル研究者育成コース」と「エイズ先端研究者育成コース」の2つのサブコースを設置し、トランスレーショナル研究を推進する能力を有した研究者・エイズ専門医の育成と高病原性微生物を取り扱う能力を備えた研究者の育成を行う。

4) 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン(平成 29 年度より継続中)(資料 A-1-1-1-9)

九州地区の 10 大学(九州大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)が連携し、がんゲノム医療、希少がん・小児がん、ライフステージに応じたがん対策に対応できる人材を育成し、九州および日本におけるがん医療の一層の推進を図ることを目的としたプログラムとなっている。

資料 A-1-1-1-7 HIGO プログラム



(出典: HIGO プログラムウェブサイト)

資料 A-1-1-1-8 柴三郎プログラム



(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)

資料 A-1-1-1-9 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン



(出典：新ニーズに対応する九州がんプロ養成プランウェブサイト)

(4) DDPの締結

平成 29 年度より、マヒドン大学医学部、コンケン大学医学部（いずれもタイ王国）とダブルディグリー・プログラム（DDP）を締結した。また、平成 29 年 10 月と平成 30 年 4 月にそれぞれ 1 名ずつの学生がプログラムへ参加している（資料 A-1-1-1-10～資料 A-1-1-1-12）。

資料 A-1-1-1-10 DDP 在籍者数

ダブルディグリープログラム在籍者数				
入学年度	大学名	人数	合意文書 締結日	一部変更
2017.10.01	コンケン大学	1	2017.4	
2018.04.01	マヒドン大学	1	2017.3	2017.7
	合計	2		

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料 A-1-1-1-11 DDP プログラムコンテンツ（抜粋）

(Draft) Program contents regarding the double degree program (DDP) between Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University (GSMS, KU) and Medical Biochemistry and Molecular Biology Khon Kaen University (MBMB, KKU)

1. Target field of Study (Major) / Number of Students for Admission/Status

	GSMS, KU	MBMB, KKU
Field of Study (Major)	Medical Sciences	Medical Biochemistry and Molecular Biology
Maximum Number of acceptable students	2 students, in principle The number of students in this double degree program is counted separately from the number slot designated under the “Student Exchange Agreement between Kumamoto University and Khon Kaen University” concluded at University level	2 students, in principle The number of students in this double degree program is counted separately from the number slot designated under the “Student Exchange Agreement between Kumamoto University and Khon Kaen University” concluded at University level
Status in host university	regular full-time student (international students) in Doctoral Course	regular full-time student (international students) in Doctoral Course

2. Condition of Admission

Entrance Examination & Admission Timing:

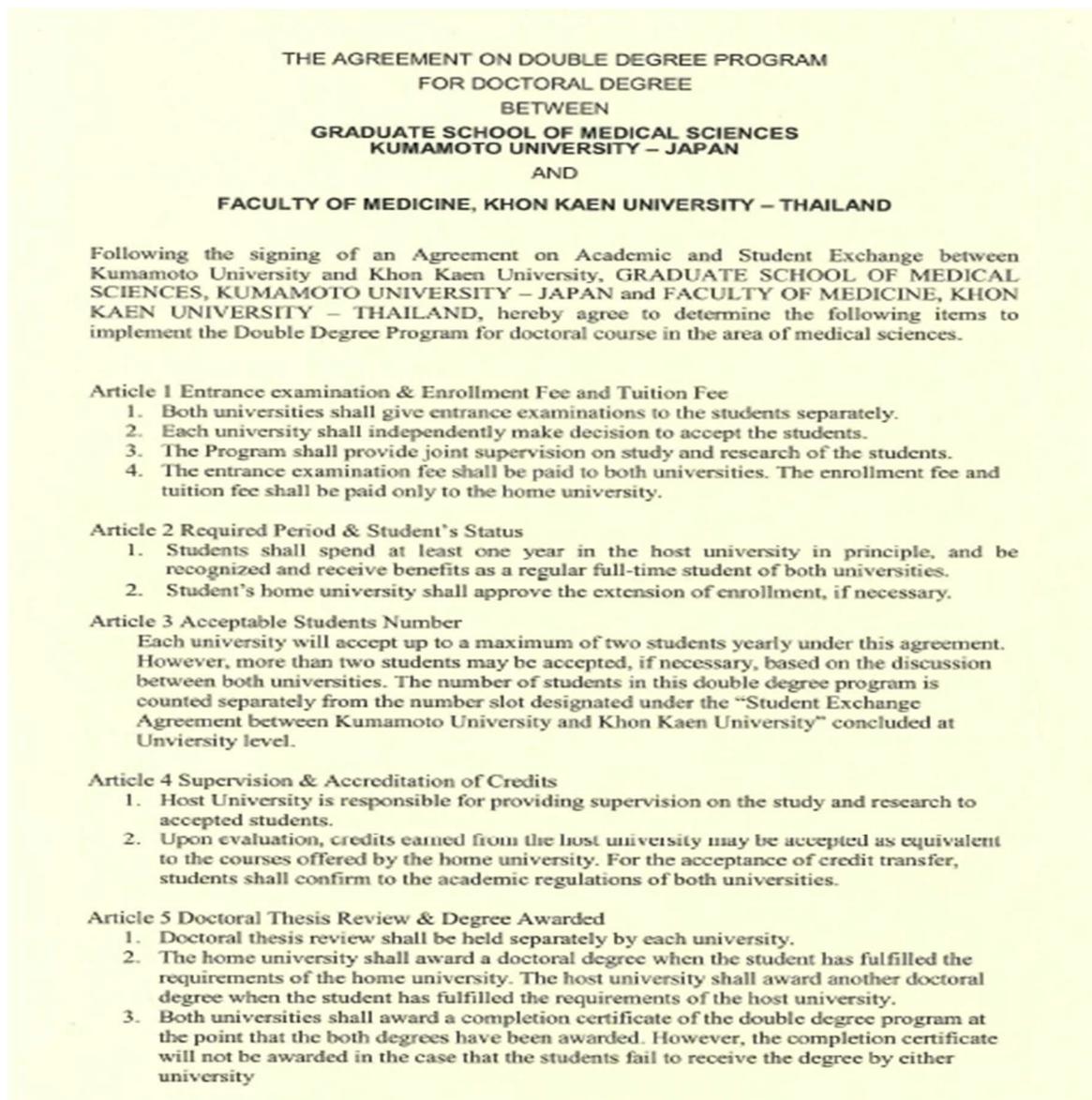
GSMS, KU : Applicants for this double degree program should follow our application guidelines for General Selection in Doctoral course and following process.

[How to apply for the entrance examination]

1. Decide a supervisor and the research department that the applicant feels interesting from the research field belongs to GSMS.
2. Ask for an overview of research from the chairperson decided in 1 after the contact (send an e-mail) to him/her.
3. Consult the chairperson of the department for details of the application forms and schedule directly after his/her acceptance.

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料 A-1-1-1-1-12 DDP 合意文書（コンケン大学）抜粋



（出典：DDP 合意文書）

2. 入学者選抜方法の工夫（中期計画番号3、4）

（1）アドミッションポリシー

アドミッションポリシーに関する入学者アンケート調査を実施している。現在、修士課程において4項目、博士課程において7項目のアドミッションポリシーを設定し入試説明会やウェブサイトで周知している（資料 A-1-1-2-1～A-1-1-2-3）。

資料 A-1-1-2-1 大学院入学者アンケート

平成29年度大学院入学者アンケート集計（医学）

Q5. 合格された研究科（教育部）のアドミッションポリシー（入学者受入方針）を知っていますか？

選択項目	人数	%
1 知らない	14	29.8%
2 知っている（読んだことはない）	11	23.4%
3 知っている（読んだことがある）	20	42.6%
4 良く知っている	1	2.1%
無回答	1	2.1%
計	47	100%

Q6. Q5で3又は4と回答した方にお尋ねします

選択項目	人数	%
1 理解できなかった	0	0.0%
2 あまり理解できなかった	0	0.0%
3 概ね理解できた	17	81.0%
4 十分理解できた	4	19.0%
計	21	100%

Q7. 現行アドミッションポリシーは求める人材像を明示していますが、学部又は博士前期（修士）課程で修得しておくべき具体的な科目や学問分野についても明示すべきかどうか、御意見を聞かせて下さい。

選択項目	人数	%
1 求める人材像に加えて、具体的な科目等も是非明示すべきである。	16	34.0%
2 求める人材像に加えて、具体的な科目等もどちらかと言えば明示して欲しい。	20	42.6%
3 求める人材像のみの明示で十分である	7	14.9%
無回答	4	8.5%
計	47	100%

Q8. 大学院の選択にあたりアドミッションポリシーを考慮しましたか？

選択項目	人数	%
1 考慮しなかった	16	34.0%
2 少し考慮した	21	44.7%
3 考慮した	9	19.1%
無回答	1	2.1%
計	47	100%

Q9. 合格された研究科（教育部）のカリキュラムポリシー（カリキュラム編成方針）及びディプロマポリシー（学位授与方針）を知っていますか？

選択項目	人数	%
1 良く知っている	4	8.5%
2 知っている（読んだことがある）	20	42.6%
3 知らない（読んだことがない）	22	46.8%
無回答	1	2.1%
計	47	100%

Q10. Q9で1又は2と回答した方にお尋ねします。

①カリキュラムポリシー（カリキュラム編成方針）及びディプロマポリシー（学位授与方針）は理解できましたか？

選択項目	人数	%
1 十分理解できた	3	12.5%
2 だいたい理解できた	19	79.2%
3 よくわからない	2	8.3%
無回答	0	0.0%
計	24	100%

（出典：入学者アンケート結果（入試課作成））

熊本大学大学院医学教育学部のアドミッションポリシー

医学教育部では、その設置理念と目的に基づき、次のような人を求めています。

修士課程（医科学専攻）

1. 医学・生命科学に興味をもち、最先端の医学・生命科学領域に対応できる研究者、教育者あるいは高度専門職業人になる能力と意欲をもった人
2. 修士課程における研究をさらに発展させるべく、博士課程に進学する意欲をもつ人
3. 博士課程に進学して、エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人になる意欲を強くもつ人
4. 博士課程に進学して、地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

博士課程（医学専攻）

1. 教育・研究を通して、将来の我が国および諸外国の医学・生命科学に貢献する能力と熱意を持つ人間性豊かな人
2. 研究を通して国内外の人々との交流を実践し、医学・生命科学の分野において世界をリードする研究と教育の展開を志す人
3. 在職中の社会人として、医学・生命科学の研究に取り組む熱意と能力を持った人
4. 医学以外の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・生命科学の教育、研究あるいは社会還元を志す人
5. エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人を強く志す人
6. がん研究とがん医療の臨床習練をともに行い、がん診療に関係する専門医あるいは認定医の資格取得を志す人
7. 地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

（出典：医学教育部ウェブサイト）

大学院入試説明会実施状況

実施年度	参加者数 (春実施)	参加者数 (秋実施)	参加者数 (その他)	参加者数 合計
27	14	11	6 (夏実施)	31
28	18	11	2 (夏実施)	31
29	13	10	20 (高専実施)	43

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

(2) 入学選抜試験の改革

修士課程では推薦入試、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試を、また博士課程では進学者選考、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試を実施している。年2回(5月、11月)の入試説明会を実施し適切な情報提供を行っている。入試に関する情報はウェブサイトにも公開しており、詳細な情報を簡便に入手できるようにしている。ウェブサイトによる合格発表も実施し受験生の利便性を図っている。平成29年度10月より、修士課程の社会人入試を開始し、多様な社会のニーズに対応した制度を整えた(資料A-1-1-2-4、A-1-1-2-5)。

資料A-1-1-2-4 入試説明会ポスター

平成29年度(10月入学)・平成30年度
**熊本大学大学院医学教育部
 修士・博士課程 入試説明会**

熊本大学
 Kumamoto University

スキルアップのチャンス!
NEW! 社会人修士課程 始動!

↑ 平成29年10月入学者より
社会人大募集! 病院等で働いている方も授業をe-learningで受講可能になります
 社会人入試の出願資格 関係機関において業務に2年以上従事していること

理学・工学・薬学・保健学などの学部生の皆さんも
 まずはお気軽に説明会へお越しください!

Chance! 当日は軽食を準備!

平成29年 **5月13日(土)** 10:30~受付
医学総合研究棟3階 講習室 (本荘キャンパス内)

スケジュール

11:00-11:30	修士課程概要と入試の説明
11:30-13:00	ポスターセッション
13:00-14:30	プレゼンテーションによる研究室紹介 ◆終了後、修士課程希望者はアンケート提出
14:30-	修士課程希望者へのオープンラボ
14:30-15:00	博士課程概要と入試の説明 ◆終了後、博士課程希望者はアンケート提出
15:00-	博士課程希望者へのオープンラボ

※本説明会に参加する研究室などの詳細については、熊本大学大学院医学教育部HPをご覧ください。
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/>

医学総合研究棟3F
 医学部附属病院
 医学部(医学科)
 本荘キャンパス

事前申込不要

お問合せ先
 熊本大学生命科学系事務課 医学事務チーム教務担当
TEL 096-373-5025 (内線5029)
 E-mail: lyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp

(出典：医学教育部ウェブサイト)

A-1-1-2-5 医学教育部社会人入試募集要項

熊本大学大学院医学教育部
医科学専攻（修士課程）
学生募集要項

（一般人試）
（社会人入試）
平成 30 年 4 月入学

（外国人留学生入試）
（社会人入試）
平成 29 年 10 月入学

《 第 1 期募集 》

出願期間	平成 29 年 7 月 25 日（火）～7 月 31 日（月）
試験日	平成 29 年 8 月 8 日（火）
合格発表日	平成 29 年 8 月 25 日（金）

熊本大学
Kumamoto University

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

(3) 入学者実績および充足率

入学者の定員に対する充足率は修士課程では 55～80%で推移している。一方、博士課程においては 86～101%と十分な学生の確保が実施できている。外国人留学生は、平成 27～29 年度には修士課程 7 名、博士課程 53 名が入学している。

（資料 A-1-1-2-6、A-1-1-2-7）。

資料 A-1-1-2-6 入学試験実施状況

過去3年間の医科学専攻(修士課程)入学試験実施状況						
入学年度	募集日程	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
27年度	推薦	7	7	6	6	0.7
	第1期	6	6	5	3	
	10月入学	2	2	2	1	
	第2期	5	5	4	4	
	合計	20	20	17	14	
28年度	推薦	6	6	6	6	0.8
	第1期	9	9	8	5	
	10月入学	2	2	2	2	
	第2期	5	3	3	3	
	合計	22	20	19	16	
29年度	推薦	3	3	3	2	0.55
	第1期	4	3	3	3	
	10月入学	1	1	1	1	
	第2期	7	6	6	5	
	合計	15	13	13	11	

過去3年間の医学専攻(博士課程)入学試験実施状況						
入学年度	募集日程	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
27年度	第1期(進学者含む)	9	9	9	7	0.88
	第2期	41	39	38	38	
	第3期	23	23	22	22	
	10月入学	4	4	4	4	
	HIGOプログラム留学生	9	8	4	4	
	ミャンマー	2	2	2	2	
	合計	88	85	79	77	
28年度	第1期(進学者含む)	10	10	10	10	0.86
	第2期	29	29	29	29	
	第3期	24	24	24	23	
	10月入学	10	10	10	10	
	HIGOプログラム留学生	4	4	3	3	
	合計	77	77	76	75	
29年度	第1期(進学者含む)	8	8	8	8	1.01
	第2期	39	39	37	37	
	第3期	27	27	26	25	
	HIGOプログラム留学生	3	3	3	3	
	10月入学(進学者含む)	15	15	14	14	
	中国国家高水平	1	1	1	1	
	中国赴	1	1	1	1	
	合計	94	94	90	89	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-1-2-7 外国人留学生（正規生）の入学数（国費・私費別）

年度	博士			修士			非正規生	
	国費	私費	計	国費	私費	計	国費	私費
H27	4	12	16	0	2	2	1	2
H28	8	8	16	0	2	2	1	3
H29	8	13	21	0	3	3	2	3
合計	20	33	53	0	7	7	4	8

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

3. 教員の質を保証するための工夫（中期計画番号3、4）

(1) 教員の体制・教員資格審査

大学院教育を担当する教員の教育能力の評価に関して、医学教育部において独自の評価システムを考案し、それに基づいて厳格に審査し、科目担当教員を十分に確保している（資料 A-1-1-3-1、A-1-1-3-2）。

資料 A-1-1-3-1 教員資格審査基準（抜粋）

大学院医学教育部を担当する教員の資格審査基準 [※]	
	平成19年8月1日 大学院医学教育部教授会承認
	一部改正 平成19年12月26日
	一部改正 平成20年3月26日
	一部改正 平成21年11月25日
	一部改正 平成23年2月23日
	一部改正 平成26年8月27日
	一部改正 平成27年12月22日
<p>大学院医学教育部を担当する教員の資格審査については、大学院教育委員会で審議して、その結果を大学院医学教育部教授会に附議し、同教授会が決定する。原則として以下の諸要件への適合性を検討し、下記2の大学院教員判定基準の(1)～(6)、または(7)を目安にして判定する。なお、本基準については、平成19年度から初めて適用するため、今後、必要に応じて修正できるものとする。また、審査過程で審議した重要な事項については記録して、覚書として残すものとする。</p>	
1. 要件。	
(1)	専門分野に関する博士の学位を有すること。
(2)	専門分野に関する学術論文を継続的に発表していること。
(3)	教育・研究・診療に関連した外部獲得資金等を相応に獲得していること。
(4)	大学教員あるいは国公立・民間研究所の職員として一定期間以上の教育・研究経験を有すること。（大学院、学部、短期大学での科目担当経験ほか、および国公立・民間研究所における研究業務等について申請者ごとに個別に判定する。なお、特任教員や非常勤教員等としての教育・研究経験も評価の対象とする。）
(5)	専門分野の教育・研究に関連した高度の知識、特殊な技術・技能や資格を有すること。
(6)	専門診療分野に関連した専門医を取得するなど、高度の診療技術を有すること。
(7)	学術研究に関連した知的財産を所有していること。
(8)	専門分野の学会、研究会あるいは学術集會等において、重要な学術的あるいは社会的な貢献をしていること。
(9)	教育・研究・診療において国際交流を通じて、国際的な貢献をしていること。
2. 大学院教員資格の判定基準。	
(1)	D（博士課程）およびM（修士課程）ともに、「○合」判定は講師、准教授ならびに教授に対してのみ行い、助教と助手は対象としない。
(2)	「D○合」の判定基準については、『4. 「D○合」の判定基準について』で詳細に規定する。
(3)	「D合」は、上記「要件」の(1)を満たし、他の3要件以上を満たしていること。
(4)	「D可」は、上記「要件」の(1)を満たし、他の2要件以上を満たしていること。
(5)	「M○合」は、上記「要件」の(1)、(2)および(3)のすべてを満たし、他の2要件以上を満たしていること。
(6)	「M合」は、上記「要件」の(1)を満たし、他の2要件以上を満たしていること。

（出典：医学教育部教員資格審査基準）

資料 A-1-1-3-2 専任教員一覧（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学部等名	学科・専攻等名	専任教員数		職名						設置基準 上必要専 任教員数	別掲(大学院のみ)			
		性別	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	みなし専任		研究指導教員		研究指導 補助教員	合計
											教授			
医学教育部 (修士課程)	医科学専攻	男	53	39	25	25	0	142	12	78	48	53	131	
		女	1	5	0	9	0	15		3	1	11	14	
医学教育部 (博士課程)	医学専攻	男	59	40	25	25	0	149	60	81	52	61	142	
		女	1	5	1	9	0	16		3	1	10	13	

(出典：共通様式調査)

(2) 教員の教育力向上・専門性向上のための工夫

教員の教育力向上および専門性向上のために、大学院教育 FD 講演会を毎年実施している。大学院セミナーは医学教育部における教員の FD の一環として位置づけられ、各教員は年 2 回以上出席するように広く周知している。優秀な教育活動を実施している教員に対して教育活動表彰者として推薦し、教育活動の活性化を促進している。平成 27～29 年度には 2 グループ（9 名）、1 個人の教員の表彰が行われた（資料 A-1-1-3-3～A-1-1-3-5）。

資料 A-1-1-3-3 大学院 FD セミナー実施一覧

FD セミナー一覧					
年度		教職員	学生	計	備考
27	Photoshop による研究画像の処理スキルに関して	31	9	40	
28	医学修士課程の運営における岡山大学医学部の取り組み	15	9	24	
29	画像不正と疑われないための画像処理 (2017 年版)	28	22	50	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-1-3-4 大学院セミナー教員参加者数

大学院セミナー 教員出席数

	H27	H28	H29	合計
医学・生命科学セミナー	5	22	65	92
名医に学ぶ	40	18	57	115
合計	45	40	122	207

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-1-3-5 教育活動表彰推薦要領、表彰者一覧

大学院医学教育部における教育活動に関する表彰者の推薦要領について	
1. 被推薦者あるいはグループの決定	下記の要領で推薦された教員あるいはグループの中から、大学院教育委員会で1名の教員またはグループを選考し、大学院医学教育部教授会に付議する。
2. 表彰候補者の推薦方法	<p>1) 対象者：教育活動表彰実施要領に準ずる。対象者は個人でもグループでも可とする。表彰の対象としては、大学院学生に対する卓越した研究指導（優れた学位論文・関連論文の作成指導など）、大学院教育改革（グローバル COE、リーディング大学院など）、大学院教育 G P 活動、大学院教育 F D 活動、その他の大学院教育活動において、優れた貢献をした教員あるいはグループとする。</p> <p>2) 表彰区分（どちらかを選択）</p> <p>①一般表彰</p> <p>②若手表彰（概ね35歳以下の者）</p> <p>3) 候補者の推薦は、以下のいずれかによるものとする。</p> <p>① 大学院医学教育部を担当する各分野の長は、連続する2事業年(度)における大学院医学教育部における教育活動について、表彰の対象になるような取り組みがある場合に、別紙に示す所定の用紙に、その内容を記載し、大学院教育委員会に候補者を自薦あるいは他薦を問わず、推薦することができる。</p> <p>② 大学院教育委員会委員は、表彰の対象になるような取り組みに対して所定の用紙に、その内容を記載し、候補者を推薦することができる。</p> <p>4) 申請書・推薦書の提出先</p> <p>熊本大学 生命科学系事務ユニット 医学系総務・人事担当</p> <p>【内線】5659 【FAX】5797</p> <p>【E-mail】ski-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp</p>

(出典：大学院医学教育部における教育活動に関する表彰者の推薦要領)

年度	表彰区分	表彰者	表彰概要
27	一般表彰	久恒昭哲、梅田香穂子、石田聖、谷川俊祐、倉内祐樹 (HIGOプログラム特任教員)	H I G Oプログラムへの貢献
	入賞		
28	募集無し		
29	若手表彰 奨励賞	盧 溪、HARI PRASAD DEVKOTA、大浦 華代子、田辺 寿一郎 (HIGOプログラム特任教員)	熊本大学博士課程教育リーディングプログラム (グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO) への貢献
	一般表彰 入賞		
		岡田 誠治 教授	ダブルディグリープログラム (DDP) 制度構築への貢献

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(3) 連携大学院の推進

多様な教員を確保するため、学外機関と大学院連携講座を締結している。平成 25 年度までに 6 機関 8 分野を実施し、そのうち平成 22～25 年度に新たに締結した講座は 3 機関 4 分野である。平成 25 年度までに 16 名の客員教授および准教授が着任している。さらに平成 26 年 4 月より医薬品医療機器総合機構 (PMDA) との連携大学院を実施している。

(資料 A-1-1-3-6)

資料 A-1-1-3-6 連携大学院データ

医学教育部における大学院連携講座一覧				
分野名	連携先機関名	開始年月	客員教授	客員准教授
臨床国際協力学	国立病院機構熊本医療センター	H18.4	1	1
生体機能評価学	国立水俣病総合研究センター	H20.4	0	2
循環器先進医療学	国立循環器病研究センター	H24.4	3	1
エイズ学IX	国立国際医療研究センター	H19.4	1	0
エイズ学X	国立国際医療研究センター	H19.4	1	0
エイズ学XI	国立感染症研究所	H24.4	1	0
エイズ学XII	国立感染症研究所	H24.7	0	1
腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学	国立がん研究センター	H25.4	4	0
レギュラトリーサイエンス学	医薬品医療機器総合機構 (PMDA)	H26.4	0	0

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

4. 大学院教育改革のための外部資金獲得 (中期計画番号 3、4)

大学院教育改革を目指して、「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン(平成 29 年度～)」、「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成(平成 24 年度～28 年度)」、「博士課程教育リーディングプログラム複合領域型(平成 24 年度～30 年度)」、などの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

大学院教育の実質化とともに専門分野の人材育成プログラムを実施しており、HIGO プログラム、柴三郎プログラム、九州がんプロコースを創出・運営し、国際水準の教育者・研究者の育成を大きく推進した。また、社会人入試制度の導入をはじめ入学選抜試験の改革により国際通用性のあるシステムを構築した。さらに、連携大学院の提携推進を通して多様な教員の確保を行うなど、教育の質の向上を行った。また、海外交流協力校との間で DDP を締結し、高度な専門知見・技能と国際的視野を有する高度専門職業人の養成プログラムを構築した。大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。

観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

1. 教育課程の編成状況と工夫

医学教育部では、これまでに修士課程および博士課程のそれぞれにカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを設置し、大学院修了要件明確化に取り組んできた(資料 A-1-2-1-1、A-1-2-1-2)。さらに平成 28 年度より、博士課程学生に対する中間審査制度を導入した。本制度は中間期(2 年次)の博士課程大学院生に、研究計画、結果および研究経過などについて発表してもらい、その発表に対して様々な分野の審査委員から研究の質の改善のための具体的かつ建設的な助言を行うものである。これにより、博士課程大学院生の研究力アップと学位論文の質の向上を図ることを目的に実施している。(資料 A-1-2-1-3、A-1-2-1-4)

資料 A-1-2-1-1 ディプロマポリシー(抜粋)

修士課程

		人材育成の目的	卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
教育部全体			
修士課程	医科学専攻	医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。	<p>1.学位授与の要件</p> <p>当該課程の標準修業年限2年以上在学し、所定の単位(必修25単位、選択5単位、合計30単位以上)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>修士論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合否が決定される。</p> <p>修士論文の審査基準</p> <p>1. 研究の背景と目的、実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む論考等について十分な論述がなされていること。</p> <p>2. 修士論文の作成要領にしたがって作成されていること。</p> <p>最終試験は、口頭試問(公開発表)により行い、以下の基準により評価する。</p> <p>1. 研究の内容について十分に理解し説明できること。</p> <p>2. 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。</p> <p>3. 当該研究分野に関する専門的な知識を有すること。</p> <p>4. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。</p> <p>2.修得すべき知識・能力</p> <p>1.高度な専門的知識・技能及び研究力</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学・生命科学に関する専攻分野の専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。 医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について、基本的な研究手法を習得し、適切な研究計画を立案し、研究結果を正しく解釈できる。 <p>2.学際的領域を理解できる深奥な教養力</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎医学、臨床医学、社会医学に関する普遍的な知識を持っている。 生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する普遍的な知識を持っている。 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決するための方法を立案できる。 <p>3.グローバルな視野と行動力</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルな視野から医学・生命科学に関する国際的な研究活動の推進に参画できる。 環境、保健、医療制度に関する知識とグローバルな視野を持ち、国際的なヘルスプロモーションの推進に参画できる。 <p>4.地域社会を牽引するリーダー力</p> <ul style="list-style-type: none"> 修得した医学・生命科学の専門知識を活かして、地域の環境・健康・医薬品産業などの推進を牽引できる。

<p>博士課程</p>	<p>医学専攻</p>	<p>医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。</p>	<p>1.学位授与の要件</p> <p>当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>学位申請には、学位論文(Thesis)と、本人が筆頭(第1)著者となっている関連論文1編以上の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。</p> <p>学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合格が決定される。</p> <p>学位論文(Thesis)の審査基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単なる関連論文の写しや邦訳ではなく、研究の基礎となった文献の事実を含む研究の背景、研究の目的と基本的な戦略、詳細な実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む深い論考、研究の意義等に関する総括等について十分な論述がなされていること。 2. 学位論文の作成要領にしたがって作成されていること。 <p>関連論文の認定基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学教育部が定める「学位申請のための欧文雑誌」に登録された雑誌に掲載された欧文論文であること。 2. 学位論文(Thesis)に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。 3. 学位申請者が筆頭(第1)著者であること。申請者と他研究者とのequal contributionによる共著論文にあっては、論文中にそのことが明記されていれば共に第1著者とみなす。ただし、次項に定める場合を除き、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位申請のための関連論文とすることはできない。 4. 申請者と他研究者とのequal contributionによる共著論文であって、論文が掲載された学術誌のImpact Factor(IF)を共同第1著者の数で除した数値が、5.0以上の場合、あるいは当該研究分野の上位10%にランキングされている学術誌に掲載されている場合、既に他の第1著者が関連論文として学位を取得しているも、学位申請のための関連論文にすることができる。 5. 関連論文における学位申請者の所属として、熊本大学が記載されていること。 6. 関連論文における共著者または謝辞に、熊本大学大学院医学教育部の研究指導者が含まれていること。 7. Short communicationの類を関連論文にする学位申請者は、投稿論文を事前に医学事務チーム教務担当へ提出すること。その後、内容について、大学院教育委員会が事前審査を行い、可否を決定する。 <p>学位申請のための欧文雑誌の登録基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。 2. 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。 3. 上記の条件を満たせばオンライン形式の雑誌でも構わない。 <p>最終試験は、口頭試験(公開発表)により行い、以下の基準により評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の内容について十分に理解し説明できること。 2. 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。 3. 研究の将来的な展望について論述できること。 4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。 5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
			<p>2.修得すべき知識・能力</p> <p>1.高度な専門的知識・技能及び研究力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学・生命科学に関する専攻分野の高度で専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。 ・医学・生命科学に関する専攻分野の主要な研究手法について習得している。 ・医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について到達目標を設定し、適切な研究計画を立案・実行でき、適切な判断力と洞察力をもって自律的に研究を進展できる。 <p>2.学際的領域を理解できる深奥な教養力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学・生命科学に関する広い領域について高度な知識を持っている。 ・生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する高度な知識を持っている。 ・医学・生命科学の最先端の知見を吸収し専攻分野に応用する柔軟な発想を持っている。 <p>3.グローバルな視野と行動力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学・生命科学に関する研究成果をもとに英文原著論文を執筆し国際学術雑誌に報告できる。 ・医学・生命科学に関する研究成果について国際学会等で発表できる。 ・国内外の研究者等とのコミュニケーションを通じて共同研究等を企画・実践できる。 <p>4.地域社会を牽引するリーダー力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進医療に関する高度で専門的な知識及び技術を持ち、地域における最先端の医療を牽引できる。 ・トランスレーショナル研究、臨床研究および治験に関する高度で専門的な知識を持ち、医療技術開発を牽引できる。 ・環境・社会医学に関する高度で包括的な知識と技術を持ち、地域の健康増進と医療福祉を牽引できる。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 A-1-2-1-2 カリキュラムポリシー

熊本大学大学院医学教育部修士課程のカリキュラムポリシー

高度な専門知識をもって医学・生命科学の分野で活躍できる研究者・教育者・専門職業人を育成するために、オムニバス形式の講義とマンツーマン教育による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図ります。

1. 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる学際的な専門知識
2. 国内外でヘルスプロモーションの推進に参画できる先進医療の専門知識
3. 技術革新によってもたらされる新しい医学・生命科学にも対応できる研究能力

熊本大学大学院医学教育部博士課程のカリキュラムポリシー

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図ります。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

(出典：医学教育部ウェブサイトより)

資料 A-1-2-1-3 博士課程中間審査

中間審査について

平成28年度より、博士課程学生を対象とした中間審査を実施いたします。

中間審査の実施要項、様式等について下記のとおりお知らせしますので、ご確認ください。なお、対象者は平成27年度以降に入学した博士課程2年次の学生です。

平成30年度以降の学位申請の要件に中間審査の項目が追加されましたので、必ず期限内に中間審査を実施し、速やかに研究提案書を提出して下さい。（ただし、エイズ特別コースの学生及び平成27年度以前の入学者を除く）

1. 中間審査の実施要項 (PDF)
2. 中間審査フロチャート(PDF)
3. 中間審査申請書 (word)

※申請書を作成したら電子メールにて、件名を「中間審査：○○○○(氏名)」とし、本文に「氏名」、「研究題目」を記載のうえ、次のアドレスへ送信して下さい。

iyg-igaku-3*jimu.kumamoto-u.ac.jp (*を@に変更して下さい)

メール送信後、医学事務チーム教務担当宛に申請書と研究抄録を提出して下さい。

大学院教育委員会で中間審査委員会を設置し、その旨のメールを送りますので 各自日程調整を行って下さい。

4. 研究提案書 (word)
5. 中間審査延長願 (word)

(出典：医学教育部ウェブサイトより)

資料 A-1-2-1-4 博士課程中間審査の実施要領（抜粋）

中間審査の実施要項	
大学院生への研究指導の強化について	
<p>目的：熊本大学医学教育部・大学院教育委員会は、研究推進能力の向上を目指す重要な方策の一つとして、医学教育部の全教員の協力のもとに、博士課程大学院生の研究力アップとともに学位論文の質の向上を図りたいと考えています。そこで中間期(2年次)の博士課程大学院生に、研究計画、結果および研究経過などについて発表をしてもらい、その発表に対して、様々な分野の審査委員から、研究の質の改善のための具体的かつ建設的な助言を行います。所属する分野の研究方針に従いつつも、他の関連研究分野の協力を得て、より質の高い論文の作成を目指して、分野横断的な大学院生の研究指導をしていく計画です。なお、中間審査はあくまでも指導・助言であり、最終的な評価や学位論文の審査等に影響することは一切ありません。</p>	
<p>対象大学院生：2年次博士課程大学院生</p> <p style="text-align: center;"><u>ただし、やむを得ない事情で、2年次に中間審査の申請が出来ない場合は、最大6か月間延長することを認める。その場合は、中間審査延長願いを提出すること。なお、長期履修学生については、個別に対応する。</u></p>	
<p>審査申請方法：指導教員が対象となる大学院生の研究テーマや進捗状況などを記載した中間審査申請書を教務に提出する。</p> <p>提出期間：4月入学生：2年次の4月～1月末 <small>(※学位審査の時期を避けるために7月～10月頃提出するのが望ましい)</small></p> <p>10月入学生：2年次の10月～7月末</p>	
<p>中間審査委員会の設置および同審査委員会の審査委員の構成：大学院教育委員会は、中間審査の申請があった大学院生毎に中間審査委員会を設置する。また、大学院教育委員会は、各申請書内容を吟味し、それぞれの研究内容に相応しい審査委員を、大学院医学教育部所属の「D〇合」教員、「D合」教員から3名選出し、委員長を決める。ただし、少なくとも1名は、「D〇合」教員とする。研究内容によっては、大学院医学教育部に所属していない本学教員に審査を依頼する。また、今後独立して学位論文指導をする立場になることが想定される</p>	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

2. 学生の主体的な学習を促すための取組

(1) 単位修得についての説明・支援

入学時ガイダンスに履修案内・シラバスを配布しカリキュラム・履修方法の説明を行っている。ウェブサイトにも情報を公開しており社会人大大学院生などガイダンスに参加が困難な学生にも周知できる体制を整えている。シラバスには各教員の連絡先を記載しオフィスアワーを明示することで、講義・演習を受講する際に教員への質問を円滑に出来るようにしている。さらにシラバスには評価の基準と方法、事前学習、事後学習を記載し、学生の学習を支援している(資料 A-1-2-2-1、A-1-2-2-2)。ウェブサイトの英語バージョンを整備し、外国人留学生への情報提供システムを充実化した(資料 A-1-2-2-3)。

博士課程において所定の単位を修得し優れた研究成果を上げ、早期に学位論文を完成させた学生は在学期間短縮により修了することが出来る(資料 A-1-2-2-4)。一方で、仕事・育児・介護などで十分な研究時間を確保できない学生のため長期履修制度を整備しており、社会人大大学院生の学位取得に結びついている(資料 A-1-2-2-5)。平成24年度より基礎研究医を養成するため「柴三郎プログラム」を新設し、医学部から大学院修了まで初期臨床研修と平行して研究をシームレスに継続できるシステムを構築した(前掲資料 P16 A-1-1-1-8)。

資料 A-1-2-2-1 シラバスによる履修案内 (抜粋)

熊本大学大学院医学教育部
Graduate School of Medical Sciences

HOME > 履修のご案内

平成30年度

- PDF 修士・博士課程シラバス 日本語版 【PDF/37.3 MB】
- PDF 博士課程シラバス 英語版 【PDF/29.7 MB】
- PDF 修士・博士課程学生便覧 英語版 【PDF/3.7 MB】

※このシラバスは2018年4月1日現在のものです。
講義日程やeラーニング情報は「授業・履修・eラーニングについて」のページで最新の情報を確認してください。

平成29年度
平成28年度
平成27年度
平成26年度

(出典：医学教育部ウェブサイト)

資料 A-1-2-2-2 シラバス (講義科目の一例)

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-002-79-2	2018通年	医学教育部(20030)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
細胞機能制御学理論【Cell Biology】(B2)			岩本 和也, 富澤 一仁, 中西 宏之, 立石 智, 中尾 光善, 江崎 雅俊, 魏 范研, 日野 信次朗		
学修成果とその割合					
調整中・・・100%					
授業の形態	講義				
授業の方法	質疑応答を重視した講義形式で、Power Point, OHP等を活用する。なお遠隔地の学生や社会人学生等には、e-ラーニング講義により対処する。				
授業の目的	細胞機能制御学に関する講義では、学生が以下のことを理解することを目的とする。(1) 蛋白質リン酸化など細胞内情報伝達機構とその破綻による病態生理と疾患発症のメカニズム。(2) 時計遺伝子による概日周期制御機構。(3) 細胞の運動などの種々の細胞機能における細胞骨格、細胞内小器官、細胞核ならびに細胞膜変形の制御機構。(4) エピジェネティクスによる細胞制御機構、代謝制御機構と脳神経機能制御機構。(5) 細胞周期、体細胞分裂と減数分裂、遺伝子の修復・組換え機構。				
到達目標	細胞機能制御学に関する講義では、以下のことを説明できるようになることを目標とする。(1) 蛋白質リン酸化など細胞内情報伝達機構とその破綻による病態生理と疾患発症のメカニズム。(2) 時計遺伝子による概日周期制御機構。(3) 細胞の運動などの種々の細胞機能における細胞骨格、細胞内小器官、細胞核ならびに細胞膜変形の制御機構。(4) エピジェネティクス機構による細胞・代謝・脳神経制御機構。(5) 細胞周期、体細胞分裂と減数分裂、遺伝子の修復・組換え機構。				
授業の概要	発生・再生、がん、老化、精神神経疾患、遺伝などの種々の生命現象を、生命の基本単位である細胞を中心に、分子レベルから細胞小器官、さらには組織、器官、個体レベルでそのメカニズムを最新の研究成果を含めて解説する。具体的には以下のことを講義する。(1) 生体の恒常性維持のために細胞がどのように機能制御しているか、リン酸化など細胞内情報伝達機構から理解する。(2) 概日周期生物時計が細胞レベルで時計遺伝子によりどのように制御されるかを解説する。(3) さまざまな生命現象に細胞の運動、接着、極性形成などの細胞機能に関わっており、細胞骨格の制御機構、細胞内小器官と細胞核の機能、細胞骨格と細胞膜の協調作用などを講義する。(4) エピジェネティクスの制御機構、生命現象や疾患との関わり、新しいエピジェネティクス解析法、エピジェネティクス創薬などを解説する。(5) 遺伝子は内的または外的要因により常に損傷されているが、さまざまな機構により修復されるが、その分子機構について解説する。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1	06/07	5時限 富澤 一仁 [eE-0, eJ-0]	細胞機能制御異常と病態生理		
2	06/14	5時限 富澤 一仁 [eE-0, eJ-0]	蛋白質リン酸化による細胞機能制御		
3	06/21	4時限 魏 范研 [eE-0, eJ-L]	RNAエピトランスクリプトミクスによる細胞機能制御		
4	06/28	4時限 日野 信次朗 [eE-0, eJ-L]	代謝エピジェネティクスと細胞機能		
5	07/05	4時限 江崎 雅俊 [eE-0]	細胞内小器官の形成について		
6	07/12	4時限 中西 宏之 [eE-0, eJ-0]	細胞骨格の制御機構I		
7	07/19	4時限 中西 宏之 [eJ-0]	細胞骨格の制御機構II		
8	07/26	4時限 中西 宏之 [eE-0, eJ-0]	細胞骨格と細胞膜の協調		
9	08/02	4時限 中尾 光善 [eE-0, eJ-0]	エピジェネティクス医科学I		
10	08/23	4時限 中尾 光善 [eE-0, eJ-0]	エピジェネティクス医科学II		
11	08/30	4時限 岩本 和也 [eEJ-0]	ニューロエピジェネティクスI		
12	09/06	4時限 岩本 和也 [eEJ-0]	ニューロエピジェネティクスII		
13	09/13	4時限 立石 智 [eEJ-0]	細胞増殖と細胞周期について		
14	09/20	4時限 立石 智 [eEJ-0]	体細胞分裂と減数分裂		
15	09/27	4時限 立石 智 [eEJ-0]	遺伝子の修復と組換え		
テキスト	特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「Pathophysiology of Disease: An Introduction to Clinical Medicine, 6th Edition」edited by Stephan J. McPhee and William F. Ganong, The McGraw-Hill Companies (2009) ・「Developmental Biology, 10th Edition」edited by Scott F. Gilbert, Sinauer Associates Inc.(2013) ・「Essential 細胞生物学 第3版」中村桂子・松原謙一監訳、南江堂 (2011) ・「EPIGENETICS」edited by David Allis et al. Cold Spring Harbor Laboratory Press (2007) 				
履修条件	本授業に関連する基礎的な知識を有すること。				
評価方法・基準	【授業の目的】に掲げた事項についての理解度を確認して評価する。15回の講義後に出題する小テストあるいはレポートを100点満点で評価し、上位10回分の点数の平均を成績とする。E-learningで受講した場合も同様である。				
使用言語	【日本語と英語によるミックス】授業				
教科書・資料の言語	【日本語と英語を併用した】テキスト				

(出典 平成30年度博士課程シラバス)

 **Graduate School of Medical Sciences**
Kumamoto University [Japanese](#)

[Site map](#) [Kumamoto University](#)

| [TOP](#) | [General Information](#) | [Education Program](#) | [Admissions](#) | [Departments & Researches](#) |
| [Students Support](#) | [Access & Campus Map](#) | [Regional Information](#) | [For Current Students](#) |

[Lecture, e-learning](#) [Seminar](#) [Degree application, Interim review](#) [Financial aid](#)

GSMS Degree application, Interim review

News

記事はありません

Degree Application

Master Course

The details of assessment criteria and application for master degree are as below.
Please be aware of the deadline.

 PDF	 PDF	 WORD
Assessment Criteria	Detail of Application	Application Form

Doctoral Course

To apply for a doctorate, applicants shall submit (1) a thesis which appeared in the academic journals written in English, or (2) both a thesis and one or more relevant papers.

<p style="text-align: center;">Submit a thesis which appeared in the academic journals written in English</p> <p style="text-align: center;">Students expected to complete doctoral course</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td> PDF</td> <td> PDF</td> <td> WORD</td> </tr> <tr> <td>Assessment Criteria</td> <td>Detail of Application</td> <td>Application Form</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">Students expected to complete earlier</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td> PDF</td> <td> PDF</td> </tr> <tr> <td>Examination criteria</td> <td>Assessment Criteria</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※If you want to know the detail please ask to student affairs section.</p>	 PDF	 PDF	 WORD	Assessment Criteria	Detail of Application	Application Form	 PDF	 PDF	Examination criteria	Assessment Criteria	<p style="text-align: center;">Submit both a thesis and one or more relevant papers</p> <p style="text-align: center;">Students expected to complete doctoral course</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td> PDF</td> <td> PDF</td> <td> WORD</td> </tr> <tr> <td>Assessment Criteria</td> <td>Detail of Application</td> <td>Application Form</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">Students expected to complete earlier</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td> PDF</td> <td> PDF</td> </tr> <tr> <td>Examination criteria</td> <td>Assessment Criteria</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※If you want to know the detail please ask to student affairs section.</p>	 PDF	 PDF	 WORD	Assessment Criteria	Detail of Application	Application Form	 PDF	 PDF	Examination criteria	Assessment Criteria
 PDF	 PDF	 WORD																			
Assessment Criteria	Detail of Application	Application Form																			
 PDF	 PDF																				
Examination criteria	Assessment Criteria																				
 PDF	 PDF	 WORD																			
Assessment Criteria	Detail of Application	Application Form																			
 PDF	 PDF																				
Examination criteria	Assessment Criteria																				

Please check the following documents.

（出典：医学教育部ウェブサイト英語版）

資料 A-1-2-2-4 在学期間短縮制度に関する要件

博士課程の在学期間短縮に関わる審査基準
(2016年3月23日 医学教育部教授会承認【抜粋】)

博士課程学生が、在学期間を3年以上4年未満に短縮して修了するための審査基準は、次のとおりとする。なお、Impact Factor (IF) がボーダーラインにある論文についても、申請者による研究成果の発表や質疑に対する応答などを総合的に判断して、合格と判定できるものとする。

- 1) 「英文雑誌に掲載された論文を学位論文とする学位論文審査及び最終試験に関する評価基準」に基づく学位申請の場合、学位論文が、**IFが5.0以上**の学術雑誌、あるいは、各研究分野における学術雑誌のうち、その**IFが上位の10%**にランクされている学術雑誌に発表されていること。
 なお共同第1著者(first coauthor)が複数存在する論文については、IFを共同第1著者の数で除した数値をもって、上記の評価の対象とする。
- 2) 「学位論文(Thesis)と関連論文1編以上の提出による学位論文審査及び最終試験に関する評価基準」に基づく学位申請の場合、以下の①または②のいずれかを満たす、関連論文に基づいて、学位論文(Thesis)が作成されていること。
 - ① **IFが5.0以上**の学術雑誌、あるいは、各研究分野における学術雑誌のうち、その**IFが上位の10%**にランクされている学術雑誌に、第1著者(first author)として論文を1編以上発表していること、あるいは発表予定(in press)であること。
 なお共同第1著者(first coauthor)が複数存在する論文については、IFを共同第1著者の数で除した数値をもって、上記の評価の対象とする。また、複数の共同第1著者が当該論文を関連論文として用いて、異なった観点より学位論文(Thesis)を執筆することにより、学位を申請出来るものとする。
 またshort communicationの類については、内容について、大学院教育委員会が事前審査を行い、可否を決定する。
 - ② **IFが2.5以上**の学術雑誌、あるいは、各研究分野における学術雑誌のうち、その**IFが上位の40%**にランクされている学術雑誌に、第1著者 (first author) として論文を2つ以上発表しているか、発表予定 (in press)であること。あるいは、**第1著者として発表した、2報以上の論文のIFの総和が、5.0以上**であること。
 共同第1著者 (first coauthors) による論文は1つまでは認めるが、それ以外に、1人で第1著者 (first author)となつている論文を1編以上発表している必要がある。なお共同第1著者 (first coauthor)が複数存在する論文については、IFを共同第1著者の数で除した数値をもって、**評価の対象とする**。また、複数の共同第1著者が当該論文を関連論文として用いて、異なった観点より学位論文(Thesis)を執筆することにより、学位を申請出来るものとする。
 また2編の論文のうち1編までは、short communicationの類でも、内容について、大学院教育委員会が事前審査を行い、可と決定した場合には認める。

(出典：博士課程シラバス)

資料 A-1-2-2-5 長期履修制度

2. 長期履修制度

本教育部では、職業を有している等の事情により、標準修業年限(4年)を超えて一定の期間(最大8年まで)にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願い出た者については、審査の上許可することがあります。この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料支払総額は、標準修業年限による修了者と同じになります。この制度の詳細については、目次の下段に示した医学事務チーム教務担当までお問い合わせ下さい。

(出典：博士課程学生募集要項より抜粋)

長期履修学生数(新規) 一覧

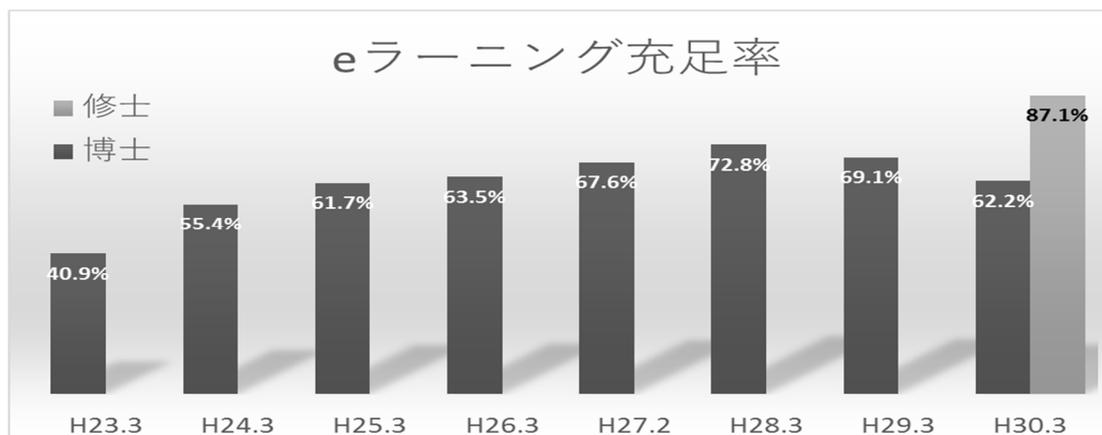
	修士課程	博士課程	合計
27年度	0	6	6
28年度	0	5	5
29年度	0	6	6
合計	0	17	17

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(2) eラーニングシステムの整備

平成 20 年の eラーニングシステム開始以降、そのプログラムの充足率は順次上昇し、平成 28 年度で 69.1% (博士課程) に達している。特に平成 29 年度からは修士課程学生に対する eラーニングを整備した。これにより、同年 10 月度から開始された社会人修士課程の学生が、より効率よく講義を受講できる環境整備に努めた (資料 A-1-2-2-6)。

資料 A-1-2-2-6 eラーニングに関する資料



(出典：医学事務チーム教務担当資料)

3. 学生への支援体制

(1) 研究推進のための支援体制

国際通用性のある研究者育成のため、海外での発表・研究支援として、平成 29 年度より、修士・博士両課程で卓越大学院生制度を整備・実施している。

本制度は、大学院生による研究の質の向上と、より質の高い論文発表を図るために、斬新的で先駆的な研究を計画あるいは実践している大学院生を卓越大学院生として選出し、研究支援費を配分することで、質の高い学位論文の発表が期待できる。(資料 A-1-2-3-1、A-1-2-3-2)。

資料 A - 1 - 2 - 3 - 1 卓越大学院生（修士）制度実施要項

卓越大学院生（修士）制度実施要項	
1. 目的：	大学院生による研究の質の向上と、より質の高い論文発表を図るために、斬新的で先駆的な研究を計画あるいは実践している修士課程の大学院生を卓越大学院生として選出し研究支援費を配分することで博士課程への進学を促し、インパクトファクター（IF）が10以上の雑誌に掲載され且つTOP 10 % 論文に該当するような質の高い学位論文を発表させることを目的とする。
2. 選考対象大学院生：	平成30年度熊本大学大学院医学教育部博士課程への進学を予定している修士2年生（29年度10月進学者を含む）
3. 選考人数：	3名
4. 選考の手順	1) 博士課程進学を予定している修士2年生を対象に実施している博士課程進学者選考でのプレゼン内容と質疑応答に加えて、講義科目の評価などを総合的に審査し、大学院教育委員会で順位を決定する。 2) 上記審査で優秀と認められた上位3名を選出する。
本制度による支援と卓越大学院生の責務：	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50万円を研究支援費（消耗品費、共同研究旅費など）として支給する。 ・ 卓越大学院生は、研究支援費の支出報告書を提出する。 ・ 卓越大学院生は、指導教員と相談しながら、斬新的で先駆的な研究成果が得られるように日々努力する。
事後調査：	
	博士課程中間審査で、研究の進捗状況を把握し、IF値が10以上の雑誌に掲載され、TOP 10%論文に該当するような論文を報告できるかどうかについて検討し、本制度の有効性を検証する。

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料 A - 1 - 2 - 3 - 2 卓越大学院生（博士）制度実施要項（抜粋）

卓越大学院生（博士）制度実施要項

1. 目的：

大学院生による研究の質の向上と、より質の高い論文発表を図るために、斬新的で先駆的な研究を計画あるいは実践している大学院生を卓越大学院生として選出し研究支援費を配分することで、インパクトファクター（IF）が10以上の雑誌に掲載され且つTOP 10 % 論文に該当するような質の高い学位論文を発表させることを目的とする。

2. 選考対象大学院生：2年次博士課程大学院生（各分野1名まで）

* 生命科学研究部で実施されている「健康長寿基盤研究センター設立による研究力の推進」に係る研究助成と本助成の両方を重複して受けることはできないので注意すること。（両方に申請することは可能である。）

3. 選考人数：

平成29年度と平成30年度に選考を実施し、それぞれ3名を卓越大学院生として選出する。

4. 選考の手順

- 1) 申請書に、必要事項を記入し分野の長の推薦を得て申請をする。
- 2) 大学院教育委員会は、内部委員と外部委員から成る評価委員会を設置し、選出された大学院生について審査する。
- 3) 大学院教育委員会は、内部委員として大学院医学教育部所属の「D○合」教員から3名、外部委員として大学院薬学教育部に所属する教授から2名を選び、選ばれた5名の中から委員長を決定する。
- 4) 委員長により、選考の対象となる学生の指導に関与すると判断された選考委員は、当該学生の採点には参加できない。
- 5) 書類審査を実施し上位10名を選出する。
- 6) 書類審査は申請書の内容に基づいて、研究成果が影響を与える研究分野とその影響の大きさや計画の実現可能性などを踏まえ、IFが10以上の雑誌に掲載されTOP10%論文となる可能性について各審査委員が審査する。

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

(2) 経済的支援体制

生活基盤を補助する経済支援を実施するため、大学院博士課程奨学金給付制度（KDS）および大学院博士課程奨学制度（KWS）を学生に周知し推薦を行った（資料 A-1-2-3-3、A-1-2-3-4）。ティーチングアシスタント（TA）は修士課程を中心に雇用し経済支援するとともに、雇用した学生を eラーニング撮影補助などの教務補佐員とし医学教育部の教育体制向上に寄与した（資料 A-1-2-3-5）。

資料 A-1-2-3-3 博士課程奨学金給付制度（KDS）採択者数

一般枠			私費留学生枠		
年度	採択者数	採択者のうち留学生	年度	採択者数	
27	17	0	27	8	
28	17	0	27.10月	1	
29	17	1	28	4	
			28.10月	2	
			29	4	
			29.10月	2	
※10月入学は、私費留学生枠のみ					
※採択者数は内定者を含む					

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-2-3-4 博士課程奨学制度（KWS）採用者数

博士課程奨学制度（KWS）採用者数 平成27年度～平成29年度				
年度	前期採用者	後期採用者	合計	備考
27	38	39	77	
28	34	35	69	
29	29	33	62	
※合計は延べ人数				

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-2-3-5 ティーチングアシスタント（TA）採用状況

ティーチングアシスタント（TA）採用者数 平成27年度～平成29年度		
年度	採用者数	備考
27	20	
28	16	
29	19	
※TAは平成24年度より、修士課程学生のみを対象としている		

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(3) その他の支援体制

健康相談、生活相談、進路相談、各種ハラスメントの相談等のために、学生委員会やハラスメント相談員を設置し必要な相談・助言が出来る体制を整備している。また、平成 25 年度からは医学教育部のある本荘北キャンパスに健康相談室を設置し学生の健康相談にも対応している（資料 A-1-2-3-6）。

資料 A-1-2-3-6 健康相談室（学生相談室）の設置

医学部医学科・医学教育部（共通）

学生相談室を設置し、木・金曜日に看護師が常駐してメンタルヘルスの対応を行い、医学科学生委員会及び大学院学生委員会においても同様の対応を行っています。また、水曜日（第4水曜日を除く）の13時、14時、15時、16時に予約制で臨床心理士によるカウンセリングを行う「心とからだの悩みなんでも相談室@本荘キャンパス」を開室しています。

（出典：熊本大学ウェブサイト）

（4）教育プログラム質向上のための工夫

教育課程の保証・質向上のため、授業改善アンケートを実施し、教員にフィードバックし改善を促した（資料 A-1-2-3-7）。eラーニング授業については、授業参観を実施し内容の向上を行った（資料 A-1-2-3-8）。また、大学院教育委員会において全てのシラバスについてシラバスチェックを毎年度実施し科目毎に不備を抽出し各担当教員に改善を促した。（資料 A-1-2-3-9）。

資料 A-1-2-3-7 授業改善のためのアンケート結果（平成 29 年度前期実施分）

		【授業改善のためのアンケート】					
平成29年度前期						回答科目数：10科目	
医学教育部						回答者数：60人	
質問	質問文	回答					
1	授業の難易度は、どうでしたか。	非常に難しかった	少し難しかった	ちょうどよかった	少し易しかった	非常に易しかった	
		0	26	34	0	0	
2	教員の声は、聞き取りやすかったですか。	非常に聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	聞き取りにくかった	非常に聞き取りにくかった		
		15	45	0	0		
3	授業の手段（教科書・プリント、板書、映像視覚教材（ビデオ、パワーポイントなど）等）は、有効でしたか。	非常に有効だった	有効だった	あまり有効ではなかった	有効ではなかった		
		23	37	0	0		
4	この授業において、教員との双方向的なやりとり(授業中の質疑応答、受講生のレポートへの教員のコメント、質問カードの利用などが、どの程度行われていましたか。	十分に行われていた	少し行われていた	あまり行われていなかった	全く行われていなかった		
		21	38	1	0		
5	授業の目標は、どの程度明示されていきましたか。	十分に明示されていた	少し明示されていた	あまり明示されていなかった	全く明示されていなかった		
		28	21	11	0		
6	この授業は、シラバスに記載された目標と計画に沿って実施されましたか。	実施された	どちらかというど実施された	どちらかというど実施されなかった	実施されなかった		
		31	28	1	0		
7	あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。	十分に達成できた	少し達成できた	あまり達成できなかった	全く達成できなかった		
		25	33	2	0		
8	この授業は、LMS(Moodle等)を活用するものでしたか。活用するものであった場合は、どの程度役に立ちましたか。LMS(Moodle等)を活用しなかった場合は「該当せず」を選択してください。	十分に役立った	少し役立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	該当せず	
		16	18	6	2	18	
9	大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習（予習・復習、資料収集、文献講読、レポート作成など）をしましたか。	3時間以上	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	1時間未満	全くしなかった	
		9	18	14	19	0	
10	全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。	非常に有意義だった	有意義だった	あまり有意義ではなかった	全く有意義ではなかった		
		25	34	1	0		

（出典：授業改善のためのアンケート集計データ）

大学院医学教育部における授業参観実施要領

平成 27 年 6 月 24 日医学教育部教授会承認

(趣旨)

第 1 この要領は、大学院医学教育部 (以下「本教育部」という)において行う授業参観の実施に関し必要な事項を定める。

(授業参観の実施形態)

第 2 授業参観は、講義科目 (オムニバス形式) の e ラーニング授業の相互視聴により行うものとする。

(授業参観を実施する時期)

第 3 授業参観は、原則として、通年で実施する。

(授業参観を実施する授業科目の選定方法)

第 4 博士課程の「理論」科目の中から、大学院教育委員会 (以下「委員会」という) が年度ごとに 4 科目を指定する。

(授業参観の実施方法)

第 5 担当する「理論」科目の他の教員による e ラーニング授業を一つ選択し視聴する。該当する e ラーニング授業がない等の事情がある場合は、担当する「理論」科目のうち対面講義により実施される授業を実施教員と相談の上で参観することで代替しても良い。

2 科目主任は、特定の授業に参観者が集中しないよう予め科目内で調整を行う。

3 e ラーニング授業を視聴した教員は、参考になった点やアドバイス等を記載した授業視聴報告書を教務担当に提出する。対面講義を参観した場合も同様とする。

(授業参観後の意見交換)

第 6 「理論」科目ごとに上記報告書の内容を共有し、意見交換を行う。

2 意見交換後、科目主任は、授業参観報告書をまとめ、教務担当に提出する。

(報告書の作成)

第 7 委員会は、授業参観報告書をもとに、授業参観実施報告書を作成し、授業参観の課題等について教授会に報告する。

(雑則)

第 8 この要領に定めるもののほか、授業参観の実施に関し必要な事項は、委員会の議を経て、教育部長が別に定める。

(出典：平成 29 年度医学教育部における授業参観実施要領)

平成 29 年度シラバスチェックの実施について(抜粋)

1. 新シラバスシステム
平成 24 年 8 月 28 日の中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」において、学士課程教育の質的転換への方策の一つとして、授業計画（シラバス）の充実が提言された¹。同答申を踏まえて、本学では平成 26 年度に、授業目標、評価方法・基準等が明確に表示され、授業内容の詳細、事前・事後学習を授業回数分入力でき、LMS と連動させ随時更新可能とする機能を具備した、新シラバスシステムを構築した。

2. シラバスチェックの目的
新シラバスシステムにより作成された平成 29 年度シラバスが、新シラバスシステム構築の目的に沿ったものになっているのかについて検証し、その結果を平成 30 年度シラバスの入力に反映させ、本学の教育の質の向上に資することを目的とする。

3. シラバスチェックの考え方
「学生が見てわかりやすいか」、あるいは当該科目に興味関心を持つ「一般の人が（でも）見てもわかるか。」を念頭にチェックする。

4. 対象科目
部局で開講する専門科目、及び部局が提供する教養教育（共通教育）科目を対象とする。シラバスチェックの対象とする科目の抽出方法は、部局の状況を踏まえて行う。
（例）
・ 5～6 年かけて部局における全授業科目をチェックする。
・ 2 年程度をかけて部局に所属する全教員の 1 科目をチェックする。
なお、抽出率という考えは採らないこととする。

5. 評価方法
昨年度、部局で採用した評価方法を基本とする。各項目の観点について、2 件法～5 件法で評価する。
3 件法 も：「合致している」A、「概ね合致しているが改善を要する」B、「合致していない」C、「評価の項目・観点到合致しない」 —（大学院医学教育部）

（出典：医学教育部におけるシラバスチェック実施要領）

（水準）期待される水準を上回る
（判断理由）

ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの明確化を行い、学生への周知を行った。特に授業、シラバス、ウェブサイトでの情報は英語化を行い（前掲資料 P33 A-1-2-2-3）、外国人留学生の利便性の向上を行った。10 月入学制度ならびに社会人入試制度（修士課程）を拡充し外国人留学生のみならず多彩な社会のニーズに則した教育課程を創出した。HIGO プログラム、柴三郎プログラムを維持・継続するとともに、第 3 期九州がんプロ制度を更新した。e ラーニングを大幅に増強し、社会人学生などが在宅でも効果的に講義を受講できるようにした。また、教育内容および方法を向上するためシラバスチェックなど様々な取り組みを実施した。さらに、大学院生による研究の質の向上と、より質の高い論文発表の多面的な支援として、中間審査制度と卓越大学院制度を新たに実施した。（前掲資料 P31 A-1-2-1-4、前掲資料 P36 A-1-2-3-1、前掲資料 P37 A-1-2-3-2）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 履修・修了状況 (中期計画番号3、4、5、6)

(1) 履修および修了のための規定

履修および修了にかかわる単位取得要件についてはディプロマポリシー (P28~P29 前掲資料 A-1-2-1-1) で明確化しており、学生便覧、履修案内・シラバスに明示している。入学時のガイダンス、ウェブサイト (P32 前掲資料 A-1-2-2-1) など広く学生に周知するとともに、適宜指導教員に周知・確認を実施した。また、成績異議申し立ての制度を整備しており、学生の異議申し立てがある場合に救済を行っている (資料 A-2-1-1-1)。

資料 A-2-1-1-1 成績評価の異議申し立てについて

(厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について (熊本大学教務委員会) より抜粋)

7. 成績評価の異議申し立て

成績評価に関する質問・疑問に対する教員の説明では解決が得られなかった場合は、予め決められた一定期間内において、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行なう場合には、所定の期間内に、関係部局等の定める手続きに抛り、「成績評価に関する異議申立書」(所定の様式による)を、事務担当係へ提出するものとする。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

11) 不服申し立て制度：履修した授業科目の成績評価に異議がある場合は一定期間の間、不服申し立てを行うことができます。成績判定の時期に詳細を掲示等でお知らせいたします。

(出典：医学教育部シラバス)

(2) 修了状況

修士課程では入学者数に対する修業年限 (2年) 以内の修了者数の割合は 92~100%と高い修了率であった。博士課程の入学者数に対する修業年限 (4年) 以内の修了者数の割合は、概ね 60%前後である。社会人大学院生が多いことが修業年限内に修了できない原因の一つと考えられる。ただし、外国人留学生が多くを占める 10月入学学生においては、熊本地震の影響で年限内の修了率が低下した平成 24 年度入学を除き、年限内修了割合は 80%以上と高い (資料 A-2-1-1-2)。

資料 A-2-1-1-2 標準修業年限内の修了率及び標準修業年限 1.5 年内修了率

修士課程						
入学年度	4月入学				10月入学	
	25年度	26年度	27年度	28年度	27年度	
入学者数	35	15	13	12	1	
修業年限（2年）以内修了者数	34	15	12	12	1	
修業年限1.5（3年）以内修了者数	34	15	12	12	1	
標準修業年限内修了率	97%	100%	92%	100%	100%	
標準修業年限1.5以内修了率	97%	100%	92%	100%	100%	
博士課程						
入学年度	4月入学			10月入学		
	23年度	24年度	25年度	23年度	24年度	25年度
入学者数	64	75	72	11	10	6
修業年限（4年）以内修了者数	37	58	42	10	4	5
修業年限1.5（6年）以内修了者数	44	59	45	10	7	6
標準修業年限内修了率	58%	77%	58%	91%	40%	83%
標準修業年限1.5以内修了率	69%	79%	63%	91%	70%	100%

※修了者には平成30年7月1日時点の遡及修了者も含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(3) 学位授与状況

厳格な方法で学位審査が行われた。平成 27～29 年度の学位授与数は、修士で 40 名、博士では課程博士で 166 名、論文博士で 28 名の合計 194 名である。このうち、博士課程における在学期間短縮による早期修了者は 16 名である。また、外国人留学生の学位授与数は博士課程で 31 名である。多くの国際的研究能力を有する研究者もしくは高度医療専門職業人の輩出に貢献した（資料 A-2-1-1-3～A-2-1-1-5）。

資料 A-2-1-1-3 学位授与数

年度	課程	学位名称	修士	博士		
				課程博士	論文博士	博士合計
27	修士	修士（医科学）	15	—	—	—
		修士（健康生命科学）	0	—	—	—
	博士	博士（医学）	—	64	8	72
		博士（生命科学）	—	1	0	1
28	修士	修士（医科学）	10	—	—	—
		修士（健康生命科学）	2	—	—	—
	博士	博士（医学）	—	54	13	67
		博士（生命科学）	—	0	0	0
		博士（健康生命科学）	—	0	—	0
29	修士	修士（医科学）	13	—	—	—
		修士（健康生命科学）	0	—	—	—
	博士	博士（医学）	—	47	7	54
		博士（生命科学）	—	0	0	0
		博士（健康生命科学）	—	0	—	0

※課程博士には平成30年7月1日時点の遡及修了者を含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-1-1-4 在学期間短縮による修了者数

早期修了者（在学期間短縮）数					
医学教育部博士課程					
年度	在学期間				合計
	3年	3年3ヶ月	3年6ヶ月	3年9ヶ月	
27	0	2	0	3	5
28	3	0	2	1	6
29	3	0	1	1	5
合計	6	2	3	5	16

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-1-1-5 外国人留学生への学位授与一覧

○留学生学位取得状況（H27年度からH29年度）					
博士課程					
年度/区分	国費	私費	論文博士	計	備考
27	6	5	0	11	
28	6	4	1	11	
29	2	7	0	9	
計	14	16	1	31	

※区分は学位取得時で遡及修了者含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

2. その他の学習成果（中期計画番号4、5、6）

医学教育部では学生の学会・会議への発表および論文発表を推進している。特に博士課程においては学会発表を演習の単位に設定し学生の積極的な発表を奨励している。平成27～29年度に国際学会へ発表した学生は修士課程で延べ20名、博士課程で延べ255名である。学術雑誌の論文発表は修士課程で18編（内査読有り11編）、博士課程では604編（内査読有り519編）であり非常に多くの国際学会発表および論文発表が行われた。博士課程学生においては国際学会賞を受賞したものは6名であり、国内を含めると受賞者数は48名であった。新聞記事に掲載された学生も複数おり、学術領域のみならず社会に広く認知される研究を実施した（資料 A-2-1-2-1～A-2-1-2-2）。

柴三郎プログラム生においても、プレ柴三郎学生の論文が国際誌に掲載されたり、柴三郎学生が学会発表したりするなど、実績をあげている（資料 A-2-1-2-4）。プレ柴三郎プログラム（学部学生）から柴三郎プログラム（博士課程）への移行率が高く、学部学生の段階から一貫した教育が行われていることも特色である（資料 A-2-1-2-5）。平成27年2月28日に行われた第4回サイエンス・インカレでプレ柴三郎学生が文部科学大臣賞を受賞したことは、顕著な成果のひとつといえる（資料 A-2-1-2-6）。

九州がんプロ養成プランにおいては、複数の履修生が外科専門医やがん治療認定医の資格を取得し、地域貢献できる人材の育成につながっている（資料 A-2-1-2-7）。

また、大学院生が在学中にベンチャー企業を起業したり、在学中の研究実績を礎に起業したりするなど、学習成果が社会貢献にもつながっている（資料 A-2-1-2-8～A-2-1-2-9）。

資料A-2-1-2-1 論文掲載、国際学会（会議）発表状況データ
論文掲載データ

課程区分	専攻等	平成27年度	平成28年度	平成29年度
修士課程	医科学専攻	3編 (2編)	5編 (4編)	10編 (5編)
博士課程	医学専攻	188編 (155編)	232編 (221編)	184編 (143編)
修士・博士課程	合計	191編 (157編)	237編 (225編)	194編 (148編)

()内の数字は、査読制度をもつ学術雑誌への発表論文数を示す。

国際学会（会議）発表データ

課程区分	専攻等	平成27年度	平成28年度	平成29年度
修士課程	医科学専攻	2名	13名	5名
博士課程	医学専攻	84名	97名	74名
修士・博士課程	合計	86名	110名	79名

(出典：大学院入試説明会資料)

資料A-2-1-2-2 学生の受賞状況データ

受賞のジャンル	平成27年度	平成28年度	平成29年度
国際学会賞	2名	3名	1名
国内学会賞	6名	15名	11名
日本学術振興会・特別研究員	0名	2名	4名
民間財団学術奨励賞	1名	1名	2名
合計	9名	21名	18名

(出典：大学院入試説明会資料)

プレスリリース



2018年2月1日

報道関係者各位

熊本大学
慶應義塾大学医学部

世界初 胎生期マウスの内耳への、ヒト iPS 細胞由来細胞の移植に成功 — 遺伝性難聴の治療法開発につながる成果 —

地域医療機能推進機構熊本総合病院、耳鼻咽喉科・頭頸部外科／中耳・内耳手術センターの
蓑田涼生センター長、熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室の竹田大樹医員らは、慶應義塾大
学医学部生理学教室の岡野栄之教授らと共同で、ヒト iPS 細胞（注 1）由来の内耳細胞を胎生
期マウスの内耳へ移植し、体内で細胞が生着したことを確認し、移植した細胞によってヒト由
来の正常なタンパク質をモデルマウスの内耳に発現させることに世界で初めて成功しました。

先天性難聴（注 2）の約半数を占める遺伝性難聴（注 3）には、いまだ根本的な治療法が存
在しません。遺伝性難聴は出生時にすでに難聴を発症していることが多く、より確実な治療効
果を得るには、胎児の早いうちからの治療が最も効果があると予想されます。そこで、本研
究グループでは胎生期マウスを用いて、子宮内での治療による難聴治療に焦点を絞って研究を進
めてきました。

今回、研究グループでは、ヒト由来 iPS 細胞から内耳前駆細胞（内耳細胞の「もと」となる
組織幹細胞）を作成し、正常マウスと難聴モデルマウスの胎生期の内耳に移植しました。難聴
モデルは遺伝性難聴の原因遺伝子のひとつであるコネキシン 30（注 4）が欠損し、ヒトと同
様に高度難聴を示したモデルマウスを用いました。すると、移植した細胞はマウスの内耳内に
生着し、生着細胞の一部でコネキシン 30 を発現していることが示されました。つまり、欠損
していたコネキシン 30 を細胞移植によって補うことができ、聴力を改善できる可能性が見出
されたのです。

これまで技術的に困難と考えられていた胎生期内耳への細胞移植に、マウスを用いて世界で
初めて成功し、正常な内耳細胞に存在するタンパクが発現されることも確認できました。この
成果は遺伝性難聴に対する、胎児治療での内耳再生という新しい治療法につながるとともに、
胎生期内耳をターゲットとしたさまざまな研究の発展に大きく寄与すると考えられます。

本研究成果は 2018 年 1 月 31 日（英国時間）『Scientific Reports』に掲載されました。

（出典：熊本大学プレスリリース）

入学希望

在学生

卒業生

企業研究者

地域一般



熊本大学
Kumamoto University

NEW 文字サイズ 標準 大

Language ▼

お問い合わせ一覧

熊本大学基金

交通アクセス&キャンパスマップ

Google カスタム検索

大学情報

教育

研究・産学連携

グローバル

入試案内

大学生活

学部・大学院等

[お知らせ](#) / [お知らせ \(生命科学系\)](#) / [世界初 胎生期マウスの内耳への、ヒトiPS細胞由来細胞の移植に成功 - 遺伝性難聴の治療法開発につながる成果 -](#)

熊本大学ナビゲーション

[お知らせ](#)[一覧](#)[お知らせ\[入試\]](#)[お知らせ\[学生\]](#)[お知らせ\[研究\]](#)[お知らせ\[その他\]](#)

お知らせ (生命科学系)

- ▶ 熊本大学特別シンポジウム「豊かな未来を私たちの手で」を開催しました
- ▶ 山崎 正董先生大礼服贈呈式を挙行了しました
- ▶ 臨床医学教育研究センター完成記念式を挙行了しました

世界初 胎生期マウスの内耳への、ヒトiPS細胞由来細胞の移植に成功 - 遺伝性難聴の治療法開発につながる成果 -

地域医療機能推進機構熊本総合病院、耳鼻咽喉科・頭頸部外科/中耳・内耳手術センターの葦田涼生センター長、熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教室の竹田大樹医師らは、慶應義塾大学医学部生理学教室の岡野米之教授らと共同で、ヒトiPS細胞（注1）由来の内耳細胞を胎生期マウスの内耳へ移植し、体内で細胞が生着したことを確認し、移植した細胞によってヒト由来の正常なタンパク質をモデルマウスの内耳に発現させることに世界で初めて成功しました。

先天性難聴（注2）の約半数を占める遺伝性難聴（注3）には、いまだ根本的な治療法が存在しません。遺伝性難聴は出生時にすでに難聴を発症していることが多く、より確実な治療効果を得るには、胎児の早いうちからの治療が最も効果があると予想されます。そこで、本研究グループでは胎生期マウスを用いて、子宮内での治療による難聴治療に焦点を絞って研究を進めてきました。

今回、研究グループでは、ヒト由来iPS細胞から内耳前駆細胞（内耳細胞の「もと」となる組織幹細胞）を作成し、正常マウスと難聴モデルマウスの胎生期の内耳に移植しました。難聴モデルは遺伝性難聴の原因遺伝子のひとつであるコネキシン30（注4）が欠損し、ヒトと同様に高度難聴を示したモデルマウスを用いました。すると、移植した細胞はマウスの内耳内に生着し、生着細胞の一部でコネキシン30を発現していることが示されました。つまり、欠損していたコネキシン30を細胞移植によって補うことができ、聴力を改善できる可能性が見出されたのです。

これまで技術的に困難と考えられていた胎生期内耳への細胞移植に、マウスを用いて世界で初めて成功し、正常な内耳細胞に存在するタンパクが発現されることも確認できました。この成果は遺伝性難聴に対する、胎児治療での内耳再生という新しい治療法につながることも、胎生期内耳をターゲットとしたさまざまな研究の発展に大きく寄与すると考えられます。

本研究成果は2018年1月31日（英国時間）『Scientific Reports』に掲載されました。

（出典：熊本大学ウェブサイト）



平成 28 年 4 月 25 日

報道機関 各位

熊本大学

**年齢・握力・ふくらはぎの太さから
簡便に心臓病の重症化リスクを診断**
－ 筋肉量の減少を測る「サルコペニアスコア」を心臓病患者にも適用－

<概要説明>

熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科学の尾上喜郎（大学院生）、泉家康宏 助教らは、筋肉量の減少（サルコペニア）を診断する簡単なテストが心臓病の重症化リスク評価に有用であることを、慢性心不全患者を対象とした臨床研究によって明らかにしました。

骨格筋量の減少と筋力の低下をきたすサルコペニアは、心疾患患者の生命予後の危険因子であることが知られています。しかし既存のサルコペニアの診断には CT や MRI を用いた精密な骨格筋量測定を行うことが推奨されており、大型の機器を必要とするために日常診療でのスクリーニング（発見すること）は困難でした。近年、年齢・握力・下腿（ふくらはぎ）周囲径の3つの指標を用いたサルコペニアスクリーニング法の有用性が報告され、本研究で心臓病患者にも有効であることが明らかになりました。高齢化社会を迎え、今後は循環器疾患のみならず幅広く普及していくことが期待されます。

本研究は熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科学 尾上喜郎（大学院生）、泉家康宏 助教らが、山口老年総合研究所、ひと・健康・未来研究財団、聖ルカ・ライフサイエンス研究所の支援を受けて行いました。本研究成果は「International Journal of Cardiology」オンライン版に4月17日（日）に掲載されました。

（出典：熊本大学プレスリリース）



お知らせ / お知らせ (生命科学系) / 年齢・握力・ふくらはぎの太さから 簡便に心臓病の重症化リスクを診断 - 筋肉量の減少を測る「サルコペニアスコア」を心臓病患者にも適用-

熊本大学ナビゲーション	
お知らせ	
一覧	
お知らせ[入試]	
お知らせ[学生]	
お知らせ[研究]	
お知らせ[その他]	
お知らせ (生命科学系)	
> 熊本大学特別シンポジウム「豊かな未来を私たちの手で」を開催しました	

年齢・握力・ふくらはぎの太さから 簡便に心臓病の重症化リスクを診断 - 筋肉量の減少を測る「サルコペニアスコア」を心臓病患者にも適用 -

熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科学の尾上喜郎（大学院生）、泉家康宏 助教らは、筋肉量の減少（サルコペニア）を診断する簡単なテストが心臓病の重症化リスク評価に有用であることを、慢性心不全患者を対象とした臨床研究によって明らかにしました。

骨格筋量の減少と筋力の低下をきたすサルコペニアは、心疾患患者の生命予後の危険因子であることが知られています。しかし既存のサルコペニアの診断にはCTやMRIを用いた精密な骨格筋量測定を行うことが推奨されており、大型の機器を必要とするために日常診療でのスクリーニング（発見すること）は困難でした。近年、年齢・握力・下腿（ふくらはぎ）周囲径の3つの指標を用いたサルコペニアスクリーニング法の有用性が報告され、本研究で心臓病患者にも有効であることが明らかになりました。高齢化社会を迎え、今後は循環器疾患のみならず幅広く普及していくことが期待されます。

本研究は熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器内科学 尾上喜郎（大学院生）、泉家康宏 助教らが、山口老年総合研究所、ひと・健康・未来研究財団、聖ルカ・ライフサイエンス研究所の支援を受けて行いました。本研究成果は「[International Journal of Cardiology](#)」オンライン版 に4月17日（日）に掲載されました。

（出典：熊本大学ウェブサイト）

資料A-2-1-2-4 柴三郎プログラム実績

プレ柴三郎プログラム・柴三郎プログラム学生の学会講師・雑誌掲載一覧 <2017.1.15現在>

(学会講師)

	タイトル	学会名	氏名	学年(当時)
平成24年度	(なし)			
平成25年度	(なし)			
平成26年度	人吉・球磨における 総合診療医の役割・育成・今後の展望	熊本県医師会 平成26年度 日本医師 会生涯教育講座		博士課程1年
平成27年度	WS24. 根拠に基づく予防医療: 個々の患者に対するアプローチ、 地域に対するアプローチ	第6回 日本プライマリ・ケ ア連合学会学術大会		博士課程2年
平成28年度	急性肺血栓塞栓症(PTE)から慢性血栓閉 塞性肺高血圧症(CTEPH)に移行した一例	第325回 内科学会九州地方会		博士課程2年
	WS4. 根拠に基づく予防医療: 個々の患者に対するアプローチ、 地域に対するアプローチ	日本プライマリ・ケア 連合学会 第13回秋季生 涯教育セミナー		博士課程3年
	WS2. 根拠に基づく予防医療:個々の 患者および地域に対するアプローチ	第7回 日本プライマリ・ケ ア連合学会学術大会		博士課程3年

(雑誌掲載)

	タイトル	雑誌名	氏名	学年(当時)
平成24年度	Role of CD204-Positive Tumor- Associated Macrophages in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma	Journal of Clinical and Experimental Hematopathology 日本リ ンパ網内系学会 学会誌		医学科4年
平成25年度	(なし)			
平成26年度	(なし)			
平成27年度	CXCL12/CXCR4 activation by cancer- associated fibroblasts promotes integrin β 1 clustering and invasiveness in gastric cancer.	Int J Cancer.		医学科6年生
	Cancer-associated fibroblast-derived CXCL12 causes tumor progression in adenocarcinoma of the esophagogastric junction.	Med Oncol		医学科6年生
平成28年度	Expression of 3-Mercaptopyruvate Sulfurtransferase in the Mouse	Molecules (Basel)		医学科5年

(出典：柴三郎プログラム事業報告書)

資料A-2-1-2-5 プレ柴三郎プログラムから柴三郎プログラムに入学した学生数

入学者数			
年度	柴三郎プログラム	うちプレ柴生	備考
27	3	1	
28	4	3	
29	3	3	
計	10	7	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料A-2-1-2-6 プレ柴学生における記事

プレ柴三郎プログラム学生が、第4回サイエンス・インカレにて文部科学大臣賞を受賞しました！

2月28日(土)～3月1日(日)に神戸国際会議場にて第4回サイエンス・インカレ(文部科学省主催)が開催され、プレ柴学生でもある医学部医学科4年の永芳友(ながよし ゆう)さんが文部科学大臣賞を受賞しました。

1.「数物・化学系」2.「工学系」3.「生物系」4.「情報・融合領域系」の研究分野に分かれており、ファイナリスト6名が選出され、2月28日に口演発表を行いました。

その審査から、各分野1名が最終審査に進み、3月1日に各分野から選出された4名のファイナリストがプレゼン等を行い、文部科学大臣賞1名および科学技術振興機構理事長賞3名が選出されました。

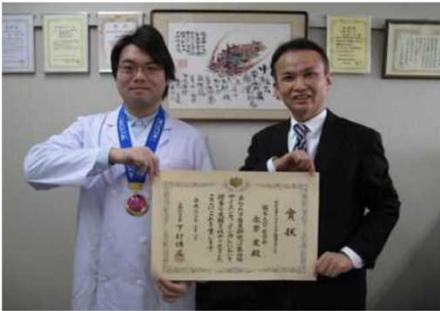


口演発表の様子



授賞式の様子

永芳さんは、「精神遅滞の分子メカニズム解明を目指して」という口演題目で発表を行い、文部科学大臣賞を受賞しました。



永芳 友さん(左)と指導教員 富澤教授(右)

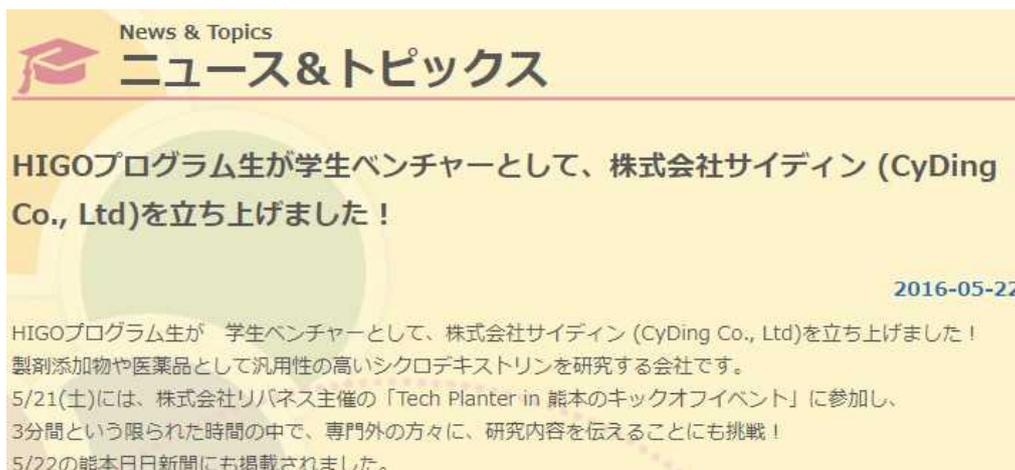
(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料A-2-1-2-7 がんプロ専門医取得状況

資格名	機関	第2期				第3期	
		27年度		28年度		29年度	
		合格	取得	合格	取得	合格	取得
外科専門医	日本外科学会	6	5	2	1	6	6
がん治療認定医	日本がん治療認定医機構	3	1	0	1	3	1
消化器外科専門医	日本消化器外科学会	1	1	0	0	0	0
消化器病専門医	日本消化器病学会	0	0	1	0	0	0

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-1-2-8 HIGO プログラム生による学生ベンチャー起業



News & Topics
ニュース&トピックス

HIGOプログラム生が学生ベンチャーとして、株式会社サイディン (CyDing Co., Ltd)を立ち上げました！

2016-05-22

HIGOプログラム生が 学生ベンチャーとして、株式会社サイディン (CyDing Co., Ltd)を立ち上げました！
製剤添加物や医薬品として汎用性の高いシクロデキストリンを研究する会社です。
5/21(土)には、株式会社リバネス主催の「Tech Planter in 熊本のキックオフイベント」に参加し、
3分間という限られた時間の中で、専門外の方々に、研究内容を伝えることにも挑戦！
5/22の熊本日日新聞にも掲載されました。

(出典：HIGO プログラムウェブサイト)

資料 A-2-1-2-9 大学院修了生による学内ベンチャー起業

**がん治療の世界に
新風を起こす！**

平成30年1月19日、熊 Quool が誕生しました。目標は、副作用の少ないがん治療薬や治療法の開発をサポートすることでがん患者さんの生活の質 (QOL) の向上を追究すること。そして「みんなを救う=Cure All」。この 2 つの言葉が社名 Quool に込められています。

STEP4

最優秀賞

グランプリで最優秀賞獲得

様々な苦勞も勝利パネスや周囲のサポートで乗り越え、平成29年7月の「第2回熊本テックブラングランプリ」で最優秀賞を受賞。10月には全国大会でも日本ユニシス賞を獲得しました。大会後の懇親会では、食事できないほど次から次に名刺交換をしたと刈谷特任助教。岡田教授は、「プレゼンなどで人に話すことで、漠然とした夢が具体的な形になります。刈谷君もこの1年でより成長しました」。

STEP5



CyDing と Quool の
共同事業も進行中！
熊 CyDing が販売を
予定している飲料の効果を
熊 Quool が持つ技術で
科学的に解析しています。



熊 Quool を通して、がん治療に
新しい道を拓く超免疫不全マウス

**熊本大学の
ベンチャー支援**

その1
夢を実現する資金支援
**学生ベンチャー
「夢プロジェクト」**

新規ビジネスの構築や、技術のベンチャー化など、学生ならではのアイデアを活かした起業を目指すプロジェクトに、ステージに応じて資金支援を行っています。平成30年度も募集しますので、是非とも応募してください！

熊本創生推進機構 インベーション推進部門
TEL: 096-342-2035
sangaku-somu@jmu.kumamoto-u.ac.jp

その2
外部の目で夢を事業化！
**熊本テックブラン
グランプリ**

熊本県、(株)肥後銀行、熊本大学、(一社)熊本県工業連合会、(株)リバネスによる「熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム」が開催する、起業プランコンテスト。学生や企業チームが参加し、ビジネスプランをプレゼンします。受賞者には企業や金融機関の支援があり、起業に向けた支援が行われます。



刈谷 龍昇 特任助教
(株) Quool 代表取締役

平成27年熊本大学大学院医学教育部分博士課程修了。同4月より熊本大学エイズ学研究センターの博士研究員として、超免疫不全マウスを用いた新免疫抑制法の開発を行っている。

夢を具体化する最初の一步が「熊本テックブラングランプリ」

記述し、今後は運営していくというプレッシャーも感じています。まずは超免疫不全マウスを用いたモデルマウス作製委託や薬効試験などの業務で資金を得て、5年後をめどに患者腫瘍組織移植マウスモデルを用いた前臨床試験の受託と、マウスモデル自体の販売も計画しています。

熊本テックブラングランプリは、自分の夢を思い切り語っていい場所。それに対してオーディエンスがアドバイスをくれて、夢が具体化していきます。チャンスは与えられるので、夢があるならぜひ出場することをお勧めします。



弘津 辰徳 さん
サイディング
(株) CyDing 代表取締役

熊 CyDing とは、第1回熊本テックブラングランプリ最優秀賞受賞後、熊リバネスや熊本大学の支援を受け、医学教育部の大学院生だった弘津さんと後輩2人で平成28年に設立したベンチャー企業。弘津さんが学生時代に所属した研究室で取り組んだシクロキネストリンを柱に、医薬品や難治性表示食品の開発を目標としている。

飲料を開発。市場調査を実施した後、商品化して販売する予定です。とはいえ、やはりメインは医薬品の開発。大きな可能性を秘めたシクロキネストリンを応用し、抗がん剤をはじめ、いろいろな薬を開発していくことが目標です。

(出典：熊大通信 vol.68)

3. 学業の成果の達成度・満足度

学生の学業成果達成度や満足度を調査するために、授業改善アンケート (P39 前掲資料 A-1-2-3-7) を実施し、アンケート結果を元に順次問題点の改善に着手している。

52

(水準) 期待される水準にある
(判断理由)

修士課程における修業年限内の修了率は高く適切な指導がなされたと判断する。一方で、博士課程では修業年限内の修了率はやや低下するが、これは社会人大学院生が含まれていたためと考えられる。外国人留学生の修了率は高く概ね適切な指導がなされたと判断する。学位授与者は平成 27～29 年度の 3 年間で修士 40 名、博士 194 名であり、全て厳格な審査が行われた。多くの学会発表や論文発表を通じて優れた研究を公表した。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

修了者の卒業後の進路状況を定期的に把握している。修士課程修了者の約 23%が博士課程へと進学している。前回の組織評価時よりもその割合は低下しているが、一方で、就職を希望している修士課程修了者(約 63% 3 年間の平均)のうち、実際に就職できた学生の割合は 3 年間平均で約 91%である(資料 A-2-2-1-1)。就職活動支援が行われたことにより、高い就職率が得られたと考えられる(資料 A-2-2-1-2)。博士課程においても、就職希望者の就職率は約 94%と極めて高い数字であり、医学教育部で育成した人材が社会に還元されている。外国人留学生の修了後の進路は母国に帰国して活動を継続する者、あるいは日本で更なる研究を推進する者など様々であり、多様な人材を輩出している。従来、外国人留学生が帰国した後のサポート体制は充分とは言えなかったが、私費留学生の多くが在籍する HIGO プログラム内にフェイスブックを立ち上げ、日本人や修了生を含めた交流や情報収集に役立っている(資料 A-2-2-1-3)。また、DDP 制度の創設や部局間交流協定の増加により、交流体制が整いつつある。(中期計画番号 3、4、5、6)

資料 A-2-2-1-1 医学教育部の進学率、就職率及び就職希望者の就職率

【修士】	27年度	28年度	29年度	【博士】	27年度	28年度	29年度
修了者数	15	12	13	修了者数	72	66	72
進学者	2	4	3	進学者	0	0	1
進学者の割合	13.3%	33.3%	23.1%	進学者の割合	0.0%	0.0%	1.4%
就職者	13	7	6	就職者	51	53	56
就職者の割合	86.7%	66.7%	53.8%	就職者の割合	70.8%	80.3%	77.8%
その他の数	0	1	4	その他の数	21	13	15
就職希望者	13	8	7	就職希望者	55	56	59
就職率	100.0%	87.5%	85.7%	就職率	92.7%	94.6%	94.9%

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-2-1-2 就職支援体制

医学教育部独自の就職支援

**医学教育部学生を対象とした
就職支援セミナーを開催します！**

就職活動・進路について
「相談できる相手がいない」「学生への就職先の紹介・勧誘が少ない」
などの不安を抱いていませんか？



キャリア支援課（黒髪キャンパス）では、企業経験を持つスタッフが
就職・キャリア形成の支援活動を行っています。
今回は、同課長で、元リクルート社の日和田 伸一氏を迎え、
以下のセミナーを開催します！
「就職のフロ」の話を通して、素朴な疑問・不安を解消し、
「自分らしい将来」を描いてみませんか？
なお、セミナー終了後に懇親会を企画しております。
学生の皆さんは参加費無料ですので、是非ご参加下さい。

参加を希望される方は、11月8日（水）までに
医学事務チーム教務担当までメールにてご連絡願います。

医学教育部学生を対象とした就職支援セミナー

日 時：平成29年11月20日（月）16:00～17:30

場 所：医学教育図書棟4階 第4講義室

内 容：1. 大学院教育委員長挨拶
2. キャリア支援課長講話
（元リクルート社 日和田 伸一氏）
3. 質疑応答

※セミナー終了後懇親会

連絡先：医学事務チーム教務担当
（Tel:096-373-5025 内線5029
Mail:iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp）

就職活動に詳しい
講師によるセミナーと、
医学教育部を修了後、
就職したOB・OGとの
懇談会を
開催しています。

（出典：大学院入試説明会資料）

資料 A-2-2-1-3 留学生交流のためのフェイスブック



（出典：フェイスブック）

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

修士課程の博士課程進学率は 23%とやや低下したものの、修士課程終了後の就職率は 3 年間の平均で希望者の 91%であり、就職支援を実施が効果を示したと考えられる。博士課程においても極めて高い就職率であり人材の社会への還元を実施している。外国人留学生の卒業後の支援を推進するため、ソーシャルネットワークサービス(フェイスブック)の運用を開始し、情報の共有や交流を図っている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 教育活動の状況

(質の向上度)

重要な質の変化あり。

高い質を維持している

(理由)

重要な質の変化があったと判断できることとして、以下のことがあげられる。

- ・平成 29 年度(10 月入学)より、社会人修士課程学生の受け入れを開始し、すでに広く社会で活躍中の医療従事者等に対して、さらに高度な知識・教養・技術を与えるための人材育成に取り組んでいる(前掲資料 P22 A-1-1-2-5)。

- ・平成 29 年度より、卓越大学院生制度を導入した。大学院生がよりハイレベルな研究成果をあげることがを支援する目的で行うもので、厳密な審査の上、数名程度を選抜し研究費の支援等を実施している(前掲資料 P36~37 A-1-2-3-1、A-1-2-3-2)。

- ・平成 28 年度より中間審査制度を取り入れた。原則として大学院 2 年次に審査を受けるものとし、研究の進捗状況や方向性などの評価を受けるだけでなく、さらに研究を発展させるための助言を提供することを企図している。指導教員だけでなく第三者からの指導が受けられる、良い機会となっている(前掲資料 P31 A-1-2-1-4)。

その他、タイ・コンケン大学とのダブルディグリープログラム締結(前掲資料 P18 A-1-1-1-12)、国費留学生・特別枠の獲得による国費および私費留学生の積極的な受け入れや授業・シラバス・ウェブサイト情報の英語化を実施しており、国際化の一層の対応を行った。また、大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。さらに、学生の積極的な海外への派遣を支援するプログラムを実施した。

(2) 分析項目 II 教育成果の状況

(質の向上度)

改善、向上している。

(理由)

学生の積極的な学会発表および論文発表を奨励し、多くの学位授与者を社会に還元した。また、修士課程および博士課程の在学生の就職状況調査や在学中の就職活動のサポート体制を整備したことにより、特に修士課程修了後の就職率が向上した。柴三郎プログラムも順調に稼働し、履修生の学会発表・論文採択が活発に行われている。九州がんプロ養成プランのもとで、がんプロ履修生の専門医資格取得も得られている。

なお、従来、積極的な外国人留学生の受け入れを実施しているにも関わらずその修了者サポートは充分とはいえなかったことを踏まえ、現在は HIGO プログラムウェブサイト内にフェイスブックを立ち上げ、交流や情報共有を図っている。

IV 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

医学教育部の社会貢献面での目的は、医学教育部のアドミッションポリシーにあるように、我が国及びアジアを中心とした諸外国の医学・医療に貢献できる人材を育成すること、在職中の社会人への医学・生命科学研究の機会を提供すること、高い知識と技術を持つ専門職業人を育成し社会に還元することなどからなる。また、外国人留学生には、母国あるいは国際的に活躍できる人材を育成することと、熊本大学あるいは日本人研究者との将来にわたる交流の持続と発展を確立することにある。その特徴としては、臨床医学、基礎医学、社会医学、発生再生医学、エイズ学など、様々な医学・生命科学研究分野での教育を通して、国際的に高水準な研究を大学院生に実践させる機会を提供できる事にある。その結果、医師・歯科医師免許を有した大学院生に関しては、医学教育部での研究を通して、研究マインドを有した医師・歯科医師、医学研究者、医学教育者など医療・医学分野で活躍する人材を社会に送り出し、また、医師・歯科医師でない大学院生についても、医学・生命科学分野での研究者、教育者、企業人として社会で活躍する有意な人材を育成するために、教育している。外国人留学生も同様で有り、また、日本人指導者や同僚との人間的な交流も期待されている。さらに、平成24年度から開始されたHIGOプログラムもここに至って円熟期を迎え、生命科学における専門性、国際性を持ちつつ、地域社会でのニーズに応じた牽引役となる人材を育成する特徴を持つ。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、若手医師、歯科医師、医学部・歯学部以外の出身者、社会人、外国人留学生などからなる。若手医師・歯科医師からの医学教育部に期待されることは、国際的に通用する研究にたずさわる機会が提供され、優れた研究成果を上げること、将来の医療人としての資質の向上、研究者や教育者としての基盤となる学問的財産を構築することにある。また医学部・歯学部以外の出身者にも、同様な事項が期待され、医学・生命科学のエキスパートとして社会に貢献できるような教育を受ける機会の提供が期待される。

社会人の多くは、医療・医学関係の仕事に従事しながらの大学院生生活を過ごすことになり、優れた研究に限られた時間で効率よく研究室で遂行する機会が与えられる事、大学院修了後に、より広い視野に立った医療人、教育者、研究者となれる資質の涵養を期待している。外国人留学生には、優れた研究に参加する機会の提供、研究成果の達成の指導と成果とが求められていて、大学院修了後に、日本国内、国外(母国、あるいは母国以外)で活躍できる能力が育成されること、研究指導者や研究室の同僚との持続した交流を期待している。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

医学教育部においては、カリキュラムポリシーに基づき、各指導分野での教育、オムニバス形式の講義、コースワークを構築し、国際水準の研究者・教育者・研究マインドを持つ医療人などを社会に送り出してきた（平成 27 年度から 29 年度における修士課程修了率は 92～100%；博士課程修了率は 63～100%；就職希望者の修士課程就職率は 86～100%；就職希望者の博士課程就職率は 93～95%）。また、教育システムの整備を行い、eラーニングによる授業の推進、長期履修制度の活用などにより、社会人や出産・育児に携わる大学院生の単位・学位取得を推進している。外国人留学生には、日本語教育や英語での講義などを増やしている。また、HIGO プログラムの運用により、新たな人材育成を継続し成果も得られている。（中期計画番号 17、31、32、33、34、35）

【改善を要する点】

社会貢献の客観的な評価制度は確立されつつあるが、積極的な情報の公開が望まれる。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 大学の目的に照らして、社会貢献及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献及び地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点到係る状況）

医学教育部の社会貢献の主たる目的については、生命科学研究部ウェブサイトにも明記するとともに、医学教育部ウェブサイトのアドミッションポリシーに示されている（資料 C-1-1-1-1、C-1-1-1-2）。その計画については、カリキュラムポリシーに示されている通りであり、基本プログラムである各分野での研究指導体制からなる「実践プログラム」とともに、分野横断的な「理論」および「セミナー」各種、また専門分野の人材育成を目指した「発生・再生医学研究者養成コース」、「エイズ制圧を目指した研究者養成コース」「がん博士育成プログラム」「代謝・循環情報医学エキスパート育成プログラム」などを提供している（資料 C-1-1-1-3）。なお、HIGO プログラムについては、医学教育部の講義・演習を共用するとともに、プログラムの目的を果たすための企業や行政のセミナー、インターンシップ、語学関連講座、社会文化科学研究科の講義・演習なども定期的に企画され実行されている（資料 C-1-1-1-4、C-1-1-1-5）。

地域貢献に関しては、熊本医学・生物科学シンポジウムを公開講座として、様々な最新の医学生物科学のトピックスを九州地区や熊本県内の大学教員や学生等に公開している（資料 C-1-1-1-6）。また、柴三郎プログラムを通して、地域の高校生を対象として研究室での研究参加を募り、柴三郎 Jr. の発掘として、地域の高校生へその内容を公開している（資料 C-1-1-1-7）。平成 29 年度及び 30 年度においては、8 月に阿蘇郡小国町において夏季セミナーを開催した（資料 C-1-1-1-8）。一方、HIGO プログラムについては、地域社会のニーズに合わせたカリキュラムの作成が行われ、特に、企業・行政セミナーは、地域社会のニーズや課題に敏感に対応する資質を涵養するセミナーで有り、これに行政機関や企業へのインターンシップの実施を加えることにより、習得した知識を実践能力へ結びつける機会となっている（資料 C-1-1-1-9）。また、活動実績はニュースレターとして公開し、メディアにも紹介されている（資料 C-1-1-1-10）。（中期計画番号 17、31、32、33、34、35）

資料 C-1-1-1-1 生命科学研究部の基本目標（社会的貢献）

熊本大学大学院生命科学研究部の基本目標

研究と教育

1. 医学・薬学及び保健学における創造的な研究活動によって、生命現象の真理を探究し、それらの成果を医療の実践、疾病の予知・予防に導入します。未知の医学、医療、薬学領域に常に挑戦し、医療・医薬科学の進展に貢献します。
2. 自主性を重視する教育により、医療・医薬科学での研究成果を次世代に伝え、医科学研究者、薬科学研究者、生命倫理研究者、並びに指導的医療人を育成します。

社会的貢献

1. 研究活動によって得られた知的財産を社会に還元し、人類の健康と福祉の発展に寄与します。
2. 医療・医薬科学領域での国内外における指導的人材の育成を図り、これらの人材を通じ社会の発展に寄与します。

（出典：生命科学研究部ウェブサイト）

資料 C-1-1-1-2 医学教育部のアドミッションポリシー

熊本大学大学院医学教育学部のアドミッションポリシー

医学教育部では、その設置理念と目的に基づき、次のような人を求めています。

修士課程（医科学専攻）

1. 医学・生命科学に興味をもち、最先端の医学・生命科学領域に対応できる研究者、教育者あるいは高度専門職業人になる能力と意欲をもった人
2. 修士課程における研究をさらに発展させるべく、博士課程に進学する意欲をもつ人
3. 博士課程に進学して、エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人になる意欲を強くもつ人
4. 博士課程に進学して、地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

博士課程（医学専攻）

1. 教育・研究を通して、将来の我が国および諸外国の医学・生命科学に貢献する能力と熱意を持つ人間性豊かな人
2. 研究を通して国内外の人々との交流を実践し、医学・生命科学の分野において世界をリードする研究と教育の展開を志す人
3. 在職中の社会人として、医学・生命科学の研究に取り組む熱意と能力を持った人
4. 医学以外の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・生命科学の教育、研究あるいは社会還元を志す人
5. エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人を強く志す人
6. がん研究とがん医療の臨床習練をともに行い、がん診療に関係する専門医あるいは認定医の資格取得を志す人
7. 地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

（出典：医学教育部ウェブサイトより）

資料C-1-1-1-3 博士課程における教育コース一覧

医学教育部(博士課程)

専門分野の人材育成プログラム

- ① エイズ制圧を目指した研究者育成コース
- ② 発生・再生医学研究者育成コース
- ③ がん専門博士育成プログラム
- ④ 代謝・循環情報医学エキスパート育成コース
- ⑤ グローカルな健康生命科学パイオニア養成(HIGO)
- ⑥ 柴三郎プログラム (医学科学生と初期研修医向け)

(出典：大学院入試説明会資料)

資料C-1-1-1-4 HIGOプログラムのカリキュラム



(出典：HIGOプログラムウェブサイト)

資料C-1-1-1-5 H I G O企業セミナー・行政セミナー実施一覧

【平成27～29年度】HIGO企業セミナー

年度	日程	所属	タイトル	HIGOの趣旨に合うキーワード
27年度	5月28日(木)	アジア法務サポートセンター 代表理事、弁護士	国際契約について	グローバル(アジア)・社会文化科学(法律)
	10月8日(木)	協和発酵キリン株式会社 CSR推進部リスク管理グループ マネージャー	企業研究者のキャリアパスとCSR(パート2)	企業運営 社会貢献 企業の社会的責任
	11月5日(木)	株式会社東京大学エッジキャピタル(UTEC) プリンシパル	ベンチャーキャピタルによる新産業の共同創出	医薬 ビジネス ベンチャービジネス、URA
	11月19日(木)	熊本市観光文化交流局MICE推進課 主幹	熊本市の東アジア戦略について	グローバル(熊本・九州、アジア) 地方行政担当者、リーダー
	11月26日(木)	第一三共株式会社 研究統括部研究企画G 主査	学びは続くよ、どこまでも -Planned Happenstanceのすすめ-	医薬、オープンイノベーション Planned Happenstance
	12月17日(木)	近畿大学医学部 講師	博士号の活かし方～ライフサイエンス系博士よ、したたかに、しなやかに生きよう	医薬 ポスドク問題、博士人材のキャリア、科学コミュニケーション、 科学技術政策等
	1月14日(木)	日本科学未来館 科学コミュニケーター	はじめよう!伝わる科学コミュニケーション	グローバル、グローバル 科学コミュニケーション
	2月23日(火)	NPO法人田舎のヒロインズ 副理事長	農家が語るイノチの保障 ～いざという時、あなたは大丈夫?～	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外) マスコミ、国際貢献、ビジネス
	28年度	5月10日(火)	株式会社リバネス 代表取締役CEO	熊本から世界へ
5月26日(木)		重光産業株式会社 副社長	熊本から世界へ ～7坪8席で創業した味千拉麺の挑戦～	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外)、 ビジネス
6月9日(木)		EYアドバイザリー株式会社 Management of Technology	コンサルティングとは何か ～博士が身に付けた力を活かす場所を考える～	グローバル(九州・日本)、ビジネス、キャリアパス
7月14日(木)		近畿大学 医学部付属病院 臨床研究センター 講師	性別に関係なく活躍できる研究環境をどうつくるか	グローバル(アジア以外の海外)、 医薬、マスコミ、キャリアパス、就職活動
7月21日(木)		株式会社木村铸造所 第3営業部海外課 係長	捨てる神あれば、拾う神あり -「木村铸造所」の名を世界に!	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、 国際貢献、ビジネス、学問の垣根を越えた文理融合の国際コーディネーター
10月6日(木)		シンジェンタジャパン株式会社 人事	キャリアを築く:グローバルで活躍するために自分を 知り、良い会社とは何かを考える	グローバル(アジア)、グローバル(アジア以外の海外)、医薬、ビジネス、 リーダーシップ、キャリアパス、自己分析、就職活動
10月13日(木)		株式会社えがお 人事部・総務部・法務部部长	働くとは?	グローバル(熊本・九州、アジア)、 健康食品、社会貢献
12月5日(月)		経世論研究所 所長	日本の防災安全保障と経済力	グローバルイノベーション、経済、社会インフラ、防災
29年度		5月25日(木)	株式会社CSC Capital Japan 代表取締役パートナー	ベンチャーキャピタルという仕事
	6月8日(木)	株式会社新日本科学 安全性研究所 研究推進部 免疫・ウイルス研究室 室長 兼 安全性研究所研究統括部 iPS細胞治療プロジェクト支援室室長	キャリアと人生における決断のとき	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外)、 医薬、国際貢献、ビジネス、キャリア形成、女性Ph.D.、インターンシップ
	6月22日(木)	知的財産総合事務所 NEXPAT パートナー 弁理士(共同経営者)	医薬業界従事者のための特許入門	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外) ビジネス
	7月13日(木)	株式会社堀場製作所 理事 管理本部CSR担当 HORIBA COLLEGE 学長	Do you have "JOY and FUN" in your own work?	グローバル(熊本・九州、アジア) *熊本に堀場の工場がある グローバル(アジア以外の海外)、国際貢献、ビジネス その他:女性リーダーとして、大活躍されています。
	9月8日(金)	Research Associate, Stanford Biodesign Advisory Faculty,	僻地医療からシリコンバレーへ!日本を飛び出し17 年、今だから言える若き皆様へのアドバイス	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外)、 医薬、国際貢献、ビジネス、起業
	10月5日(木)	櫻谷公認会計士事務所 代表	地域活性化、地域創生と企業の再生と国際化	ビジネス
	10月26日(木)	アクセント株式会社 マネジングディレクター	理系大学院生のNextキャリア～世界最大級のコンサル ティングファームという選択肢	グローバル、ビジネス、経営、リーダーシップ、課題発見・解決策の提案
	11月9日(木)	上海柯而力環保科技有限公司 副総経理 Executive Vice President, Shanghai Kerli Environmental Technology Co., Ltd.	中国の水処理事情と独立事業の立ち上げまで	グローバル(アジア) ビジネス 国際貢献
	11月17日(金)	株式会社熊本日日新聞社 編集委員 熊本大学 客員教授	研究者にとって社会リテラシーの大切さ ～情報洪水の中でどう情報を集めるか～	グローバル(熊本・九州、アジア)、グローバル(アジア以外の海外)、 マスコミ、キャリアパス、情報発信、文理融合

熊本大学大学院医学教育部分析項目 I

【平成27～29年度】HIGO行政セミナー

年度	日程	所属	講演タイトル	HIGOの趣旨に合うキーワード
27年度	6月4日(木)	香港大学法学部 教授	The "Umbrella Movement" and the Struggle for Democracy in Hong Kong: The Story of "One Country, Two Systems"	グローバル(熊本・九州、アジア) 社会文化科学(法律)
	6月25日(木)	熊本市国際交流振興事業団 事務局長	真の国際化を目指して	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、国際貢献
	10月1日(木)	宇宙航空研究開発機構 (JAXA)広報部報道グループ広報部 報道・メディア課 参事	国際宇宙ステーションの仕事	グローバル
	10月22日(木)	熊本市 市長	熊本市の目指す「地域主義」とは	グローバル、地域行政
	12月3日(木)	米国モンタナ州政府 駐日代表事務所(熊本県庁内)	地域、人をつなぐ、つなげる仕事	グローバル(熊本・九州、アジア) グローバル(アジア以外の海外)、国際貢献、ビジネス
	12月10日(木)	日本医療研究開発機構 執行役	生物学の視点から海辺の環境を見つめ直す	医薬、科学技術政策(ライフサイエンス)、 社会文化科学(生命倫理、公共政策)
	1月21日(木)	鹿児島大学大学院 理工学研究科(理学系) 地球環境科学専攻 教授(日本ベントス学会運営委員)	生物学の視点から海辺の環境を見つめ直す	グローバル(熊本・九州、アジア)、環境問題 環境行政
	2月1日(月)	北海道大学 国際本部 特任教授・シニアアドバイザー	国際舞台で、己を見失わないために - 国連WHOにおける経験を基に -	グローバル(熊本・九州、アジア) グローバル(アジア以外の海外)、医薬、国際貢献
28年度	7月7日(木)	厚生労働省医政局総務課 医療安全対策推進室長	国で働く行政医について	医療健康政策
	10月21日(金)	熊本大学 顧問・名誉教授	いれずみ(Tattoo)への眼差し	医薬
	11月4日(金)	未来医療研究機構 (元 国立保健医療科学院) 代表理事	50年で別の国になる日本 その時「人生」「社会」は、そして「医療」は? 地域包括ケアの基礎理論「ケアサイクル」から考える	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、医薬、国際貢献、 ビジネス、医療政策・WHOその他
	11月10日(木)	熊本市議会 熊本市議会議員	赤ちゃんを抱えてそれでも私が立候補した訳	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、公共政策、国際貢献
	11月17日(木)	厚生労働省(大臣官房会計課、社会保 障担当参事官室併任) 政策統括官 政策企画官	政策立案プロセスの実際 ～社会保障分野の実例から～	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、医薬、国際貢献
	11月24日(木)	在英シンクタンク Komatsu Research & Advisory (元マダガスカル共和国 大統領特別 顧問) 代表	地図から見る国際社会の最新課題	グローバル(熊本・九州、アジア)、 グローバル(アジア以外の海外)、 医薬、マスコミ、国際貢献、ビジネス
	12月8日(木)	International NGO, Sightsavers, Bangladesh Country Director	NGOの発展、活動、そして国家建設における貢献について	Leadership, Contribution to National Development, International Communication, International Contribution, Global
	12月15日(木)	福島県立医科大学医学部 甲状腺内分泌学講座 主任教授	福島原発事故後の小児若年者甲状腺癌について	グローバル(熊本・九州、アジア)、 医薬、マスコミ、国際貢献、ビジネス
29年度	6月1日(木)	産業考古学会理事	明治日本の産業革命遺産～九州各地の産業遺産・登録の経緯とその魅力～	グローバル(熊本・九州、アジア) グローバル(アジア以外の海外)、マスコミ
	7月27日(木)	Professor, Department of Microbiology, Jahangirnagar University, Bangladesh	バングラデシュにおける近年の産学連携の動向	グローバル(熊本・九州、アジア)、医薬、ビジネス
	7月28日(金)	独立行政法人国際協力機構(JICA) 農村開発部第一グループ第二チーム課 長	国際協力に携わること-JICAにおける経験を通じて-	グローバル(熊本・九州、アジア) グローバル(アジア以外の海外)、国際貢献
	10月10日(火)	石巻地域包括ケアセンター 包括ケ アセンター長 石巻市立病院開成(仮)診療所 診療 所長 内科部長 東北大学 臨床教授	いのちと暮らしを大切にしたい震災からの復興戦略～東北から熊本へのパト ン	グローバル(熊本・九州、アジア) グローバル(アジア以外の海外)、マスコミ、国際貢献、 災害、高齢化、地域づくり、地域包括ケア、医療福祉連携
	10月12日(木)	Senior Fellow, Health Policy Center, Urban Institute (U.S.A)	アメリカの保健サービスの構成・実施・財政の歴史的概観	グローバル(アジア以外の海外) 医薬、保健衛生 行政
	11月2日(木)	独立行政法人国立生育医療研究セン ター 開発企画主幹	小児医薬品開発の国内外の最新状況	グローバル(アジア以外の海外) 医薬
	11月16日(木)	宮崎県福祉保健部健康増進課 課長	国・地方自治体の保健医療行政について ～行政医師の立場から～	医薬
	12月14日(木)	JA新潟県厚生連 佐渡総合病院院長	佐渡における地域医療連携システムの構築と医療介護提供体制の模索 - 課題の共有と対策の実践における問題点 -	地域医療、グローバル、リーダーシップ

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

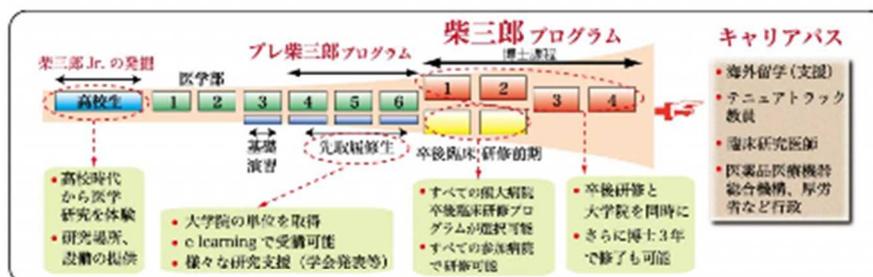
資料 C-1-1-1-6 医学・生物科学シンポジウム担当及びテーマ一覧
(2001年度以降)

医学・生物科学シンポジウム担当教授及びテーマ一覧 (2001年以降)	
2001年度	遠藤 教授 遺伝子治療の最前線
2002年度	小川(道)教授 侵襲と生体反応
2003年度	前田 教授/森 教授 レドックス応答と生体ストレス
2003年度	上田 教授/西村 教授
	I部 農薬の生体影響と安全管理対策
	II部 医科学における分子病態先端研究
2006年度	阪口 教授 免疫制御とその破綻による疾患
2007年度	荒木 教授/竹屋 教授 生活習慣病とバイオラジカル
2008年度	尾池 教授/小川(久)教授 血管医学研究・臨床の最前線
2009年度	富澤 教授/山縣教授 糖尿病基礎・臨床研究の新たな潮流
2010年度	赤池 教授 酸化ストレス研究のフロンティア
2011年度	安東 教授 血漿蛋白質の機能と病原性
2012年度	玉巻 教授 神経疾患の治療を目指した基礎研究の進展
2013年度	遠藤 教授 母乳の科学
2014年度	桑 教授/西中村 教授 幹細胞制御と臓器再建
2015年度	池田 教授 認知症治療の最前線
2016年度	片淵 教授 卵巣の科学
2017年度	馬場 教授 消化器癌治療の最前線
2018年度	富澤 教授 DDP 締結大学の最先端医学研究
2019年度予定	滝澤 教授 epithelial plasticity in cancer (仮題)
2020年度予定	中村 教授/江良 教授 小児難病研究の最前線

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 C - 1 - 1 - 1 - 7 柴三郎 Jr. の発掘

1. 柴三郎 Jr. の発掘



熊本県内の高校生に対しまして医学・生命科学を直接指導します。近隣の高校の生物部などに所属している高校生に対しまして、「発生・再生医学研究」、「癌などの病気の原因遺伝子探索研究」や「遺伝子改変マウスの作製や病気のモデル動物作製」などの最先端医学研究を放課後や休日などに大学の研究室で直接指導を行います。



参加方法といたしましては、大学の研究室でないと研究ができそうにない高度な研究を行いたいと望む高校生より直接ご連絡を取っていただきまして各自の都合の良い日を提示しアポイントメントを取っていただき、自主的に研究に参加いただいております。通常は個別に面談を行っておりますが、オープンキャンパスの際には説明会を行っております。また遠隔地の高校生につきましては、夏休みなどを利用して研究室に訪問いただきまして、医学研究に触れていただけます。

柴三郎 Jr. の発掘プログラムは、時間割のような見学プログラムがあるわけではありません。まずは面談時に「志望分野」や「研究したい具体的な内容」を伺い、該当する研究室とのマッチングを行います。それぞれの希望する研究室に配属した後は、実験手技の見学および指導をうけたのち、研究を開始していただけます。将来は独自の研究を行い発表ができるくらいになって頂ければ幸いです。

このように柴三郎 Jr. の発掘プログラムでは、基礎医学研究に早期に触れさせることにより、研究マインドを芽生えさせ、将来、基礎医学研究者を目指す人材を発掘し育成いたします。研究に必要な費用はすべて熊本大学が負担します。また研究がまとまると、国内外の学会等で発表していただけます。交通費、宿泊費などにつきまして、援助いたします。

(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)



日 時	8月1日(水) ▼ 8月2日(木)	場 所	学びやの里 熊本県阿蘇郡 小国町北里371-1	参 加 資 格	熊本県在住の 高校生	参加費	5千円 1日目の夕食(バーベキュー) 2日目の朝食・昼食 宿泊費(博士の湯入湯費込み) 柴三郎記念館入場料 保険料等
			Tel 0967-46-5560 Fax 0967-46-5561 HP http://manabiyanosato.or.jp		 北里文庫	 貴賓館	

雨天時 | 雨天決行

ただし、台風の接近や大雨洪水警報が熊本市内もしくは阿蘇地方に発令された場合、悪天候で下記の交通機関が運行休止になった場合など悪天候時は、中止します。中止の時は、柴三郎プログラムHPならびにFacebookで周知します。

集 合 現 地 集 合 (8月1日13:30集合)
解 散 現 地 解 散 (8月2日13:00解散)

往路ルート例		
ルート1	やまびこ号 1,500円 ▼ 路線バス 930円 ▼ タクシー	熊本駅6:49/交通センター7:00 → 阿蘇駅前着8:53 阿蘇駅前発9:10 → ゆうステーション着10:12 ゆうステーション → 学びやの里
ルート2	九州横断バス 2,300円/予約制 ▼ タクシー	熊本駅前8:04/交通センター8:16 → 南小国町役場前着10:47 南小国町役場前 → 学びやの里
ルート3	快速小国郷ライナー 1,500円/ 火・金・土日祝運行 ▼ タクシー	JR大津駅(南口)9:25 → ゆうステーション着10:40 ゆうステーション → 学びやの里

申し込み方法 | 参加希望者は、参加申し込み書に必要事項を記入の上、同申し込み書を柴三郎プログラムまで、メール(PDFファイルとして)もしくはFaxでお送り下さい。

申し込み〆切 7月17日(火)

柴三郎プログラム事務局
メールアドレス info@shibasaburo-kumamoto.jp
柴三郎プログラム事務局Fax **096-373-5052**

1日目		プ ロ グ ラ ム		2日目	
13:30	集合 オリエンテーション	大会議室	8:00	朝食 講義1 富澤一仁教授(熊本大学医学部) 「熊本大学医学部の紹介&柴三郎」r.の発掘プログラムについて 「記憶・学習のメカニズム-効率の良い受験勉強とは-」	北里バラン 大会議室
14:00	DVD鑑賞「北里柴三郎の生涯」	大会議室	10:30	休憩	
14:40	柴三郎記念館見学・記念撮影	柴三郎記念館	10:45	講義2 永芳 友(天草地域医療センター) 「若手医師から見た臨床と研究」	
16:00	基調講演1 尾池 雄一先生 (熊本大学医学部 医学科長) 「未来医療の扉を開く医学研究の醍醐味」	大会議室	11:30	熊本大学医学部卒業生との交流・質問コーナー 永芳 友 先生 永芳 真理子 先生	
17:00	研修室への移動、休憩(入湯)	研修室(博士の湯)	12:00	昼食	北里バラン
18:00	夕食(バーベキュー)	北里バラン	13:30	解散	
19:00	交流会 ※入浴(博士の湯)は21:00まで	小会議室			
21:30	解散				
22:00	消灯	研修室			

【共催 熊本公徳会】

(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)

資料C-1-1-1-9 H I G Oプログラムによるインターンシップ一覧

年度	実施期間	インターンシップ名	HIGO生 参加人数	準プロ生 参加人数	合計
27年度	企業 8月31日～9月4日	新日本科学	7	1	8
2	企業 9月10～16日 *土日を除く	熊本日日新聞社	4	0	4
3	企業 10月26日～30日	化血研	6	0	6
4	行政 7月4日、25日、30日、8月22日、23日	天草	22	0	22
5	海外 9月7日～9月20日	ベトナム (ハノイ大学、ベトナム政府)	13	0	13
6	海外 2月27日～3月6日	バンクアデシュ (グラミン銀行、グラミンコミュニケーションズ)	7	0	7
7	企業 7月14日～7月25日	シンガポール国立大学 (NUS)	1	-	1
8	企業 1月24日～2月28日	JICA	1	-	1
9	海外 5月30日～8月9日	STC.UNM	1	-	1
10	企業 7月～10月 (月2回)、 10月8日～10月16日	ヤマユキ野	2	-	2
11	企業 9月7日～9月18日	EYアドバイザリー	1	-	1
12	企業 7月25日～7月29日	同仁化学研究所	2	0	2
13	企業 8月29日～9月2日	新日本科学	7	0	7
14	企業 9月5日～9月9日	川澄化学工業	11	0	11
15	企業 9月12日～9月16日	熊本日日新聞社	5	0	5
16	行政 10月15日～10月19日、11月23日、2月18日	上大草	16	1	17
17	海外 6月29日～7月6日	ワイン (ワイン、ヴァル・ド・ワール地域)	8	-	8
18	海外 9月25日～10月2日	ネバル (カトマンズ)	8	-	8
19	海外 11月26日～12月3日	DC (公衆衛生)	2	-	2
20	海外 1月19日～1月27日	フィレン (WHO)	2	-	2
21	海外 6月7日～6月17日	STC.UNM	1	-	1
22	行政 7月20日～9月15日	上大草市役所	1	-	1
23	行政 8月4日～8月12日	EYアドバイザリー	1	-	1
24	海外 8月1日～8月12日	コペンハーゲン大学	1	-	1
25	海外 8月26日～9月26日	シリコンバレー研修in US-Japan Forum	1	-	1
26	企業 8月28日 (月)～9月1日 (金)	川澄化学工業	6	4	10
27	企業 9月4日 (月)～9月8日 (金)	新日本科学	5	2	7
28	企業 9月19日 (火)～9月25日 (月) *土日を除く	熊本日日新聞社	3	1	4
29	企業 10月2日 (月)～10月6日 (金)	同仁化学研究所	2	0	2
30	行政 8月28日 (月)～9月1日 (金)	水俣	9	1	10
31	行政 9月13日 (水)～9月15日 (金)、11月23日 (木)、12月16日 (土)、2月3日 (土)	天草	6	0	6
32	海外 8月18日 (金)～8月25日 (金)	ネバル	9	-	9
33	海外 11月25日 (土)～12月3日 (日)	DC	4	-	4
34	海外 1月24日 (水)～2月1日 (木)	フィレン	9	-	9
35	海外 1月22日 (月)～2月16日 (金)	STC.UNM	1	-	1
36	企業 2月12日 (月)～2月24日 (土)	新日本監査法人	1	-	1
37	企業 12月4日～12月8日	杉義蜂園	1	-	1
38	海外 7月15日 (土)～8月12日 (土)	Justus-Liebig-University Giessen (ユストゥス・リヒグ大学ギーゼン) ドイツ ゴーゼン	1	-	1
39	行政 8月21日 (月)～8月25日 (金)	平成29年度厚生労働省職場体験実習 (インターンシップ)	1	-	1
40	行政 9月19日 (火)～9月29日 (金)	平成29年度夏期文部科学省インターンシップ	1	-	1
41	企業 11月15日 (水)～11月22日 (水)	スウェーデン・フィンランド歯科研修2017	1	-	1
42	行政 2月26日(月)～3月9日 (金)	平成29年度春期文部科学省インターンシップ	1	-	1

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料C-1-1-1-10 HIGOプログラム学生における記事

子宮頸がん検診率向上のための活動 (K発プロジェクト)

熊本大学（附属病院産婦人科、保健学科、社会文化科学研究科など）、行政機関（熊本県健康づくり推進課、熊本市健康づくり推進課）やKKTくまもと県民テレビ、民間医療機関と連携して実施している活動に、HIGOプログラム生や教員が参画。11月1日の熊本大学の紫熊祭では、プログラム生たちが中心となり、子宮頸がんにかかった女性を主人公とする映画を上映。熊本県、および熊本市の協力を得て、医師による講演や無料検診ツアーも実施しました。



HIGOprogram Newsletter vol.5

熊本市の国際化に関する取組

熊本市、A-commerce、マレーシア政府系機関ハラル開発公社が協同で実施している活動に、HIGOプログラム生や教員を中心とする熊本大学の有志が参画しています。熊大チームは「英語の観光マップ」に掲載する情報の収集と「ムスリムフレンドリー」のステッカーの作製を担当。これらの活動を熊本市民の方々に周知、浸透させるために、熊本市主催のイベントにも参加しています。



ムスリムフレンドリーステッカー



HIGOprogram Newsletter vol.5

(出典：HIGOプログラムニュースレター)

広報「上天草」（平成28年10月号）にHIGO生のインターンシップの記事が掲載されました。（許可を得て掲載）

2016-10-14

HIGOプログラム生が、2016年7月20日から9月15日までの約2カ月間、上天草で行ったインターンシップに関する記事が、広報「上天草」平成28年10月号に掲載されました。

詳細は、以下リンク先からご覧ください
<http://www.city.kamiamakusa.kumamoto.jp/library/h28/10/>
 広報「上天草」平成28年10月号、30ページ

熊本大学大学院博士課程3年の穴井茜さんが
上天草市の健康問題を探る

7月20日から9月15日までの約2カ月間、熊本大学大学院の穴井茜さん（熊本市）が上天草市役所にインターンシップ（職場研修）で訪れました。穴井さんは、平成25年に熊本大学大学院が実施するHIGOプログラムの一環で「地域医療の現場を学びたい」と天草地域の医療施設や老人ホームなどでの研修に参加した経験があります。その時の縁もあり、今回は、大学院の研究テーマとして上天草市の健康問題などを取り上げられないかと、自らの健康づくり推進課に打診し、再び上天草市に来ることになりました。

期間中は、市職員が行う保健指導や特定健診に同行し、上天草の課題などを探りました。穴井さんが見た市の現状として「男女間の体力差が大きいこと」や、「肥満児が多いこと」が挙げられると報告会で市職員に説明。穴井さんは「今後も、上天草の健康問題について研究できればと思う」と話しており、研究結果の還元が期待されます。



報告会で市の職員に説明する穴井さん

（出典：HIGOプログラムウェブサイト）



行政
Government Internship

行政インターンシップ in 上天草
2015. 7.25, 7.30, 8.22-8.23
【参加者：学生23名、教員9名】

今年で3回目となる天草地域でのインターンシップ。継続した活動を通して、地域医療の問題点が見えるようになりました。そこで今年も、目標を「医療・福祉サービスの充実」から「地域住民の健康増進」に絞り、より具体的な提言を目指しました。

目的 地域医療をテーマにローカルな課題発見・解決能力を養う

- 医療関係施設の見学
- 地域医療従事者による講義
- 医療行政関係者との意見交換

通過地の医療の現状把握

住民へのインタビュー

地域医療推進に向けた課題の抽出・分析

解決策の提案、新たな課題の抽出

多職種連携ワークショップ（行政・医療・大学）

H25 地域医療について行政、医療従事者、住民のそれぞれの視点から考える
 【課題】 機能的な医療従事者の不足

H26 地方財政の現状から考えると医療従事者の雇用拡大は難しい・・・
 【課題】 特定健康診査受診率の向上
 地域住民が自ら健康を維持できるまぶつくりの促進

H27 健診やがん検診の重要性が若い世代の住民に理解されていない・・・
 【課題】 若い世代からの健康意識の向上
 小学生の親世代の健診受診率を上げるために、小学校の就学時健診時に顔も血圧や血糖の簡易検査を受ける「あいのり健診」を実施しては？

来年度も継続して実施します！
 3年間で天草地域の実態がわかってきました。今後は、「あいのり健診」のアイデアを実施し、検証していきたいです。

上天草市立上天草総合病院 院長 坂本潤美 先生

天草郡市農商師会とHIGOプログラムとの関わりは、当初の目的であった「天草地域で活躍できる人材の確保」から「地域医療における多職種連携」へと変化してきています。これは当然の帰結であり、農商師会にとってもHIGOプログラムと多職種の方々との連携し役になる」という位置づけを確立できた3年間となりました。今後は「来年における地域医療」という視点で、より学際的な取組ができるよう期待しております。

天草郡市農商師会 会長 北岡敏克 先生

日本語でのプレゼンに初挑戦。自国とインター・アジア各国の医療保険制度の違いがわかり、自国の医療制度の強みと弱みを客観的に検証できた

自分たちでアンケートを作成してみても、疑問設定などの難しさを実感！

それぞれの立場から異なる視点の意見を出し合えば、思わぬ解決策が見つかることも……

HIGOprogram Newsletter vol.5 HIGOprogram | 3

（出典：HIGOプログラムニュースレター）

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部の人材育成という基本的な社会貢献目標について、ウェブサイトなどに明瞭に公開されていて、また、そのことはシラバスに反映されている。また、HIGOプログラムについては、運営委員会などにより、計画が詳細に練られ、その計画もウェブサイトにて的確に紹介され高頻度に更新されている(資料C-1-1-1-11)。

熊本医学・生物科学シンポジウムは、毎年開催され、すでに2020年度までの企画も進んでいることから、定着した事業として市民に公開されていることが評価できる。また、柴三郎プログラムの活動に参加した高校生が熊本大学医学部に進学するなど、柴三郎 Jr. の発掘の成果が上がり始めている。

HIGOプログラムは、ユニークな地域社会とアジア・アフリカを結びつけた健康科学についての教育事業である。博士課程教育リーディングプログラムフォーラム2017で2課題がポスター賞を受賞するなど、HIGOプログラムの成果が得られた。(C-1-1-1-12)

資料C-1-1-1-1-11 HIGOプログラムの概要(抜粋)

The screenshot shows the HIGO program website. At the top, there is a navigation bar with the HIGO logo, the text '熊本大学 博士課程教育リーディングプログラム グローバルな健康生命科学バイオニア養成プログラムHIGO', and various utility links like 'キャンパスマップ | サイトマップ | お問い合わせ' and 'English'. Below the navigation bar, the main heading reads 'About the program プログラム概要'. The content is divided into two main sections: '■ 博士人材の新たなカタチ -健康生命科学の次世代リーダーへ-' and '■ 学生と共に成長できる教育プログラムへ'. The first section includes a paragraph about the program's focus on training future leaders in health and life sciences, and a list of bullet points: '九州・アジア・世界で保健行政、医療行政、薬事行政に携わるリーダー', 'アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー', and '国際的に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー'. The second section includes two numbered points: '1. マルチメンター制度' and '2. 学生同士が切磋琢磨し合える場'. There are two photographs: one showing four young people standing together, and another showing a group of people in a meeting.

(出典：HIGOプログラムウェブサイト)

資料C-1-1-1-1-12 HIGOプログラム学生における受賞



(出典：HIGOプログラムウェブサイト)

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

カリキュラムに示すとおり、基本プログラム及び専門分野の人材育成プログラムも、堅実に運営されている。また、eラーニング対応型の授業の頻度も増えて、修士課程では87.1%に達している(資料C-1-2-1-1)。HIGOプログラムについても、プログラムの目的にあった講義・演習、インターンシップなどが適切に実施されている(P61前掲資料C-1-1-1-4、P62～63前掲資料C-1-1-1-5)。また、年2回の入学時期に詳細な履修説明会を実施することで、スムーズに学習・研究に着手できる手厚いフォロー体制を整えている。

また、平成22年度から29年度にかけては、熊本医学・生物科学シンポジウムを予定通り年1回開催している(P64前掲資料C-1-1-1-6)。平成24年度より柴三郎Jr.の発掘プログラムを公開し、25年度より高校生が医学教育部の研究に参加している。HIGOプログラムの活動は、行政及び産業界とも連携し、理論的かつ実践的な教育プログラムが適切に実行されていて、特にHIGOプログラムの特有な科目である、企業・行政セミナー、行政機関・企業・海外へのインターンシップ、研究室ローテーション実習、社会文化科学研究科の講義・演習などが、適切に実施されている(P61前掲資料C-1-1-1-4、P62～63前掲資料C-1-1-1-5、P67前掲資料C-1-1-1-9)。

企業・行政セミナーは、産業界及び行政から多数の講師を招聘し、講師の経験等に基づいた実践的な講義を行っている。インターンシップは、天草地域の行政機関・医療機関との連携、医療関連企業やメディア等多種多様な企業との連携、海外の企業・大学等と連携し、生きた情報に触れることにより、グローバル社会における課題設定・解決能力の向上を図っている。(中期計画番号17, 31, 32, 33, 34, 35)

資料C-1-2-1-1 eラーニングに関する資料



(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部の人材育成という基本的な社会貢献目標について、堅実に責務を果たしている。今後は、大学院に所属しない若い医師や歯科医師などへのリカレント教育を含めた社会貢献を担う必要があると思われる。

HIGO プログラムでは、予定通り、平成 29 年度において、企業セミナー9 回、行政セミナー8 回、最先端研究セミナー33 回、海外インターンシップ 5 回、行政インターンシップ 5 回、企業インターンシップを 7 回行った。このプログラムでは、広く社会に開放して、実務者レベルの地域の行政、企業関係者に参加してもらうことで実践的な教育も行えた。また、熊本の国際化に貢献する社会活動や子宮頸がん検診率を上げるための啓発活動の実施など (P68 前掲資料 C-1-1-1-10)、地域への参加の実践が確実に行われていることがわかる。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

授業の満足度については、修士課程では授業後改善アンケートを採っているが、博士課程では、授業や就職等のアンケート調査は十分に行われておらず、社会貢献についての満足度の把握はできていない。

熊本医学・生物科学シンポジウムについては、九州地区や熊本県内の大学関係者等からも一定の参加者があり、国際的な研究者を招聘したシンポジウムが有意義に開催された。

柴三郎 Jr. の発掘に関しては、オープンキャンパス時に開催する説明会には約 30 名の高校生が参加し (資料 C-1-3-1-1)、現在、12 分野で高校生を受け入れている。また、18 名の高校生が研究室で研究にたずさわっている。また、参加者が熊本大学に進学するなど、活動の成果が上がっていることから、研究に興味を持った医学部生の育成に効果があると考えられる。また、HIGO プログラムに関しては、海外・行政・企業セミナー参加者からのレポート等から、このプログラムの成果があがっていることが窺える。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

客観的な判断材料は十分には有していないが、研究成果をあげられる人材育成という点では、大学院生の研究成果や学位取得率、留学生の研究者もしくは企業人としての就職者数 (資料 C-1-3-1-2) などから、一定の水準の医学生命科学系の大学院修了者を社会へと送り出していると言える。今後は、大学院に所属していない、医学生命科学分野で働く、あるいは興味を持った人達への啓発活動などを充実していく努力が必要と考えられる。また、すでに医療従事者として活躍している人材のさらなるレベルアップと社会還元のため、博士課程だけでなく、修士課程においても社会人学生の受け入れを進めるなどの検討が必要である。

熊本医学・生物科学シンポジウムは堅実に行われ、柴三郎プログラムの高校生への働きかけについても、順調な高校生からの参加が見られるなど、活動の成果が上がっている。平成 27 年 2 月 28 日より行われた第 4 回サイエンス・インカレでプレ柴三郎学生が文部科学大臣賞を受賞したことは、顕著な成果のひとつといえる (P51 前掲資料 A-2-1-2-6)。また、HIGO プログラムについても、博士課程教育リーディングプログラムフォーラム 2017 において 2 課題がポスター賞を受賞するなどしたことが、本プログラムの成果の表れと思われる (P70 前掲資料 C-1-1-1-12)。加えて、HIGO プログラム履修学生が学生ベンチャーとして起業したことも、社会貢献における特筆すべき成果の一つである。(P52~53 前掲資料)

料 A-2-1-2-8～A-2-1-2-9)。

資料 C-1-3-1-1 柴三郎 Jr. の発掘説明会



(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)

資料 C-1-3-1-2 留学生の進路状況 (博士課程)

留学生進路状況 (博士課程)												
年度	進学(①)	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) ポスドク	(内訳) 大学教員	(内訳) 病院	(内訳) 技術職員	(内訳) その他	その他(③) (研究員※)	不明・未定 (④)	合計 (①+②+③+④)
H27	0	6	4	0	1	0	0	1	0	2	4	12
H28	0	6	2	0	1	2	1	0	0	1	3	10
H29	0	7	3	0	1	1	1	1	0	1	3	11
計	0	19	9	0	3	3	2	2	0	4	10	33
※医学教育部研究員 (無給)												
※平成27年度、平成29年度は単位修得退学者を含む												

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

FDの一環として、学外講師による大学院セミナーへの大学院教員の参加を義務づけた。まだ十分な自己点検、評価、検証には至っていないが、平成25年度より、複数の教員による同僚の講義への授業参観を行い、授業内容などに対する、教員同士のディスカッションを通しての授業改善を始め(資料C-1-4-1-1)、客観的な意見が寄せられるようになった。また、学生委員会の企画で、就職説明・指導を始めた。

熊本医学・生物科学シンポジウムは毎年開催され、医学教育部の活動として定着しているが、改善策については充分には検討されていない。

柴三郎 Jr. の発掘については、外部評価委員会での評価を受けている。HIGOプログラムについては、基礎コース2年次に社会文化科学のレポート発表会を開催し、また、4年コースについては、教員によるインタビューを実施し、学生の成果の状況を把握し、改善のための情報収集をしている。加えて、外部評価委員による改善の取り組みもされている(資料C-1-4-1-2)。(中期計画番号17、31、32、33、34、35)

資料C-1-4-1-1 大学院講義科目授業参観実施報告書

平成29年度 大学院医学教育部 授業参観実施報告書(抜粋)
<p>1. 授業参観の実施時期： 平成29年8月25日～平成29年11月30日</p>
<p>2. 授業参観の実施状況 大学院教育委員会が博士課程の「理論」科目(複数教員によるオムニバス形式)から4科目を指定した。そのうち3科目(細胞機能制御学理論、発生再生医学理論、機能再建医学理論)について、以下の方法により授業参観が実施された。 (実施方法) 指定された科目の各々の担当教員は、他の担当教員によるe-ラーニング授業を一つ以上選択して視聴し、授業視聴報告書を提出する。その後、科目ごとにメール会議等による意見交換を行い、科目主任が授業参観報告書に取り纏める。</p>
<p>3. 授業科目ごとの意見交換の内容 科目名：細胞機能制御学理論 担当教員：富澤一仁(科目主任)、他7名 【良い点】 ・全ての講義が英語化されている。 ・英語と日本語の両コンテンツを用意している講義も多く有り、留学生および日本人とも理解度が深まっていると思われる。 ・細胞機能制御に関する最先端の研究内容を大学院生に提供できている。 【改善すべき点】 ・コンテンツが5年ほどアップデートされていない講義がある。 ・レーザーポインターを用いている教員がおり、e-learningではどこを指しているのか分からず、学生も戸惑うと思われる。 ・動作が大きい教員の場合、時々マイクロフォンの音声が小さくなる。</p>

(出典：平成29年度医学教育部授業参観報告書)

資料 C-1-4-1-2 柴三郎プログラム成果報告会

柴三郎プログラム事業成果報告会が無事終了しました

2017-02-16

平成29年2月14日（火）熊本大学臨床医学教育研究センター 1 F 奥窪記念ホールにて、これまでの4年半の総括といたしまして、柴三郎プログラムの事業成果報告会を開催いたしました。



開催に先立ちまして、柴三郎プログラム運営委員長の西村泰治 生命科学部部長より開会の挨拶が行われ、引き続きまして、文部科学省高等教育局医学教育課の赤石 巨係長による特別講演が「基礎研究医養成プログラムの総括と今後について」と題して、お話しいただきました。

次に、柴三郎プログラム運営委員の富澤一仁より、4年半にわたる柴三郎プログラムの事業内容および活動報告が行われました。これまでの活動の成果が、これからやっと現れる段階でまだまだ発展途上ではあり、今後とも継続してこの教育活動をして行かなければならないという報告がありました。

（出典：柴三郎プログラムウェブサイト）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

大学院セミナーへの教員の参加、また、自己点検の取り組みは、今後の各教員の講義に反映されることが期待される。また就職支援活動により、修了者の高い就職率が得られている（前掲資料 P55 A-2-2-1-2）。

熊本医学・生物科学シンポジウムについては、その評価や改善のための取り組みはなされてこなかったが、柴三郎プログラムと HIGO プログラムについては、外部評価委員会が設置され、改善の取り組みがあり、評価できる。

4. 質の向上度の分析及び判定

大学の目的に照らして、社会貢献活動及び地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

(質の向上度)

重要な質の変化あり。

大きく改善、向上している。

(理由)

医学教育部での社会貢献および地域貢献活動の目的は、国際的に高水準な研究を大学院生に実践させる機会を提供し、その結果、医師・歯科医師免許証を有した大学院生に関しては、研究マインドを有した医師・歯科医師、医学研究者、医学教育者など、医療・医学分野で活躍する人材を社会に送り出すこと、また、医師・歯科医師でない大学院生については、医学・生命科学分野での研究者、教育者、企業人として有為な人材を社会に送りだし、また、我が国及び諸外国の医学・医療に貢献できる人材を育成することにある。さらに、在職中の社会人へ医学・生命科学研究の機会を提供することも、重要な社会貢献である。こうした観点において、医学教育部は、堅実に着実に社会貢献を果たしてきたといえる。

柴三郎プログラム ([tp://www.shibasaburo-kumamoto.jp](http://www.shibasaburo-kumamoto.jp))を通しての高校生の最新医学研究にふれあう機会の提供は、地元高校生に新鮮な知的好奇心を呼び覚まし、また、新たな研究医の発掘への一歩として重要な試みである。また、HIGOプログラムは、生命科学における専門性、国際性を持ちつつ、地域社会でのニーズに応じた牽引役となる人材を育成する特徴を持つプログラムであり、学生および修了者の起業につながるなどの成果を輩出している。

さらに、熊本医学・生物科学シンポジウムを通し、九州地区や熊本県内の大学の教員、大学院生及び学部学生に対して生物科学の最新的话题を提供することで、地域貢献への堅実な成果をあげてきた。

V 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

医学教育部における国際化の目的は、国際的に優れた研究に大学院生が従事すること、国際的に活躍できる人材を育成すること、外国人留学生の受け入れと育成・帰国後の交流を持続することからなる。この目的を果たすために、医学教育部では、分野横断的な教育の実質化や英語化されたカリキュラムの確立を推進してきた。

平成27年度～29年度は「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、3年間で15名の国費留学生が来日したことで、大学院授業科目の英語化を促進するとともに、日本人大学院生が英語を使ってディスカッションする機会が増え、国際化の基礎作りにも貢献した。また、中国からの政府派遣大学院生プログラム（中国国家建設高レベル大学公派研究生項目）からの留学生も受け入れた。HIGOプログラムでは、専門性、国際性、地域性を加味した日本人と外国人からなる多面的な人材育成プログラムを構築し、新たな国際化のあり方を試みている。さらに、平成29年度にタイ王国のマヒドン大学ならびにコンケン大学とダブルディグリープログラムを締結し、大学院教育の国際化を加速させている。

[想定する関係者とその期待]

日本人大学院生は、国際的に優れた研究を実践する機会や国際的な研究の場で研究者として活躍できる資質を形成する教育が提供され、外国人留学生との交流を通じて国際人としての意識を持てるようになれる事を期待している。一方、外国人留学生は、国際的に優れた研究に従事する機会、日本人との交流を通じ日本との友好関係を持続的に構築することなどを期待している。HIGOプログラムの大学院生にとっては、アジア・アフリカ地区、九州地方といった地域のニーズに応じた国際性に富んだ健康生命科学の専門家になれることを期待している。ダブルディグリープログラムでは、タイと日本で双方向性の研究指導を実施することにより、より深化した研究指導が提供できるとともに、研究だけでなく両国の文化、歴史、教育システムなどを理解する場を提供することにより真の国際人の育成が期待できる。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

医学教育部における国際化の優れた点は、分野横断的な教育の実質化や英語化されたカリキュラムの確立とともに、多様なプログラムを有していることである。医学教育部の教員は、国際的な研究教育拠点事業を構築している。また、中国国家建設高水準大学公派研究生項目からの留学生や、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の国費留学生、あるいは私費留学生など多くの留学生が大学院生として勉学に励んでおり、医学教育部の国際化の原動力となっている。さらに、HIGOプログラムでは、プログラム生の半数以上は外国人留学生であり（平成27年度：日本人10名、外国人22名；平成28年度：日本人28名、外国人28名；平成29年度：日本人30名、外国人33名）、大学院生と共通の演習などを実践することにより、国際化が強化されている。一方で、留学生に対する支援も充実させている。HIGOプログラムの留学生に対して毎月奨励金を支給し、また本学独自の奨学給付制度である熊本大学大学院博士課程奨学金給付制度(KDS)に私費留学生枠を設け、私費留学生に対して奨学金を支給している。更に、「研究大学強化促進事業」に採択されたことにより、医学教育部における国際的な研究の促進が行われている。

【改善を要する点】

英語化授業のさらなる推進、日本人大学院生の英語でのディスカッション能力を高める実効性のあるカリキュラムの構築、学位取得後帰国した外国人留学生と医学教育部との人材ネットワークの構築等、国際化を巡るさらなる強化が求められている。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

（観点到る状況）

医学教育部では、大学院教育委員会に国際部会を設置し、国際化に関する計画や具体的方針が提案され、提案された計画や方針について大学院教育委員会で議論し、承認された案について、大学院医学教育部教授会で議論し、承認している。承認された国際化に関する計画や方針は、平成27年度に英語でのウェブサイトを新たに構築し、広く公表している。また、英語シラバスの作成、講義の英語化、外国人留学生に向けた英語での丁寧な履修説明、博士及び修士課程の10月入学、入学試験のインターネットによる入学試験の実施など、国外からの留学生の受け入れ体制を整えている（資料 D-1-1-1-1～D-1-1-1-4）。また、HIGOプログラムは国際化プログラムであり、約半数が外国人である。講義や演習科目の英語化と併せてホームページを英語化し、本プログラムの国際化の目的と計画の公表、外国人チューターの配置など、国際化に努めている。

（中期計画番号 38、39、40）

資料D-1-1-1-1 医学教育部英語版ウェブサイト



[Japanese](#)

[Site map](#) [Kumamoto University](#)

- [| TOP](#) | [General Information](#) | [Education Program](#) | [Admissions](#) | [Departments & Researches](#) |
- [| Students Support](#) | [Access & Campus Map](#) | [Regional information](#) | [For Current Students](#) |



The Graduate School of Medical Sciences believes that it contributes to the human race globally through its research in the fields of medical sciences and biology. It aims to carry out high level medical and biological research centered on the medical sciences and medical treatment as well as to nurture international schools in these fields.

Faculty of Life Sciences	School of Medicine	Graduate School of Pharmaces
--------------------------	--------------------	------------------------------

 Advanced Education Program for Integrated Clinical, Basis and Social Medicine	 Glocal COE Program Cell Fate Regulation Research and Education Unit	 Glocal COE Program Glocal Education and Research Center Aiming at the control of AIDS	 Chinese Government Scholarship Overseas Study Program	 Program for Leading Graduate Schools HIGO Program
--	--	--	---	--

Institution Link

- [▶ Institute of Molecular Embryology and Genetics](#)
- [▶ University Hospital](#)
- [▶ Institute of Resource Development and Analysis](#)
- [▶ Center for AIDS Research](#)
- [▶ International Research Center for Medical Sciences](#)
- [▶ Library](#)

(出典：医学教育部ウェブサイト)

資料D-1-1-1-2 英語版シラバス (表紙)

Academic Year 2018

**The Graduate School of Medical Sciences
Kumamoto University
(Doctoral Course)**

**Student Handbook
Syllabus**

**The Graduate School of Medical Sciences
Kumamoto University**

URL: <http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/en/medgrad/>

For inquiry, please contact:

Student Affairs Section, Graduate School of Medical Sciences,
Kumamoto University

1-1-1 Honjo, Chuou-ku, Kumamoto-shi, Kumamoto 860-8556

TEL: 096-373-5029, FAX: 096-373-5030

E-mail: iyg-igaku-3@jimu.kumamoto-u.ac.jp

(出典 : 2018 年度医学教育部博士課程英語版シラバス)

資料D-1-1-1-3 入試のご案内（抜粋）

The screenshot shows the website interface for the Medical Education Department at Kumamoto University. The navigation menu includes '入試案内' (Examination Information), '大学院入試情報' (Graduate School Examination Information), and '医学教育部' (Medical Education Department). The '医学教育部' page features a '平成31年度募集要項' (Recruitment Information for Heisei 31) section with a table of exam details.

選抜区分	公表時期	願書受付期間	試験日	合格発表
医学教育部 (修士課程) 推薦入試 (PDF 2.13MB)	配布中 ※郵送を希望する 場合の返信用 切手: 250円分	平成30年 6月11日(月)～ 6月19日(火)	平成30年 7月7日(土)	平成30年 7月27日(金)
医学教育部 (修士課程) 《第1期募集》 社会人入試・外国人 留学生入試 (10月入学)含む (PDF 2.94MB)	配布中 ※郵送を希望する 場合の返信用 切手: 250円分	平成30年 7月24日(火)～ 7月31日(火)	平成30年 8月7日(火)	平成30年 8月24日(金)
医学教育部 (博士課程) 《第1期募集》 社会人入試・外国人 留学生入試を含む (PDF 2.88MB)	配布中 ※郵送を希望する 場合の返信用 切手: 250円分	平成30年 7月24日(火)～ 7月31日(火)	平成30年 8月7日(火)	平成30年 8月24日(金)
医学教育部 (博士課程) 《10月入学》 社会人入試・外国人 留学生入試を含む (PDF 3.26MB)	配布中 ※郵送を希望する 場合の返信用 切手: 250円分	平成30年 7月24日(火)～ 7月31日(火)	平成30年 8月7日(火)	平成30年 8月24日(金)
医学教育部 (修士課程) 《第2期募集》	配布終了 ※郵送を希望する 場合の返信用	平成30年 12月13日(木)～ 12月21日(金)	平成31年 1月31日(木)	平成31年 2月28日(木)

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 D-1-1-1-4 大学院入試選抜方法

4 選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、成績証明書及び志望理由書などの内容を総合して行います。

(1) 試験日時及び場所

試験日	試験科目等	時間	試験会場
平成30年8月7日(火)	英語 (TOEFL-ITP※) (辞書持込み不可)	9:00~11:20	熊本大学 医学部
	口述試験	13:00~	

※TOEFL-ITP テストは、Educational Testing Service(ETS)が提供する団体向けテストプログラムです。

【注意事項】

1. 学力検査は、英語 (TOEFL-ITP) 及び志望理由と入学後の研究 (口述試験) について行います。
2. 英語試験に際しては、辞書等の持込みは認めません。
3. 海外在住の志願者の口述試験は、インターネット面接または試験会場での受験とします。なお、これに志願する者は、事前に医学教育部所属の指導教員と十分に相談の上申し込むこと。

(出典：医学教育部博士課程学生募集要項)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

英語ホームページの開設と国際化計画・方針の公表、英語化授業の推進、外国人留学生の募集など国際化の基盤を整えている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

国際的な教育・研究環境の構築としては、英語でのウェブサイトの開設とシラバスの英語化を行った。また国際共同研究拠点である国際先端医学研究機構 (IRCMS) の教員 (外国人教員を含む) を医学教育部の教員とし、大学院教育の国際化を加速化させた。

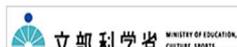
大学院生の研究環境については、医学系生命科学研究部各分野、生命資源研究・支援センター、発生医学研究所、エイズ学研究センター、IRCMS、医学部総合研究センターなどに最先端研究設備・機器を配置し、さらにこれらの機器を部局横断的に一括管理する組織・システムとして「熊本大学国際最先端生命科学研究コアファシリティ施設 (ICALS)」を設置した。さらに本施設の英語ウェブページを開設し、同施設で管理する設備・機器を英語ウェブ上で予約できるシステムを構築し、大学院生の国際的研究の遂行を図っている (資料 D-1-2-1-1)。

外国人の受け入れについては、英語でのウェブサイトによる入試案内 (資料 D-1-2-1-2)、博士および修士課程の 10 月入学の開設、国費留学生の受け入れ、私費留学生への KDS による援助 (資料 D-1-2-1-3)、交流協定校などとのシンポジウムの実施などを行ってきた (資料 D-1-2-1-4)。学生交流協定による短期留学生受け入れも行ってきた (資料 D-1-2-1-5)。一方、日本人大学院生については、国際奨学事業や柴三郎プログラムの研究活動支援事業などを設置し、海外派遣を積極的に支援した。(中期計画番号 38, 39, 40)



Mypage
Login / Sign up

Equipment
Search & Reservations



News & Topics

More >

All Technical seminar Events Other

2018/08/09 [Information of our new service "TEM sample preparation"]
News

2018/07/13 [IRCMS] July 19(Thu.) Multi Photon Laser Microscope (TCS SP8 MP)
Technical seminar

2018/07/10 [IRCMS] July 20(Fri.) Online FACS data analysis software "Cytobank".
Technical seminar

2018/07/02 National conference of MEXT's project (June 25-26)
News

2018/06/29 [SOUKEN] July 17(Tue.) New type capillary sequencer "seqstudio genetic analyzer" & real-time PCR "QuantStudio 3"
Technical seminar

2018/06/28 [SOUKEN] July 9(Mon.) Ultracentrifuge (BECKMAN COULTER)
Technical seminar

2018/06/18 [SOUKEN] Procedure for usage
News

2018/06/15 [ZEISS Microscopy Workshop : SOUKEN] June 26(Tue.) 27(Wed.)

(出典：ICALS ウェブサイト)

資料 D - 1 - 2 - 1 - 2 英語による入試案内 (抜粋)

Admissions
Entrance exam & classes

GSMS Admissions

■ Programs

- [General Selection](#)
- [Special Selection](#)
 - HIGO Program
 - Graduate School of Medical Sciences Doctoral Course, Kumamoto University, supported by Chinese Government Scholarship Overseas Study Program (根据中国政府国家公派研究生项目 (“国家建设高水平大学公派研究生项目”))

■ Entrance exam for general selection

October Admissions

Master's course

- 1st term [OPEN] [Guideline](#)

Application period Jul. 24 - Jul. 31 ,2018

- [1.Application form.doc](#)
- [2.Photo Identity Slip for Entrance Examination.doc](#)
- [3.Written Statement of Reasons for Application.doc](#)
- [4.Research Topic of Your Choice.doc](#)
- [5.Sheet to Affix the Certificate of Payment of Examination Fee.xls](#)

Doctral course

- 1st term [OPEN] [Guideline](#)

Application period Jul. 24 - Jul. 31 ,2018

- [1.Application form.doc](#)
- [2.Photo Identity Slip for Entrance Examination.doc](#)
- [3.Written Statement of Reasons for Application.doc](#)
- [4.Approval for Taking Entrance Examination.doc](#)
- [5.Sheet to Affix the Certificate of Payment of Examination Fee.xls](#)

April Admissions

Master's course

- 1st term [OPEN] [Guideline](#)

Application period Jul. 24 - Jul. 31 ,2018

- [1.Application form.doc](#)
- [2.Photo Identity Slip for Entrance Examination.doc](#)
- [3.Written Statement of Reasons for Application.doc](#)

(出典：医学教育部英語版ウェブサイト)

資料D-1-2-1-3 博士課程奨学金給付制度（KDS）採択状況

一般枠			私費留学生枠	
年度	採択者数	採択者のうち 留学生	年度	採択者数
27	17	0	27	8
28	17	0	27.10月	1
29	17	1	28	4
			28.10月	2
			29	4
			29.10月	2
※10月入学は、私費留学生枠のみ				
※採択者数は内定者を含む				

(出典 医学事務チーム教務担当資料)

資料D-1-2-1-4 交流協定校などとのシンポジウム実施状況

交流協定校とのシンポジウム開催状況（27年度～29年度）

開催期日	会場	シンポジウム名称
27.11.9	山東大学医学部	第11回日中交流国際生命科学シンポジウム
28.11.14	熊本大学医学教育図書棟6階 会議室	第12回日中交流国際生命科学シンポジウム
29.12.15	山東大学医学部	第13回日中交流国際生命科学シンポジウム

(出典 医学事務チーム教務担当資料)

資料D-1-2-1-5 大学間交流協定による短期留学生受け入れ状況

大学間交流協定による短期留学受け入れ状況			
年度	修士	博士	計
27	1	4	5
28	2	5	7
29	4	4	8
計	7	13	20

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

医学教育部は、「HIGOプログラム」、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」、「ダブルディグリープログラム」などにより、国際的な教育・研究機関として基盤を固めることができた。同時に、英語でのウェブサイトの構築やシラバスの英語化などを推進することができた。

日本人大学院生も、英語化授業、海外派遣事業など、外国人留学生との共同研究などを介して、英語コミュニケーション能力の向上が見られた。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

平成 28 年度～29 年度の大学院修士課程の外国人入学者は 5 名で、博士課程の外国人入学者は、37 名（私費留学生 21 名、国費留学生 16 名）からなる。また、同期間の修士号取得者は 2 名、博士号取得者は 31 名である。また、博士課程の留学生の進路は、研究職 7 名、大学教員 3 名、病院 2 名、技術職員 1 名、その他 2 名、不明・未定 6 名であった。修士課程の外国人留学生の増加や外国人留学生の医学教育部での学位取得率・就職率から、医学教育部の活動はある程度満足が行くものと判断される（資料 D-1-3-1-1～D-1-3-1-3）。

一方、日本人大学院生には、医学教育部の学生が在籍する施設は、「研究大学強化促進事業」にふさわしい研究機器を充実化し、国際レベルの研究を遂行できる環境を提供している。英語化した授業への出席率もある程度の水準を維持している。（中期計画番号 39、40）

資料 D-1-3-1-1 外国人留学生の入学者数（国費・私費別）

年度	博士			修士			非正規生	
	国費	私費	計	国費	私費	計	国費	私費
H27	4	12	16	0	2	2	1	8
H28	8	8	16	0	2	2	1	11
H29	8	13	21	0	3	3	2	11
合計	20	33	53	0	7	7	4	30

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 D-1-3-1-2 外国人留学生への学位授与一覧

○留学生学位取得状況（H27年度からH29年度）					
博士課程					
年度/区分	国費	私費	論文博士	計	備考
27	6	5	0	11	
28	6	4	1	11	
29	2	7	0	9	
計	14	16	1	31	

※区分は学位取得時で遡及修了者含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 D-1-3-1-3 留学生の進路状況

留学生進路状況（修士課程）										
年度	進学(①)	(内訳) 本学博士課程	(内訳) 他大学博士課程	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) 大学教員	その他 (③)	不明・未定 (④)	合計 (①+②+③+④)
H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
H29	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2

留学生進路状況（博士課程）												
年度	進学(①)	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) ポスドク	(内訳) 大学教員	(内訳) 病院	(内訳) 技術職員	(内訳) その他	その他(③) (研究員※)	不明・未定 (④)	合計 (①+②+③+④)
H27	0	6	4	0	1	0	0	1	0	2	4	12
H28	0	6	2	0	1	2	1	0	0	1	3	10
H29	0	7	3	0	1	1	1	1	0	1	3	11
計	0	19	9	0	3	3	2	2	0	4	10	33

※医学教育部研究員（無給）

※平成27年度、平成29年度は単位修得退学者を含む

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

外国人留学生の、学位取得状況および進学率とも良好な状況にあると思われる。日本人大学院生の英語コミュニケーション能力をあげるための英語化授業なども増加している。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

（観点到に係る状況）

改善のための取り組みとして、外国人大学院生のために講義案内、講義等の変更、各種奨学金など、大学院生に必要なすべての情報を英語ウェブページで提供するようにした。また、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」（資料 D-1-3-1-4）への応募、ダブルディグリープログラムの構築、山東大学など協定校とのシンポジウムを積極的に行い、国外の学生の獲得のための活動を強化した。また、外国人留学生の日本語教育を本部のある黒髪地区だけでなく、医学教育部のある本荘地区でも開講し始めた。また、英語化授業の促進、研究機器の整備、短期留学への援助枠の増加を目指した。（中期計画番号 38、39、40）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

留学生の増加、留学生の学習環境の改善、日本人大学院生の国際化とも、取り組みがなされている。

資料 D-1-3-1-4 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム公募要領
(抜粋)

<p>2017 年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」 公募要領 (大学院)</p>
<p>1. 目的</p> <p>本事業は、新たに海外から我が国の大学に留学する学生を国費外国人留学生として優先的に配置することにより、各大学において優秀な留学生を獲得する仕組みの構築を促すことを目的とする。</p> <p>各大学では、国・地域、留学生のニーズを把握し、特色ある教育研究サービス等を戦略的に提供するとともに、学生の募集・採用からフォローアップまでのケアを実効的に行う体制を構築することが求められる。</p> <p>本事業により、各大学における留学生獲得戦略と受入体制の強化が図られ、ひいては我が国の留学生の受入れの拡大と高等教育における国際競争力の強化を目指す。</p>
<p>2. 募集区分および審査区分</p> <p>(1) 募集区分</p> <p>以下の区分に応じ、募集し採択する。申請者は申請プログラムをいずれか 1 つの区分に対して応募する。なお、募集条件等は全ての区分において同一とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 成長戦略分野 ② 工学 ③ 医療 ④ 農学 ⑤ 社会科学

(出典：文部科学省ウェブサイト「公募要領」)

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を挙げていること。

(質の向上度)

重要な質の変化あり
大きく改善、向上している。

(理由)

医学教育部における国際化の活動の重要な要素である国際レベルの大学院生の成果は、「研究大学強化促進事業」に採択されたにふさわしい研究設備環境において、国際的な研究内容の発表が継続的に出されていることから、成果を上げていると判断できる。また、カリキュラム・シラバスの完全英語化、英語化された e ラーニングコンテンツの増加、ダブルディグリープログラムの構築、英語ウェブページからの組織横断的最先端研究設備・機器の予約システムの構築など国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を挙げている。

また、中国国家建設高水平大学公派研究生項目からの留学生とともに「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を獲得した結果、多数の外国人留学生の参加、さらに、平成 24 年度から HIGO プログラムも加わり、研究環境の改善、多数の外国人留学生の受け入れと日本人大学院生の外国人との交流の機会の増加などにより、国際化が強化・深化し続けている。

VI 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

医学教育部は、医学系生命科学研究部、発生医学研究所、エイズ学研究センター、生命資源研究・支援センター、附属病院、国際先端医学研究機構（IRCMS）などの教員による、医学研究者・教育者並びに高度医療人を育成する大学院教育組織である。医学教育部における管理運営の主な目的は、大学院教員の資格審査、大学院生への試験の実施と大学院生のリクルート、履修方法の説明、留学生への生活オリエンテーション、留学生への日本語指導、シラバスの充実、TA, RAなどの学業援助、各種奨学金案内、履修の確認、学位研究の指導、国内・国外研修などの調整、教員間の授業評価などによるFD、就職指導、パワーハラスメント・アカデミックハラスメント防止、学位審査などについて、適切に運営することを目的としている。これには、医学事務チーム教務担当の支援の元、大学院教育委員会と大学院学生委員会が実務を担当し、医学教育部教授会がその責任を負っている。医学教育部教授会は、医学教育部の大学院生などに関わる事項の管理運営の全てについて審議し、決定する組織である。留学生については、グローバル教育カレッジや国際教育課の支援を受けている。プログラムとして、柴三郎プログラムやHIGOプログラムがあり、それぞれにプログラム運営委員会を設置し、プログラムの運営を担っている。HIGOプログラムは薬学教育部、社会文化科学研究科、熊本創生推進機構と合同で運営している。

[想定する関係者とその期待]

大学院生は、良好な研究・教育環境の提供、国際的なレベルの優れた成果が上げられる研究の指導、高度医療人育成の指導を期待している。所属する教員は、良好な研究・教育環境の持続的な確立、および、資質の高い大学院生のリクルートを期待している。また、修了生、学生の就職先、共同研究関係者、地域社会からも、高度医療人育成が期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

医学教育部は、医学・生命科学の優れた大学院教育をすることが組織の目的であり、その達成のための意思決定システムは、教育委員会と学生委員会および医学教育部教授会からなる管理体制をとっており、各種規則は明確に制定されている。よりよい教育環境をもとめ、問題点や意見・要望が生じた場合、必要に応じて、柔軟に対応できる体制を構築している。

【改善を要する点】

各会議にかかる費用（紙媒体資料など）を抑制する必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

医学教育部の管理運営に関する事項を審議する組織として、教育委員会と学生委員会がある。これら委員会は、熊本大学大学院医学教育部教授会規則に則り、医学教育部教授会で選出された教授、准教授講師会から選出された委員で構成される。教育委員会は、大学院教員の資格審査、非常勤講師審査、教員のFD、入学試験の実施、シラバス作成、新入生オリエンテーション、留学生への日本語指導、TA、RAなどの学業援助、国内・国外研修などの承認、履修確認、学位審査、などに関わる。学生委員会は、学生生活における諸問題、奨学金、パワーハラスメント・アカデミックハラスメント防止、就職活動援助などを担当する。これら委員会は、医学教育部教授会の審議事項等への素案の提出や意見調整を担当している（資料 Z-1-1-1-1～Z-1-1-1-3）。

医学教育部の決定機関は医学教育部教授会である。熊本大学大学院医学教育部教授会規則に基づき、教員の資格審査、学位審査などの審議と承認が行われ、管理運営に関する事項が報告される。

事務組織としては、医学事務チーム教務担当（計9名）が事務支援（医学科の事務を含む）を行っている。これらの事務組織の編制と職制は、国立大学法人熊本大学事務組織規則に則っている（資料 Z-1-1-1-4）。

危機管理体制については、本学が定める「熊本大学危機管理規則」等に従い本教育部においても、緊急時の連絡網を整備している。また、火災時における消防組織の編成による緊急時の対応を整備している。（資料 Z-1-1-5～Z-1-1-6）

そのほか、ヘルシンキ宣言や各種臨床研究倫理指針等の趣旨に沿った倫理的配慮を図るための「熊本大学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規則」、「熊本大学における人を対象とする医学系研究に関する規則」（資料 Z-1-1-1-7）の法令遵守徹底を図り運用している。

また、衛生管理者・産業医が毎月行う職場巡視の結果を事業場に設置された安全衛生委員会で審議し、必要に応じて当該部署に改善指導を行うなどして、安全管理の改善を図っている。（中期計画番号 78、79）

資料 Z-1-1-1-1 医学教育部教授会規則（抜粋）

○大学院医学教育部教授会規則。

（趣旨）。

第1条 この規則は、熊本大学教授会規則(平成16年4月1日制定。以下「教授会規則」という。)第10条の規定に基づき、熊本大学大学院医学教育部教授会(以下「教授会」という。)に関し必要な事項を定める。

（組織）。

第2条 教授会は、次に掲げる者であって、医学教育部の教育を担当するもの(兼担を除く。)及び医学部附属病院長をもって組織する。

- (1) 生命科学研究部の専任の教授。
 - (2) 医学部附属病院の専任の教授。
 - (3) 保健センターの専任の教授。
 - (4) 発生医学研究所の専任の教授。
 - (5) エイズ学研究センターの専任の教授。
 - (6) 生命資源研究・支援センターの専任の教授。
 - (7) 国際先端医学研究機構の専任の教授。
 - (8) 生命科学研究部の併任教授。
 - (9) 第1号から第7号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから選出された者6人以内。
 - (10) 医学教育部の連携講座及びエイズ学研究センターの客員教授(以下「客員教授」という。)
 - (11) 第1号から第7号までに掲げる組織の研究分野、部等(以下「研究分野等」という。)で教授が配置されていないものの専任の准教授又は講師 当該研究分野等ごとに各1人。
- 2 前項第1号から第7号までに掲げる組織の研究分野等(生命科学研究部においては、併任教授が配置されている研究分野を除く。)において、専任の教授に欠員が生じた場合は、当該研究分野等の専任の准教授又は講師各1人を構成員とする。
- 3 第1項第9号の構成員は、同項第11号及び前項の構成員を兼ねることができる。
- 4 第1項第9号及び第11号の構成員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 5 第2項の構成員の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。

（審議事項）。

第3条 教授会は、学長が教授会規則第2条第2項に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、教育部長がつかさどる教育に関する次の事項について審議し、並びに学長及び教育部長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- (1) 学生の除籍及び懲戒に関する事項。
 - (2) 附属図書館医学系分館長候補者の選考に関する事項。

（出典：医学教育部教授会規則（抜粋））

熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会規則。	
	(設置)。
第1条	熊本大学大学院医学教育部規則(平成16年4月1日制定)第11条第2項の規定に基づき、医学教育部に熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会(以下「委員会」という。)を置く。
	(組織)。
第2条	委員会は、医学教育部の教育を担当する次に掲げる者をもって組織する。
	(1) 医学教育部副教育部長。
	(2) 生命科学研究所の専任の基礎医学系教授のうちから4人。
	(3) 生命科学研究所の専任の臨床医学系教授及び医学部附属病院の専任の教授のうちから4人。
	(4) 生命資源研究・支援センター、発生医学研究所、エイズ学研究センター及び国際先端医学研究棟構の分野責任者である専任の教授、准教授又は講師のうちから3人。
	(5) 第2号から第4号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから2人。
	(6) その他委員長が必要と認めた者 若干人。
2	前項第2号から第5号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えて在任することはできない。
3	第1項第2号から第5号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の在任期間とする。
4	第1項第2号から第5号までの委員は、熊本大学医学部医学系科教育・教務委員会委員と重複しないものとする。
	(審議事項)。
第3条	委員会は、次に掲げる事項を審議する。
	(1) 教育課程の編成に関する事項。
	(2) 学生の入学、終了その他在籍に関する事項。
	(3) 学生の授与に関する事項。
	(4) その他教育及び研究指導に関する重要事項。
	(委員長及び副委員長)。
第4条	委員会に、委員長を置き、第2条第1項第1号の委員をもって充てる。
2	委員会に、副委員長を若干名置き、第2条第1項第2号から第4号までの委員から、委員の互選により選出する。
3	委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
4	副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
	(議事)。
第5条	委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
2	委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
	(開催)。
第6条	委員会は、原則として月1回定例委員会を開催する。ただし、議長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。
	(意見の聴取)。
第7条	委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。
	(評会)。
第8条	委員会に、特定の事項を調査審議するため、評会を置くことができる。
2	評会に関し必要な事項は、別に定める。
	(事務)。
第9条	委員会の事務は、生命科学系事務課において処理する。
	(雑件)。
第10条	この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
	附 則 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
	附 則 この規則は、平成23年2月23日から施行する。
	附 則 この規則は、平成28年4月27日から施行する。
	附 則 この規則は、平成29年2月23日から施行する。

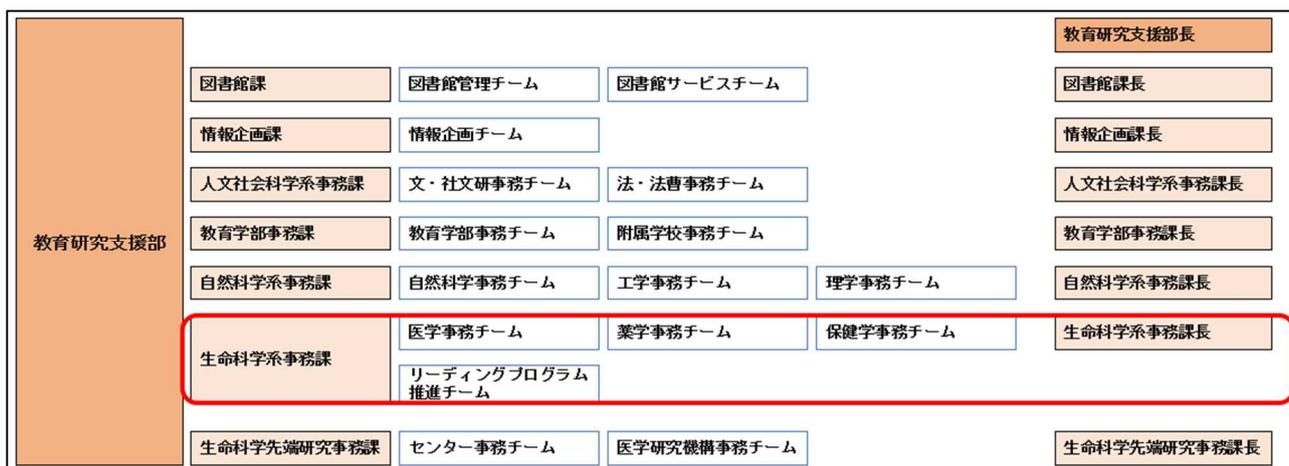
(出典：大学院教育委員会規則)

資料 Z - 1 - 1 - 1 - 3 大学院医学教育部学生委員会細則（抜粋）

熊本大学大学院医学教育部学生委員会細則	
（設置）	第 1 条 熊本大学医学教育部規則第 1 1 条の規定に基づき、本教育部に熊本大学医学教育部学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）	第 2 条 委員会は、医学教育部学生の厚生補導に関する問題について審議する。
（組織）	第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。 (1) 医学教育部の教授で医学教育部の教育を担当する基礎系・臨床系及びセンター系のうちから教授会で選出された者 2 人。 (2) 准教授及び講師のうちから選出された者 2 人。
（任期）	第 4 条 前条の委員の任期は 2 年とし、引き続いての再任は行わない。 2 前項の規定にかかわらず、前条の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長及び副委員長）	第 5 条 委員会に委員長と副委員長を置き、第 3 条第 1 項の委員から、委員の互選により選出する。 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
（議事）	第 6 条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（開催）	第 7 条 委員会は、必要に応じて開催する。
（意見の聴取）	第 8 条 委員長は、必要がある場合は委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。 （熊本大学学生部委員会委員の選出）
（事務）	第 9 条 熊本大学学生部委員会の委員は、第 3 条第 1 号の委員の互選により選出する。
	第 10 条 委員会の事務は、生命科学系事務課において処理する。

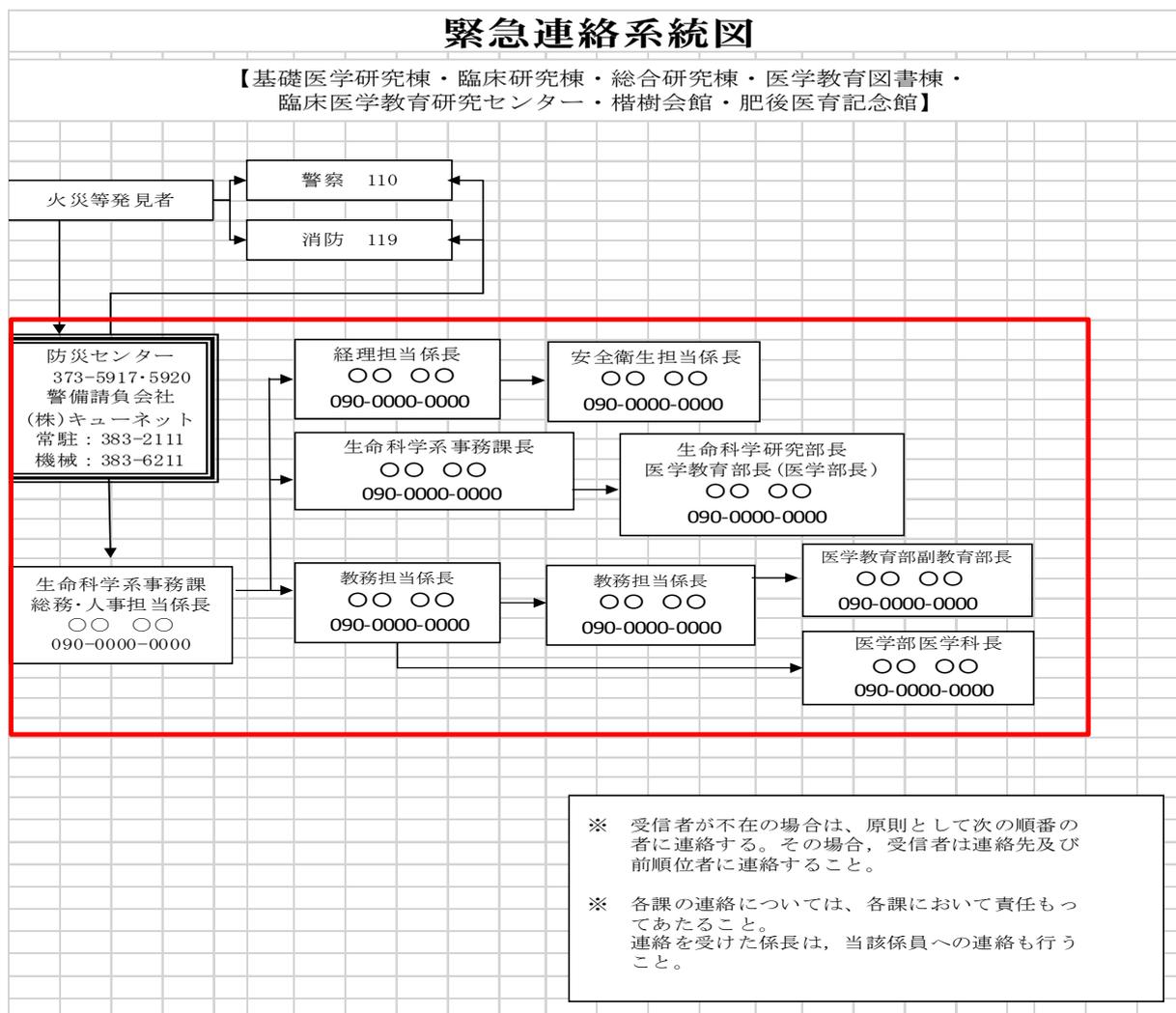
（出典：大学院学生委員会細則）

資料 Z - 1 - 1 - 1 - 4 生命科学系事務課組織図 (抜粋)



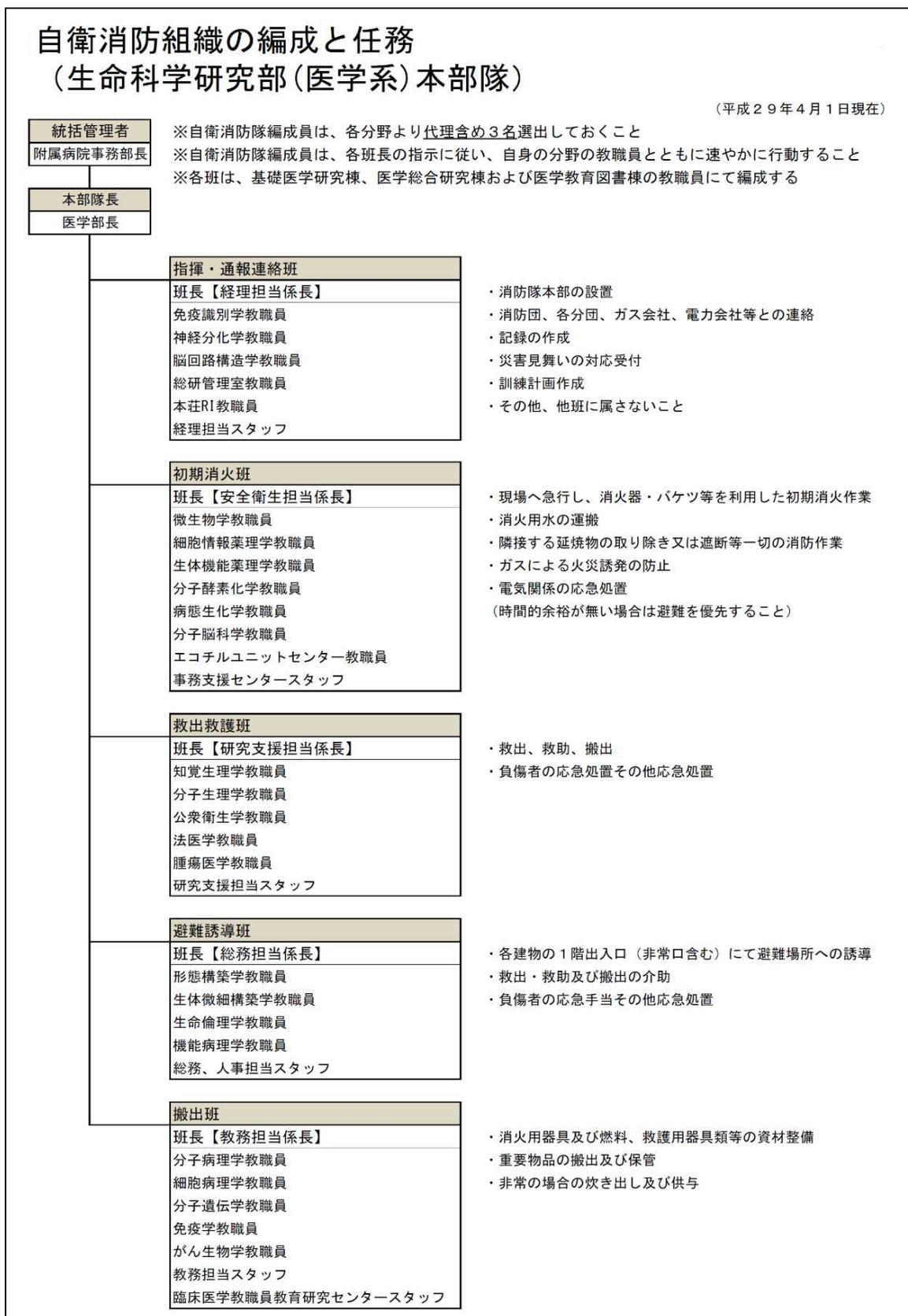
(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 Z - 1 - 1 - 1 - 5 緊急連絡網



(出典 生命科学系事務保有データから抜粋)

資料 Z-1-1-1-6 自衛消防組織編成表



(出典 生命科学系事務保有データから抜粋)

資料 Z-1-1-1-7

熊本大学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規則（抜粋）

熊本大学における人を対象とする医学系研究に関する規則（抜粋）

<p>○熊本大学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規則 (平成27年11月26日規則第288号)</p> <p>改正 平成28年7月28日規則第394号 平成28年5月24日規則第396号 平成29年3月31日規則第166号 平成29年5月25日規則第168号 平成30年3月22日規則第164号</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 熊本大学(以下「本学」という。)において実施するヒトゲノム・遺伝子解析研究(以下「研究」という。)に関する取扱いは、関係法令、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針(平成25年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号。以下「指針」という。)その他別に定めのあるもののほか、この規則の定めるところによる。</p> <p>(定義)</p> <p>第2条 この規則において「部局等」とは、別表左欄に掲げる研究を実施する部局等をいう。</p> <p>2 この規則において「部局等の責任者」とは、別表右欄に掲げる責任者をいう。</p> <p>3 前2項に規定するもののほか、この規則における用語の意義は、指針第6の16及び第7に定めるところによる。</p> <p>(学長の責務及び権限等の委任)</p> <p>第3条 学長は、実施を許可した研究について適正に実施されるよう必要な監督を行うとともに、本学における研究の実施に関する最終的な責任を負う。</p> <p>2 学長は、提供者の人権を最大限保障すべきこと及び指針、研究計画等に反した場合に懲戒処分等の不利益処分がなされ得ることについて、部局等の責任者、研究者等に対する周知徹底を図らなければならない。</p> <p>3 学長は、指針第2の4(2)に定めるところにより、研究の実施に関する研究機関の長の権限及び事務について、次に掲げる事項を除き、部局等の責任者に委任するものとする。ただし、学長自らがその権限及び事務を行うことを妨げない。</p> <p>(1) 指針第2の4(1)に規定する事項</p> <p>(2) 指針第6の18に規定する事項</p> <p>(部局等の責任者の責務)</p> <p>第4条 部局等の責任者は、この規則に定める事項の実施に関し、次に掲げる責務を有する。</p> <p>(1) 学長からの委任を受けて許可した、当該部局等で実施する研究に関する統括的な責任を有し、学長から委任を受けた権限及び事務について誠実に行うとともに、研究者等が研究計画に従って研究を適正に実施するよう監督すること。</p> <p>(2) 研究の実施に先立ち、研究者等が研究の倫理その他研究の実施に必要な知識に関する教育及び研修を受けることを確保するために必要な措置を講じること。</p> <p>(研究責任者の責務)</p> <p>第5条 研究責任者は、この規則に定める事項の実施に関し、次に掲げる責務を有する。</p> <p>(1) 研究の実施に先立ち、研究計画書を作成し、部局等の責任者の許可を受けること。研究計画書を変更しようとする場合も同様とする。</p> <p>(2) 研究計画書の作成に当たり、実施しようとする研究に伴い提供者等に予想</p>
--

(出典：熊本大学規則集)

<p>○熊本大学における人を対象とする医学系研究に関する規則 (平成27年11月26日規則第287号)</p>	
改正	<p>平成28年7月28日規則第393号 平成28年3月24日規則第395号 平成29年3月31日規則第167号 平成29年3月25日規則第167号 平成30年3月22日規則第163号</p>
<p>(趣旨)</p> <p>第1条 熊本大学(以下「本学」という。)において実施する人を対象とする医学系研究(以下「研究」という。)に関する取扱いは、関係法令、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号。以下「指針」という。)その他別に定めのあるもののほか、この規則の定めるところによる。</p>	
<p>(定義)</p> <p>第2条 この規則において「部局等」とは、別表左欄に掲げる医学系研究を実施する部局等をいう。</p> <p>2 この規則において「部局等の責任者」とは、別表右欄に掲げる責任者をいう。</p> <p>3 前2項に規定するもののほか、この規則における用語の意義は、指針第2に定めるところによる。</p> <p>(学長の責務及び権限等の委任)</p> <p>第3条 学長は、実施を許可した研究について適正に実施されるよう必要な監督を行うとともに、本学における研究の実施に関する最終的な責任を負う。</p> <p>2 学長は、指針第6の2(6)に定めるところにより、研究の実施に関する研究機関の長の権限及び事務について、次に掲げる事項を除き、部局等の責任者に委任するものとする。ただし、学長自らがその権限及び事務を行うことを妨げない。</p> <p>(1) 指針第6の1(1)に規定する事項</p> <p>(2) 指針第6の4に規定する事項</p> <p>(3) 指針第16に規定する事項</p> <p>3 学長は、前項第2号の事項の権限及び事務を行うに当たり、次条第8号又は第9号の規定により部局等の責任者から報告を受けた事項についても、速やかに厚生労働大臣及び文部科学大臣(第9号にあっては、厚生労働大臣)に報告し、公表しなければならない。</p> <p>(部局等の責任者の責務)</p> <p>第4条 部局等の責任者は、この規則に定める事項の実施に関し、次に掲げる責務を有する。</p> <p>(1) 学長からの委任を受けて、許可した当該部局等で実施する研究に関する統括的な責任を有し、学長から委任を受けた権限及び事務について誠実に行うとともに、研究者等が許可した研究を適正に実施するよう監督すること。</p> <p>(2) 研究の実施に携わる関係者に、研究対象者の生命、健康及び人権を尊重して研究を実施することを周知徹底すること。</p> <p>(3) 業務上知り得た情報を正当な理由なく漏らさないこと。その業務に従事しなくなった後も、同様とする。</p> <p>(4) 研究に関する業務の一部を委託する場合には、委託を受けた者が遵守すべき事項について、文書による契約にその旨含めるとともに、委託を受けた者に対する必要かつ適切な監督を行うこと。</p> <p>(5) 当該部局等で実施する研究に関連して研究対象者に健康被害が生じた場合</p>	

(出典：熊本大学規則集)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

大学院医学教育を本務とした組織の管理運営について、教育委員会と学生委員会および医学教育部教授会が、事務支援を受けて、適切に機能していると判断される。

事務組織による支援体制及び、危機管理体制についても適切に整備されている。

観点 構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

教職員からの意見、要望等は、毎月1回開催される医学教育部教授会や大学院教育委員会等の構成員を通じて、メールや文章や口頭など様々な経路で提出され、出された意見等については、検討の上、適切な形で管理運営に反映させている。

改善に繋がる実績の主な事例として、教員側からの要望に対しては、1) 大学院教育の実質化に伴って問題となっている講義時間帯の改善やeラーニングの充実などによる解決、2) 生命倫理学、研究者の行動規範および臨床研究に関する教育の充実、3) 各会議資料のペーパーレス化などを実施した。学生からの要望については、適宜アンケート調査などを実施して、1) 実質化された大学院講義に関する諸問題点の把握と改善、2) HIGOプログラムおよび柴三郎プログラムの学生への情報提供と履修希望者の実態ならびに要望の把握と改善、3) HIGOプログラム生に対する意見箱の設置、4) 学位論文申請に関する書類の一部ペーパーレス化、5) 博士課程大学院生に対する中間審査を実施し、大学院生の研究に関する問題、悩みの抽出と対応を行った。

なお、柴三郎プログラムとHIGOプログラムでは、外部評価委員会を設置し、学外関係者からの意見を求めている。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

意見やニーズの要望があれば、適切な形で、管理運営に反映する事ができる体制が構築されている。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

（観点に係る状況）

管理運営に関わる職員の研修は、平成28年度23名、平成29年度48名が参加しており、資質向上への取り組みを積極的に行っている（資料Z-1-3-1-1）。（中期計画番号82）

資料 Z-1-3-1-1 （事務職員研修状況一覧）

研修		
年度	参加人数	備考
平成27年度	66	熊本大学共通スキル育成研修 九州地区国立大学法人等テーマ別研修
平成28年度	23	情報セキュリティ研修 人事・労務関係実務担当
平成29年度	48	学務系職員研修会 旅費業務管理システム改修に係る説明会 ほか

（出典：生命科学研究部事務データを基に作成）

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

職員研修の取組は組織的に行われている。これらは、職員の資質の向上につながっていると思われ、期待される水準にあると判断する。また、医学教育部で独自の事案があれば、必要に応じて対応できる。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学教育部では、組織の活動の活性化を目的として、根拠となる資料・データに基づき、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」を定期的（第1回：平成19年度、第2回：平成26年度）に実施しており、実施後の自己評価書は、熊本大学のウェブサイトに掲載している。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/hyouka>

また、全学的に実施される法人評価及び認証評価のための自己点検評価も定期的に行っている。(中期計画番号70)

医学教育部固有の自己点検・評価は行っていない。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部は、全学的な自己点検・評価である組織評価を実施し、評価結果については本学ウェブサイトにて公表している。

教育部固有の自己点検・評価は行っていないが、教授会は常に自己点検の場で有り、構成委員からの意見を受け、対応を検討している。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学教育部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会（毎年度及び第1期：平成21年度、第2期：平成28年度予実施）に、認証評価（第1回：平成21年度、第2回平成27年度）は認証評価機関に定期的に評価を受けている。また、平成26年度に実施した組織評価では、経営協議会で検証を行っている。

医学教育部そのものは、外部評価は実施していないが、柴三郎プログラムとHIGOプログラムでは外部委員からの評価が行われている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会に、認証評価は認証評価機関に定期的に評価を受けている。また、平成 26 年度に実施した組織評価では、経営協議会で検証を行った。

柴三郎プログラムと HIGO プログラムでは外部委員からの評価が行われているが、医学教育部でも同様な組織が必要と思われる。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点到に係る状況)

全学的に実施する自己点検・評価である組織評価において、第 1 回および第 2 回評価実施後、自己評価書において主に改善を要する事項として評価した項目を中心に、学長から医学教育部長へ改善勧告が出された。これを受け、医学教育部では課題の把握に努めるとともに、その後複数年にわたるフォローアップにより改善の取組みを行った。なお、医学教育部独自の自己点検・評価・外部評価は実施していないので、フィードバックはできない。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

自己点検・評価実施に際しては、その評価結果に基づき、改善に向けた取組みを行っている。組織評価においては複数年にわたるフォローアップを行った。主なものとして、「教育目的及びその内容の周知と浸透について改善が必要」との点について、本学ホームページへ掲載を行い、周知を図ったこと、(資料 Z-2-3-1-1)「学生からの意見聴取について、早急に取り組む必要がある。」との点について、学生から授業に関するアンケートを実施し、講義の e-learning 化および英語化への促進を図ったこと、学位申請書類の一部ペーパーレス化などがあげられる。

資料 Z-2-3-1-1 医学教育部の教育目的

医学教育部

医科学専攻（修士課程）は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とします。

医学専攻（博士課程）は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とします。

専攻名		目的
修士課程	医科学専攻	医科学専攻（修士課程）は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とします。
博士課程	医学専攻	医学専攻（博士課程）は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とします。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的(学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

医学教育部の教育活動に関わることは、医学教育部ウェブサイト
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>に掲載され構成員及び学外者に公開されている。

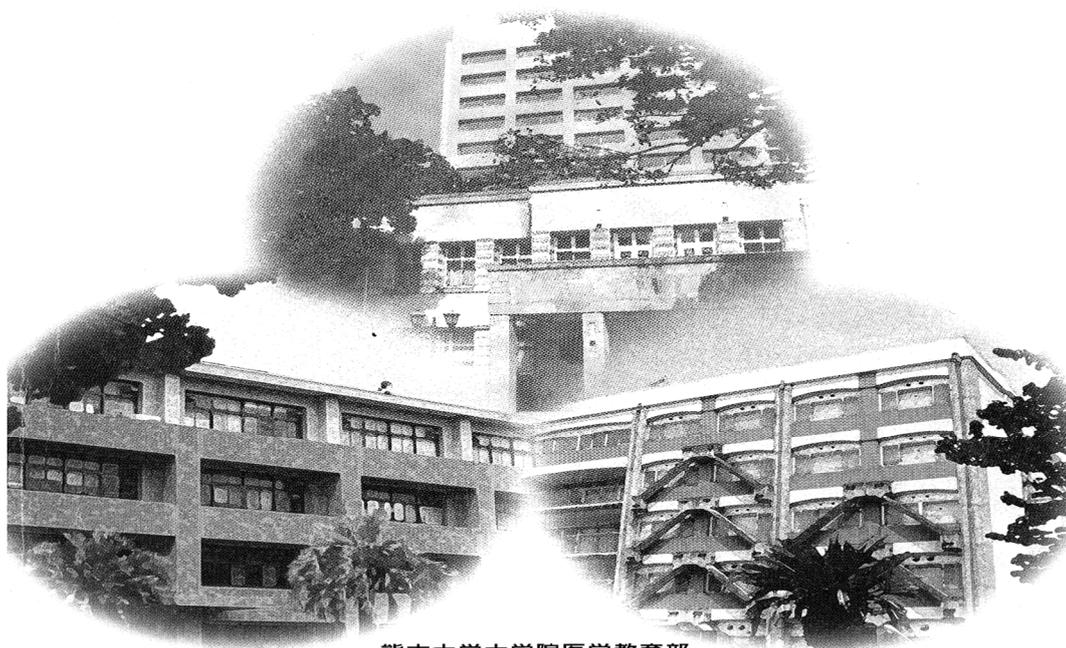
また、HIGOプログラム <http://higoprogram.org> および
柴三郎プログラム <http://www.shibasaburo-kumamoto.jp> についても公開されている。

毎年、研究活動の詳細を「分野別研究・教育課題一覧」として冊子で発行し、教員および学生に配布している。(資料 Z-3-1-1-1)

資料 Z-3-1-1-1 (医学教育部・薬学教育部・保健学教育部分野別研究・教育課題一覧)

平成29年度

医学教育部・薬学教育部・保健学教育部
分野別研究・教育課題一覧



熊本大学大学院医学教育部
熊本大学大学院薬学教育部
熊本大学大学院保健学教育部

 Kumamoto University

(出典：平成29年度医学教育部・薬学教育部・保健学教育部分野別研究・教育課題一覧(表紙))

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

構成員、学外者ともに医学教育部の教育研究活動についてウェブサイトからアクセスでき、教育活動の詳細も「分野別研究・教育課題一覧」で公開している。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

医学教育部のウェブサイト <http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp> には、入学者受け入れ方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されている。

また、大学院入試説明会や新入生履修ガイダンスの際にも説明し、周知している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

構成員、学外者ともに医学教育部の教育研究活動についてウェブサイトからアクセスできる。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

医学教育部のウェブサイト (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>) には、教育研究活動状況を広く内外に公表している。また、薬学教育部と共同で、毎年、研究活動の詳細を「分野別研究・教育課題一覧」にとりまとめ、冊子として発行している（前掲資料 P104 Z-3-1-1-1 参照）。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究活動状況を広く内外に公表しているので、標準的な水準にあると判断されるが、就職状況、進路選択や健康などに関する支援の掲載は十分とは言えない。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本荘（医学部）地区では、北地区（医学部医学科及び附属病院）が 82,463 m²、中地区（主に研究センター）25,088 m²、南地区（医学部保健学科）25,761 m²の校地面積を有している。南地区に体育館 1,446 m²、テニスコート 3 面、バレーコート 1 面があり、これらは医学部医学科と保健学科で共有している。体育館は多くのクラブ活動で利用されており、そのため特に放課後のクラブ活動での使用ではスペース的にも十分とは言えない。医学部医学科が使用している医学教育図書棟の講義室及び実習室は、北地区にあり、主に学部学生が使用しているが、一部大学院学生も共有している（資料 Z-4-1-1-1）。医学部保健学科が使用している講義室及び実習室は、南地区にあり、学部学生と大学院学生が使用している。医学部医学科及び保健学科の講義室・実習室等の利用率は平成 27 年度 39～63%、平成 28 年度 31～65%（資料 Z-4-1-1-2）。平成 20 年に医学教育図書棟が北地区に建設され、講義室と実習室の利便性の向上が図られた。研究部医系教員の研究室は北地区にあり、旧臨床研究棟は 9,416 m²、基礎研究棟は 10,933 m²の広さを持ち、利用率はほぼ 100%である。平成 28 年 4 月の熊本地震により、耐震化されていなかった旧臨床研究棟は倒壊により安全基準を満たさなくなったため、地震以降閉鎖した。平成 30 年度以降に取り壊す計画である。他の施設は、耐震化されていたため、補修などを施し、地震後も利用している。平成 28 年 11 月に新臨床研究棟（13,451 m²）を建設し、利用率はほぼ 100%である。総合研究棟は 9,830 m²であり、総合研究スペース、RI 施設、法医学解剖、病理解剖、解剖実習室等が

あり、教員及び学生に広く利用されている。また、山崎記念館 864 m²も北地区にあり講演等に使用される。バリアフリーの対策は、研究棟、講義棟、病院でなされている。

北地区、南地区、大江地区ともに火災等の異常にともなう警備会社へ通報され、また敷地内における警備員の巡回も行っており、安全面、防犯面において配慮がなされている(資料 Z-4-1-1-3)。(中期計画番号 75、78)

資料 Z-4-1-1-1 (熊本大学ウェブサイト「キャンパス情報」)



〒860-8556 熊本中央区本荘1丁目1番1号

01	西病棟	07	旧管理棟	13	本荘北3 (医学総合研究棟)
02	東病棟	08	山崎記念館 【登録有形文化財】	14	本荘北4 (基礎医学研究棟)
03	中央診療棟	09	福利厚生棟	15	本荘北5 (臨床医学教育研究センター)
04	外来診療棟	10	設備管理棟	16	看護部宿舎
05	管理棟	11	臨床医学研究棟	17	第一立体駐車場
06	外来臨床研究棟	12	本荘北2 (医学教育図書棟)	18	第二立体駐車場

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 Z-4-1-1-2 「講義室・演習室の使用状況」(抜粋)

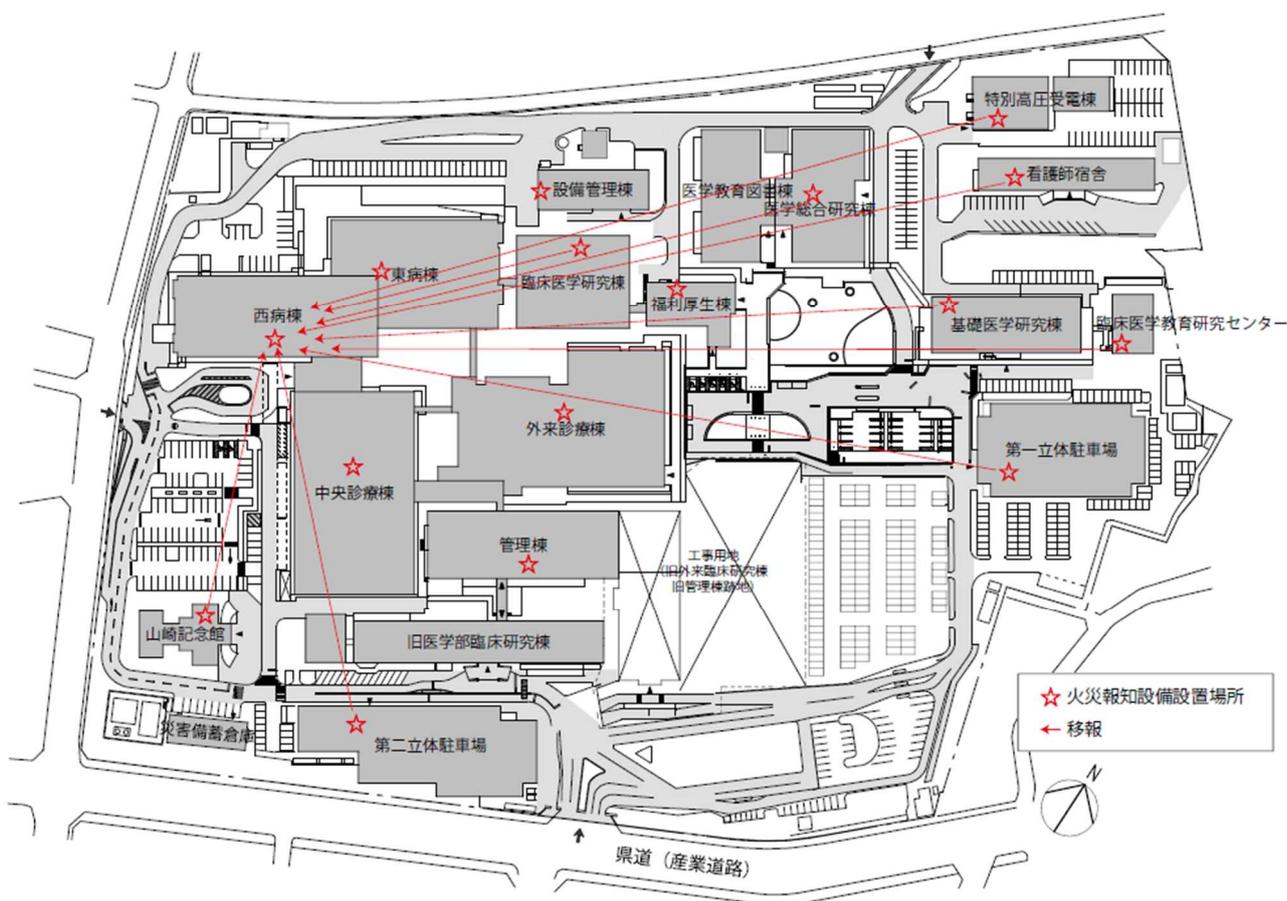
② 講義室、演習室等の使用状況



学部等名	規模収容人員	教室数	使用度数	H25使用率(%)	H26使用率(%)	H27使用率(%)	H28使用率(%)
医学部	21~50	2	10	↓ 33	↓ 32	→ 39	↑ 45
	51~100	5	7	↑ 39	↑ 38	↑ 39	↓ 31
	101~200	4	13	↓ 58	↓ 56	↑ 63	↑ 64
	201以上	2	9	↓ 38	↓ 39	↓ 40	↑ 44

(出典：熊本大学年報)

資料 Z-4-1-1-3 火災報知器設備等信号系統図(本荘北地区)



(出典：生命科学系事務課資料)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

本荘地区においては、教育研究を行うために十分な施設が整っている。耐震基準を唯一満たしていなかった臨床研究棟が熊本地震により安全上使用できなくなったが、耐震基準を満たした新臨床研究棟を建築した。このことから概ね整備され、期待される水準にあると判断する。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本荘地区においては、全学的な教育・研究用のコンピューターネットワークが各研究棟等に構築されている。また、本荘地区にも全学無線 LAN 基地局が設置され、運営は総合情報統括センターを核として全学的に行われている(資料 Z-4-2-1-1)。医学部医学科学生及び医学教育部大学院学生のための情報ネットワーク室は本荘北地区の総合研究棟内に整備され、CBT などの実施が行われている(資料 Z-4-2-1-2)。また、図書館にインターネットへのアクセスが可能な設備が整えられている。ネットワークの利用の手引きは、全学的に共有され、共通の手引き書が発行されている。授業科目については、eラーニングの普及に努めている。(中期計画番号 K82)

資料 Z-4-2-1-1 全学無線 LAN 基地局の設置場所(本荘・九品寺地区)

本荘北地区



(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 Z-4-2-1-2 PC 実習室一覧

本荘・九品寺地区	医学部総合研究棟3F 情報教育実習室 医学部図書館内 保健学科(A204・B201) 保健学科図書室
-----------------	---

(出典：総合情報統括センターウェブサイト)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

大学ウェブサイトには学事計画、教員の専門分野等が記載されており、学生と教員間の情報交換の場ともなっている。学内情報ネットワークは概ね整備され有効に活用されていると判断する。

医学教育部では、講義のeラーニング化が着実に発展している。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

附属図書館医学系分館は、延床面積 2,440 m²、閲覧座席数 218、和書 71,597 冊及び洋書 109,834 冊の蔵書である。視聴覚資料は 124 点、PC 38 台を備え、年間開館日数は 346 日と土・日・休日も開館しており、学内貸出冊数は 7,522 冊である。医学系分館は 2 名の専任職員及び 2 名の臨時職員（2 名が司書資格を有する）で運営されている（資料 Z-4-3-1-1、Z-4-3-1-2）。

電子ジャーナルは全学的に契約されており、その契約数は 8,612 件である。

(中期計画番号 75)

資料 Z-4-3-1-1

施設(附属図書館)調査票

図書館名	延床面積(m ²)	閲覧座席数	専任職員数		臨時職員数		外部委託	
				司書資格者数		司書資格者数		司書資格者数
医学系分館	2440	218	2	2	2	0	0	0
薬学部分館	654	58	0	0	0	0	2	0

(出典:生命科学系事務保有データを基に作成)

資料 Z-4-3-1-2 図書館利用案内

医学系分館			
	通常期の平日	休業期※の平日	土・日・休日
開館	9:00~21:00	9:00~17:00	12:00~18:00
貸出・返却・更新・予約	9:00~21:00	9:00~17:00	12:00~18:00
他機関への相互利用 (複写, 資料の貸借)	9:00~16:30		-
レファレンス(参考調査)	9:00~17:00		-
グループ学修室の利用	9:00~20:30	9:00~16:30	12:00~17:30
休館日	休業期間中の土・日・休日, 年末年始, 夏季一斉休業日, その他の臨時休館日		

(出典:熊本大学附属図書館ウェブサイト)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学系分館では、研究教育上必要な資料を備えており、系統的に整備されていると判断する。書庫、図書スペースなどの整備も備わり、有効に活用されていると判断する。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

大学院生の自主学習の場は、各大学院生の所属する研究室および附属図書館医学系分館が、それにあたる。研究室の自主学習環境については、大学院生用の学習スペースが用意されていて、無線および有線 LAN の接続が可能な環境にある。医学系図書館分館については、無線 LAN の利用が可能で、平日は午前 9 時から午後 9 時まで、土曜・日曜は正午から午後 6 時までと開館されて、効果的に利用されている。また、e ラーニングの普及率は 63% と自主学習に対応している。(中期計画番号 75)

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

各研究室および附属図書館医学系分館における自主学習環境は整備されていて、大学院生により有効に活用していると判断される。e ラーニング科目も増加している。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

(質の向上度)

質を維持している。

(理由)

医学教育部は、大学院生の教育に特化した組織で有り、教務委員会と学生委員会と事務組織が一体となった実行部門が、平成20年度に実施した改組（博士課程の4専攻から1専攻への改組）以降も効率よく運営され、医学教育部教授会も意思決定機関としての確に機能している。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

(質の向上度)

質を維持している。

(理由)

医学教育部の自己点検・評価は全学的な組織評価において実施されている。平成21年度以降、医学教育部としては固有の自己点検・評価は行っていないが、必要に応じて改善するための体制は整備されているため、標準的な質は保たれている。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

(質の向上度)

質を維持している。

(理由)

医学教育部のウェブサイトでの学内外への公表、また、毎年作成している分野別研究・教育課題一覧等の冊子体において、適切に公表され、説明責任が果たされている。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

(質の向上度)

高い質を維持している。

(理由)

「発生・再生医学研究者養成コース (H20 開設)」、「エイズ制圧を目指した研究者養成コース (H18 開設)」、「HIGO プログラム (H24 開設)」などの教育コースの設置、「グローバル COE (H19～H23)」、「グローバル COE (H20～H24)」、「柴三郎プログラム (H24～現在)」、「九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (H24～現在)」、「博士課程教育リーディングプログラム (HIGO プログラム) (H24～現在)」などによる教育プログラムに係る資金獲得による実験機器等の導入、生命資源研究・支援センターの「マウスクリニック」の開設などにより、大学院教育のための教育設備の充実が可能となった。本荘地区における無線 LAN 基地局の設置による ICT 環境の整備、附属図書館医学系分館の建設も自主学習環境上、有意義であった。以上の観点から、医学教育部の設備などの整備は、高い質を維持していると判断できる。